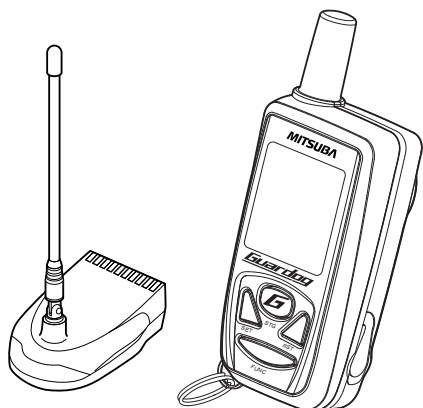


MITSUBA

Guarddog MITSUBA SPECIAL CAR SECURITY ALARM SYSTEM **V-1 V-10**

取付・取扱説明書（保証書付）



- ☆このたびは、ガードッグV-1/V-10をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。
- ☆ご使用になる前に、本冊子を必ずお読みいただき、正しくご使用ください。
- ☆お読みになった後も、本冊子は必要ときに確認できるよう大切に保管してください。
- ☆本品を譲渡される場合や別の車に取り付け直す場合も、本冊子を必ず本品に付帯させ、お使いになる人が、いつでも見られるようにしてください。
- ☆本品は、日本国内でのみご使用いただけます。

この取付・取扱説明書では安全上重要な項目に下記のマークを表示しています。各マークの意味は次の通りです。

- ⚠ 危険** …… 取り扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う危険性が高いことを意味します。
- ⚠ 警告** …… 取り扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が想定されることを意味します。また法律に違反することを意味します。
- ⚠ 注意** …… 取り扱いを誤った場合、傷害を負う危険が想定されることを意味します。また本品を損傷、故障させる恐れがあることを意味します。

U-PZ-0414A

	ページ
はじめに	
■安全に使用するための注意	4～6
■安全に取り付けるための注意	6～7
■商品の特長	8～11
■パッケージセット内容	12
■主要部品の名称	13～16
■お使いになる前に	
□電池の挿入	17
□リモコンを充電する	18
操作方法	
■リモコンの操作方法	
□電源の入れ方・切り方	19
□マナーモードの設定／解除	20
□ボタン操作禁止の設定／解除	21
■警報機の基本操作	
□警報機を動作させる(警戒ON)	22
□警報機を停止させる(警戒OFF)	23
□3警戒ステージ×3警報モードについて	24
□警報機の警戒パターンを変更し、動作させる	24～25
□使用頻度の高い警戒パターンを登録する	26
□異常を感知したときの通報内容一覧	26～27
□異常を感知したときの警報内容一覧	28～30
□車両側の警報を停止させる	31
□リモコンの通報音のみ停止させる(ミュート機能)	31
□警報履歴を確認する	32
□カーファインドを動作させる	33
□パニックアラームを動作・停止させる	34
□警報機のみ停止する	35
□ドアのみ施錠する	36
□ドアを解錠する	37
□リモコンのエラー表示について	38
■警報機の応用操作	
□バイブレーション機能の併用設定／解除	39
□リモコン操作時のアンサーバック音切り替え方法	40
□通報音切り替え方法	41
■充実の警報履歴通知機能	42
■充実の安心機能	
□警戒パターンメモリー機能	43
□本体のオートスリープ機能	43
□リモコンのオートスリープ機能	43
■エンジンスターター基本操作(V-10のみ)	
□エンジンを始動する	44～45
□エンジンを停止する	46
□タイマーによる自動停止	46
□ガソリン／ディーゼル車の設定	47
□アイドルリング時間の設定	47
□グロー時間の設定	48
□キー始動学習機能の設定	49

	ページ
操作方法(つづき)	
□ターボタイマーの設定／解除	50
□ターボタイマーを動作させる	50
□ターボタイマーを停止させる	50
■振動センサーの感度調整方法	51
取付方法	
■基本接続図	
□V-1基本接続図	52
□V-10基本接続図	53
■取り付け作業	
□取り付け前の事前準備	54
□取り付けレイアウトイメージ	54
□メインハーネスの配線	54～55
□振動センサーの取り付け	56
□サイレンの取り付け	56
□アンテナユニットの取り付け	57
□ハザードハーネスの配線(任意)	57
□ドアロックハーネスの配線(任意)	58～59
□本体の取り付け	60
□車種別専用ハーネス(別売)の接続(V-10のみ)	60～61
□中継ハーネスの接続(V-10のみ)	61
□エンジンスターターユニットの取り付け(V-10のみ)	61
□オートマチック車の登録(V-10のみ)	62
□基本動作の確認	63～64
□仕上げ	65
■オプションセンサーの取り付け	
□基本配線方法	66
□オプションの振動センサー配線方法	66
□特殊配線方法	67
■威嚇警報オプションの取り付け	
□スキヤニングLED(別売)の取り付け	68
□ボイスモジュール(別売)の取り付け	68
■その他オプション配線方法	
□車載ホーンへの配線方法(選択)	69
□フットブレーキ検出方式への変更(V-10のみ)	70
□L端子検出方式への変更(V-10のみ)	71
□ドアスイッチ配線方法(V-10のみ)	72
□ボンネットスイッチ(別売)の取り付け(V-10のみ)	73
その他	
■故障かな?と思ったら	74～75
■リモコンの電池交換について	76
■リモコンの購入について	76
■仕様	77
■設定内容確認表	78
■アフターサービスについて	79
■保証書	80

安全に使用するための注意

安全に使用するための注意

はじめに

はじめに

安全上の注意

危険

- 電池の⊕⊖の逆挿入は、絶対に行わないでください。電池が漏液・発熱・破裂し、故障の原因となります。
- 付属の充電アダプターで充電を行う前に、リモコンに装着された電池が、当社指定の充電電池であるか必ず確認してください。当社指定以外の充電電池および1次電池(アルカリ電池・マンガン電池等)を装着して充電を行うと、電池が漏液・発熱・破裂し、故障の原因となります。特に未使用の1次電池を充電した場合、漏液・発熱・破裂などの発生率が高くなります。
- ニッケル水素電池の液が、誤って目に入った場合は、こすらず、ただちに水道水で充分洗浄し、すぐに医師の診断を受けてください。失明の原因となります。

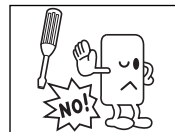
警告



サイレンは、大音量のため、耳のそばで動作させたり、長時間試聴しないでください。耳に障害を与える恐れがあります。



動作を確認する際は、必ず車の外に出てから行ってください。また周囲に人がいないことを確認してください。ショックを与える恐れがあります。



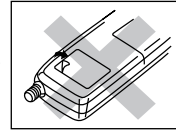
本体・振動センサー・エンジンスタートユニットのコネクター部にドライバー等の金属を接触させたり、異物を入れたりしないでください。内部でショートし、発火する恐れがあります。



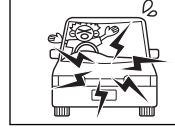
リモコンの電池を交換した際は、幼児の手の届かないところにおいて、早めに処分してください。万一飲み込んでしまった場合やもれた液をなめたりした場合は、すぐにうがいをして医師に相談してください。



人(特にお子様)やペットが車内にいるときは、絶対に警報機を動作させないでください。警報を発生し、耳に障害を与える恐れがあります。



リモコンおよびアンテナユニット裏面のラベルを絶対に、はがさないでください。ラベルのないものを使用することは、法律で禁じられています。



警報機を動作させた状態で、運転しないでください。重大な事故の原因となります。



本品は、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けております。分解・改造することは、法律で禁じられていますので、絶対に行わないでください。

- 心臓ペースメーカーなどの医療機器を使用している人は、必ず医師や医療機器製造者などへ相談の上、使用してください。また医療機器への影響を防止するため、病院内では必ずリモコンの電源をOFFにしてください。
- ニッケル水素電池の液が、誤って皮膚に付着した場合は、こすらず、ただちに水道水で充分洗浄してください。異常がある場合は、医師の診断を受けてください。

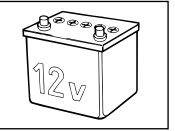
注意



本品は、国産車専用です。並行輸入車・外国車へは、取り付けできません。



リモコンを落としたり、硬い物にぶつけないでください。またアンテナは、引っぱったり、曲げたりしないでください。故障の原因となります。



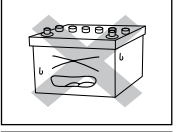
本品は、12V車専用です。24V車へは、取り付けできません。



動作確認で車に振動を与える場合は、強く叩きすぎてケガをしないように気をつけてください。またガラスやボディー等が、破損しないように充分注意してください。



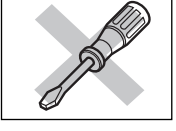
リモコンは、高温になる場所に放置しないでください。変形や変色・故障の原因となります。



車のバッテリーが弱っている場合や車本来の機能に不備がある場合は、正常に動作しないことがあります。



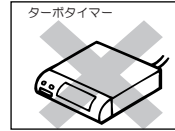
本品は、防水構造ではありません。水がかからないように注意してください。特に衣類のポケット等に入れたまま洗濯したり、水の中に落としたりしないでください。故障の原因となります。またエンジンルームの洗浄の際は、一旦サイレンを外してください。ショートし、火災・故障の原因となります。



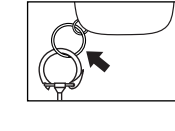
本品の分解・塗装・改造は絶対に行わないでください。火災・故障の原因となります。

安全上の注意(つづき)

注意(つづき)



他のエンジンスタートやターボタイマー・盗難警報装置との併用は、絶対に行わないでください。故障や誤動作の原因となります。



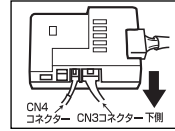
リモコン本体にキーホルダー等を取り付ける場合は、必ず付属のホルダーリングに取り付けてください。破損の原因となります。

- ヒューズを交換する際は、ヒューズ部が高温となって、火傷する恐れがあります。また使用中は、ヒューズ周辺の温度が上がります。
- リモコンが汚れた場合は、薄めた中性洗剤を布に染み込ませ、よく絞ってから拭き、乾いた布でもう一度拭いてください。ベンジン・シンナー等は、絶対に行わないでください。変形や変色・故障の原因となります。
- 長期間リモコンを使用しない場合は、すみやかに電池をリモコンから取り出してください。電池の漏液や錆の発生・電池の性能低下や寿命低下の原因となります。

危険 V-10の場合

- 車にボディーカバー等を掛けた状態で、使用しないでください。火災の恐れがあります。
- リモコンでエンジンを始動するときは、車の近くに燃えやすい物がないことを確認してください。火災の恐れがあります。
- 密閉されたガレージ内では、使用しないでください。排気ガスが充満して危険です。
- 人(特にお子様)やペットが車内にいるときは、絶対にエンジンを始動しないでください。お子様やペットの思わぬ動きが、重大な事故の原因となります。
- ボンネットを開けるときは、本体のMODE2スイッチメニューの1「EGS/パワースイッチ」を切ってください。重大な事故の原因となります。

警告 V-10の場合



- オプション品の取り付けで、エンジンスタートユニットのリッドを外した場合は、CN3、CN4のコネクター面が下を向くように固定してください。
- 「EGSシリーズ適用車種一覧表」の最新版で適用されている車へのみ取り付けできます。
- 斜面で使用する場合は、必ず輪止めをしてください。

注意 V-10の場合

- 本品でエンジンをかけているときは、エアコン(ヒーター)以外のスイッチをOFFにしてください。リヤ熱線や大容量のオーディオ等を併用すると、本品のヒューズが切れることがあります。
- 暖気運転を行った直後に運行前点検を行うと、火傷する恐れがあります。

使用上の注意

- 本品は、車両へのいたずらや盗難に対して警告・警報を発するものであり、車両盗難や車上狙い等を防止するものではありません。本品を取り付けたお車が、万一盗難やいたずら等の被害に遭われても、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。また故障・誤動作等により警報機が使用できなかった場合の付随的保証についても、同様に当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 車から離れる際は、確実に施錠されたことを確認してください。
- 下記のような環境下で使用した場合は、警報を発することがあります。
 1. 強風・豪雨・雷雨・台風等の気象条件の場合。
 2. 地震が起きた場合。
 3. 線路付近・幹線道路沿い・工事現場付近・飛行場付近等の振動が発生する場所。
- 本品の近くで大出力の無線機等を使用されると、無線機の発する電磁波で、誤動作や不動作となる場合があります。
- 本品のリモコンの電波到達距離は、周囲の環境・アンテナユニットの設置状態・リモコンの取り扱いによって変化します。一般的に建物内や周囲に鉄筋コンクリートの建物があったり、高圧送電線や大出力の無線機等のノイズ発生源があったりすると、電波到達距離が短くなります。またアンテナやリモコンを手などで覆っても、同様に短くなります。
- 金属製のアタッチケース等にリモコンを入れて使用すると、電波を通さないため通報を受信できません。
- エンジンキーや純正キーレスで施錠した場合、車両の持つセキュリティ機能が動き、本品のリモコンで解錠できなくなる車があります。その際は、リモコンで警報機を解除してから、エンジンキーまたは純正キーレスで解錠してください。
- 運転席ドアが施錠状態で他のドアが解錠状態のとき、リモコンで施錠操作を行っても、他のドアが施錠しない車があります。その際は、リモコンで解錠操作を行ってから施錠操作を行ってください。
- 運転席ドアが解錠状態で他のドアが施錠状態のとき、リモコンで解錠操作を行っても、他のドアが解錠しない車があります。その際は、リモコンで施錠操作を行ってから解錠操作を行ってください。

安全に使用するための注意

安全に取り付けるための注意

使用上の注意(つづき)

V-10の場合

- エンジンスターターを使用する際は、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPレンジの位置にしてください。
- リモコンでエンジンを始動し、走行後エンジンを停止すると、Pレンジ以外でもエンジンキーが抜ける車があります。このような車は、付属の「安全センサーケーブル」でドアスイッチ配線を行い、乗車前に一旦エンジンを停止させてください。エンジンキーにて再始動することで、Pレンジ以外でエンジンキーが抜けることはありません。詳細は、72ページの「ドアスイッチ配線方法」を確認してください。
- オートライト装着車に取り付けオートの状態で使用した場合、夜間にリモコンでエンジンを始動すると、車のライトが点灯しリモコンでのエンジン停止や自動停止後に消灯しません。バッテリー上がりの原因となりますので、ライトスイッチはOFFの状態で使用してください。一部の車種は「オートライトアダプター」(別売)を取り付けることで、オートの状態でも使用できるようになります。
- エンジンキーでエンジンを始動したときに充電警告灯が消えない場合は、エンジンスターターの使用を止め、車の点検・整備をしてください。
- オートチルトおよびマイコンプリセットステアリング装着車に取り付けた場合、リモコンでのアイドリング中にエンジンキーを差し込んでステアリングは動きません。エンジンを停止し、エンジンキーにて再始動してください。付属の「安全センサーケーブル」をドアスイッチ配線に接続することで、ドアを開けると同時にエンジンを停止させることもできます。詳細は、72ページの「ドアスイッチ配線方法」を確認してください。
- 寒冷地では、エンジンがかかりにくいことがあります。スターター動作時間3秒以内で、エンジンが始動するように車を整備してください。
- バッテリーが弱っている車や改造車は、正常にエンジン始動できない場合があります。
- 環境保護のため、必要以上のアイドリングは行わないでください。
- エンジンスターター(ターボタイマー含む)は、公道上で使用しないでください。公道上での使用は、違法となります。

安全に取り付けるための注意

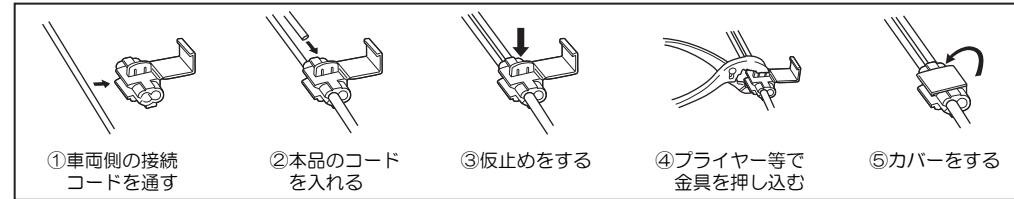
取り付け上の注意

- 危険** ●本品を車に取り付ける際は、必ずエンジンキーを抜き、不用意にエンジンがかからない状態で作業してください。重大な事故の原因となります。
- 警告** ●本品の各ユニットのコネクター部にドライバー等の金属を接触させたり、異物を入れたりしないでください。内部でショートし、火災・故障の原因となります。
●本品の各ユニットは、運転の妨げになる場所やエアバッグの動作を妨げる場所に取り付けしないでください。事故の原因となります。
●ハーネス類等は、ステアリングシャフトやペダル類の可動部付近に固定しないでください。運転操作の妨げになり、事故の原因となります。
●配線したハーネス類は、ビニールテープや結束バンド等で確実に固定してください。また車のカバーや内張り等で配線類が挟み込まれたりすると、断線やショートし、火災・故障の原因となります。
●取り付け後に、各ユニットや配線類が、しっかり固定されているか確認してください。固定が不十分だと脱落し、事故の原因となります。
●ハザードハーネスの赤/白コード(常時電源線)の配線は、車両側のハザード電源線以外の場所に接続しないでください。車両のヒューズ切れや事故の原因となります。
- 注意** ●テスターで電圧を確認する場合を除き、バッテリーケーブルのマイナス端子を外して作業を行ってください。外さずに作業すると配線がショートし、火災・故障の原因となります。外しかたについては、車両搭載装置に悪影響を与える恐れがありますので、お近くのカーディーラーやサービスマニュアル等で確認してください。
●本品の各ユニットは、防水構造ではありません。水がかからない場所に取り付けてください。火災・故障の原因となります。
●本品の各ユニットは、エアコンの吹き出し口付近に取り付けしないでください。高温になったり結露し、故障の原因となります。
●エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックしてください。エレクトロタップの金属部分が、車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テピングすることをお奨めします。
●車のカバーやドアの内張りを外す際は、部品を破損しないように慎重に作業してください。カバーや内張りが元に戻らなくなる恐れがあります。
●サイレンを取り付ける場合、エンジンの排気装置等極端に高温になる場所やグリルまわり等の直接水がかかるような場所に取り付けしないでください。故障の原因となります。
●振動センサーは、しっかりと固定してください。固定が不十分だと感度が鈍くなります。
●アース線を固定する場合、塗装されている金属部分や車の振動等で緩んでしまうような場所に接続しないでください。動作不良の原因となります。
●ヒューズユニットは、必ず車両側の青色(同じ定格電流)ヒューズと差し替えてください。色の違うヒューズと差し替えた場合、ヒューズが切れたり、車両側に悪影響を与える恐れがあります。
●接続していない端子部は、ビニールテープ等で絶縁処理してください。ショートし、火災・故障の原因となります。

取り付け上の注意(つづき)

- 取り付け工具について
ドライバー・プライヤー・ニッパ・スパナ・アナログテスター(検電ランプは使用不可)等の工具は、本品には同梱されていません。別途用意してください。
- 注意** ●必ずテスターを使用してください。検電ランプを使用すると、車両の回路破損等の故障の原因となります。

●付属のエレクトロタップ(赤色)の接続方法



取り付け可能な車種

(1)V-10の取り付け可能な車種

- 「EGSシリーズ対応車種一覧表」の最新版に記載されている車であること。
「EGSシリーズ対応車種一覧表」の最新版を確認の上、車に適合した当社の専用ハーネスを使用してください。また他のエンジンスターターやターボタイマー用ハーネスを流用・加工しての取り付けは、絶対にしないでください。
- スターター動作時間3秒以内で、エンジンが始動できる車であること。

- 対応車種は、以下の条件を考慮して選定しております。
- オートマチック車であること。(マニュアル車にはお取り付けできません。)
 - 国産車であること。
 - 電子燃料噴射装置搭載車であること。

(2)ドアロック配線が可能な車種

- V-1の場合
店頭の「ドアロック対応車種一覧表」の最新版を確認してください。車によって別売商品が必要となります。
- V-10の場合
店頭の「EGSシリーズ対応車種一覧表」の最新版を確認してください。車によって別売商品が必要となります。

(3)ハザード配線について

本品のハザード点滅回路で、車両側のハザードを点滅させることができない車があります。販売店または当社第二事業部技術サービスまでお問い合わせください。

セキュリティ機能

3警戒ステージ×3警報モードシステム搭載

どんな環境下においても安心してお使い頂けるよう、警戒の異なる3つのステージと警報の異なる3つのモードを準備し、その組み合わせにより合計9つの警戒パターンを設定できるようにしました。それぞれの特徴をよく理解していただき、使用する環境に最適と思われる警戒パターンでご使用ください。

●3警戒ステージ

【警戒ステージ1】

外乱振動の少ない環境下で使用する場合に設定します。このステージは、全てのセンサーで警戒を行います。

【警戒ステージ2】

線路付近や交通量の多い幹線道路沿い等、外乱振動の発生があらかじめ予測できるような場所で使用する場合に設定します。振動センサーの「小振動」およびオプションセンサー「レベル3」(別売)以外のセンサーで警戒を行います。

【警戒ステージ3】

「警戒ステージ2」よりも、さらに外乱振動が多発するような場所(機械式駐車場等)で使用する場合に設定します。このステージは、誤動作の少ないドアスイッチセンサーおよびオプションセンサー「レベル1」(別売)で警戒を行います。

●3警報モード

【警報モードA】

感知したセンサーが、通常の警報(30秒/5秒/1秒)を行う設定です。

【警報モードB】

「近所迷惑が気になるので、警報を長時間鳴らしたくない。」という場合に設定します。ドアスイッチセンサー以外の警報は、全て1秒警報となります。(ドアスイッチセンサーのみ30秒警報)

【警報モードC】

「近所迷惑が気になるので、警報を鳴らしたくない。」という場合に設定します。ドアスイッチセンサー以外の警報はサイレンで行いません。(ドアスイッチセンサーのみ30秒警報)

安心の2重監視システムを標準装備

●ドアスイッチセンサー

信頼のドアスイッチセンサーを標準装備しました。ドアを開けられるという最も重大な状況に対して、確実にセンサーが感知します。

●2段階振動センサー

大小2段階の振動を感知する振動センサーを標準装備しました。ガラス割り等の外部から加えられる衝撃に対して、確実にセンサーが感知します。

充実の警報システムを標準装備

●サイレン警報

120dBの6音色サイレンを標準装備しました。異常を感知すると、6音色のサイレンを120dBの音圧で警報し威嚇します。

●ハザード警報

ハザード警報を標準装備しました。異常を感知すると、ハザードを点滅させ威嚇します。

●アンテナユニットLED警報

アンテナユニットLED警報を標準装備しました。異常を感知すると、アンテナユニットのLEDを点滅させ威嚇します。

●車載ホーン警報

標準装備のサイレンでなく、車載ホーンを警報させる機能も搭載しています。異常感知したときの警報を車載ホーンで行い、威嚇効果を更に発揮します。

LED威嚇機能搭載

警報機動作中は、アンテナユニットのLEDで点滅を行い、警戒中であることを周囲にアピールし威嚇効果を発揮します。

セキュリティ機能(つづき)

充実の警報履歴通知機能搭載

●ボタン操作時の警報履歴通知機能

リモコンが異常感知通報を受信した場合、最初のリモコンボタン操作時に警報履歴を表示させる機能です。リモコンへの通報に気づかなかった場合でも、ボタン操作時に再度警報履歴を表示することで、見逃しを防止します。

●定期通信による警報履歴通知機能

警報履歴を本体からリモコンへ定期的に通信する機能です。リモコンが通信圏外にあった場合でも、定期通信「約3分に一度」を行うことで、リモコンへ警報履歴を確実に通知します。

●警報機停止時の警報履歴通知機能

リモコンが異常感知通報を受信した場合、警報機停止操作時に警報履歴を表示させる機能です。警報機を停止したときに警報履歴があったことを再度表示し、再認識していただきます。

●電源投入時の警報履歴通知機能

リモコンの電源投入時に車両の状態を確認する機能です。警報機動作中にリモコンの電源が切れてしまった場合でも、電源投入時に車両の状態を確認することで、警報履歴を確実に通知します。

パニックアラーム機能搭載

パニックアラームとは、警報機の動作有無に関係なく強制的に警報を30秒間鳴らすことができる機能です。不審者が車に近づいたときなど、強制的に警報を発したい場合に使用します。

豊富なオプションセンサー

オプションセンサーを取り付けることにより、お車に合わせた監視を実現します。

名称	センサーレベル	監視位置	機能
鍵穴センサー (品番: TKP-01)	レベル2	・ドアの鍵穴	キーシリンダー付近で発生する金属音を感知します。ピッキング対策です。
エリアセンサー (品番: TKP-02)	レベル3	・車内外	車内または車外へ電磁バリアを張り巡らせ、エリア内への物体の接近を感知します。
パーツ保護ワイヤー (品番: TKP-03)	レベル1	・ナビ ・オーディオ等	パーツが外されたことを感知します。パーツ盗難対策です。
2段階振動センサー (品番: TKP-04)	レベル3	・車体ボディ ・ガラス	車体に加えられた振動を2段階で感知します。主にガラス割り対策です。
超音波センサー (品番: TKP-05)	レベル2	・車内	車内に超音波を張り巡らせ、車内侵入を感知します。車上狙い・車両盗難対策です。
赤外線センサー (品番: TKP-06)	レベル1	・車内	車内に赤外線を張り巡らせ、車内侵入を感知します。車上狙い・車両盗難対策です。

威嚇警報オプション

●スキャニングLED(BLUE)【品番: TKP-07】

青の超高輝度LEDによるスキャニング点滅で威嚇効果を発揮します。警報状態も確認できるインテリジェントLEDです。

●スキャニングLED(WHITE)【品番: TKP-08】

白の超高輝度LEDによるスキャニング点滅で威嚇効果を発揮します。警報状態も確認できるインテリジェントLEDです。

●ボイスモジュール【品番: TKP-09】

多彩なメッセージを収録したボイス機能を搭載。日本語/英語による音声と電子音にて警報を発します。動作状態も確認できるインテリジェントアラームユニットです。

リモコン機能

充電式リモコン採用

本品は、充電式リモコンを採用しています。1回の充電時間は約6時間で、セーブ機能が働くまで約100時間監視可能。
※リモコン操作および警報通知が一度もなく、車両側の異常を監視した場合のみの時間です。使用環境により変化します。

多彩な液晶画面警報通知

車の警報状態を3色のバックライトで液晶画面に表示。バックライトの色で車の異常状態が一目で判断できるようにしています。また感知したセンサーと警報時間・サイレンで警報を行っているかアイコンで確認できます。

●バックライト表示

赤:本警報 橙:注意警報 黄:威嚇警報

●アイコン表示

■:ドアスイッチセンサー感知 〰:振動センサー小振動感知 ■():サイレン警報
〰:振動センサー大振動感知 〰:オプションセンサー感知

●警報時間表示

30s:30秒警報 5s:5秒警報 1s:1秒警報

リモコン操作時のアンサーバック音切り替え機能搭載

リモコン操作時のアンサーバック音を音声/ブザー音に切り替えることができる機能です。

通報音切り替え機能搭載

リモコンの通報音を音声/ブザー音に切り替えることができる機能です。

マナーモード機能搭載

リモコンの操作音や通報音などを消音し、バイブレーションにて確認できるようにする機能です。周囲に迷惑がかかる環境下で使用する場合に設定します。

ボタン操作禁止機能搭載

リモコンのボタンをロックし、不用意なボタン操作ができないようにする機能です。リモコンが通報音を発している場合のみ、通報音と車両側の警報を(RST)ボタンで停止することができます。

バイブレーション機能搭載

リモコンの発する音に合わせてバイブレーションを動作させ、音と振動にて確認できるようにする機能です。

ミュート機能搭載

リモコンの通報音のみ途中で停止することができる機能です。この機能は、リモコンの通報音のみ停止し、車両側は継続して警報を行います。

オートスリープ機能搭載

リモコンの電池容量を確保するための機能です。2つのモードで段階的に電池の消耗を抑え、電池の負担を軽減します。

●低電圧モード

アイコン表示が1目盛(□)になった時点で、低電圧モードの通知音「ビビビビビビビ」が鳴り、バックライトとバイブレーションの機能を停止します。

●スリープモード

低電圧モードの通知音「ビビビビビビビ」が鳴ってから約3分後、強制的に電源を切ります。その後は、再度電源を入れることで警報機停止操作(警戒OFF)が、5回程度行えます。このような状態になった場合は、すぐに充電を行ってください。

その他機能

カーファインド機能搭載

警報機の動作有無に関係なく強制的にサイレンとハザードを2秒間動作させることができる機能です。広い駐車場などで車両の位置を確認する際に使用します。

動作確認音消音機能

リモコン操作時の車両側の動作確認音を消音することができる機能です。「近所迷惑が気になるので、警戒ON/OFFの確認音を出したくない。」という場合に設定します。この場合は、アンテナユニットのLED・ハザードで動作の確認をしてください。

ドアロック機能搭載

リモコン操作で、ドアの施錠および解錠ができるようにする機能です。ただし、車種によって取り付けできなかつたり、別売商品が必要となります。

本体オートスリープ機能搭載

車両のバッテリーを保護する機能です。3つのモードで段階的にバッテリーの消耗を抑え、負担を軽減します。

●省エネモード

7日間連続で警報機を動作させた場合、省エネモードに入り、ドアスイッチセンサー以外のセンサーを全て停止します。またアンテナユニットのLED表示も遅い点滅となります。ただし、スリープモード1の条件(14日間エンジンを始動しない)が、省エネモードの条件よりも先に当てはまると、スリープモード1に入ります。

●スリープモード1

下記どちらかの条件に当てはまるとスリープモード1に入り、ドアスイッチセンサー以外のセンサーを全て停止します。またアンテナユニットのLED表示も停止します。
【スリープモード1の条件】
・14日間連続で警報機を動作させた場合。
・14日間エンジンを始動させない状態が続き、そのとき警報機が動作していた場合。

●スリープモード2

14日間エンジンを始動させない状態が続き、そのとき警報機が停止していた場合、スリープモード2に入り、本体機能を全て停止します。

警戒パターンメモリー機能搭載

警報機が動作中に警報機の電源(バッテリー等)が切られた場合でも、電源が切られる前の状態を警報機が記憶し、電源が再投入された時点から再度警戒を開始する機能です。行為的に電源が切られた場合でも、警報機は自動停止しません。

リモコン増設機能搭載

リモコンは、最大4個(本品リモコン含む)まで登録可能です。

V-10の機能

エンジンスターター機能搭載

リモコン操作で、エンジンの始動/停止を行うことができる機能です。

ターボタイマー機能搭載

アフターアイドルリングを行う機能です。運転状況により、アフターアイドルリング時間を自動的に設定します。

アイドルリング時間設定機能搭載

エンジンスターター始動後のアイドルリング時間を設定する機能です。「5分/20分/30分」のいずれかに設定できます。

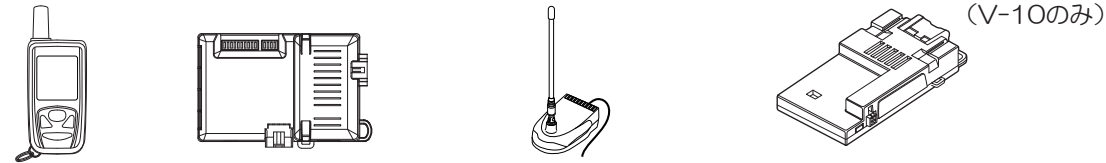
パッケージセット内容 ※接続前に、内容物をお確かめください。

主要部品の名称

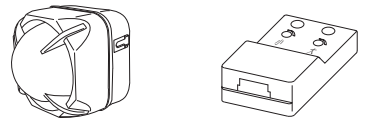
はじめに

はじめに

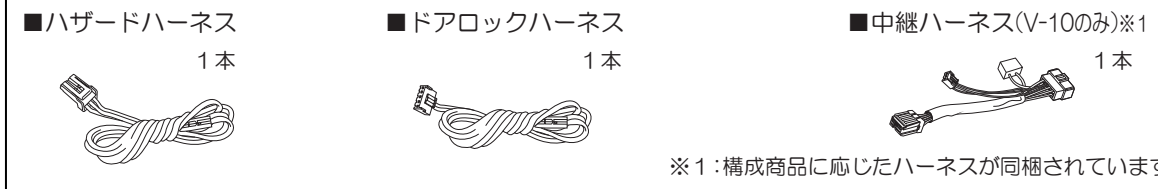
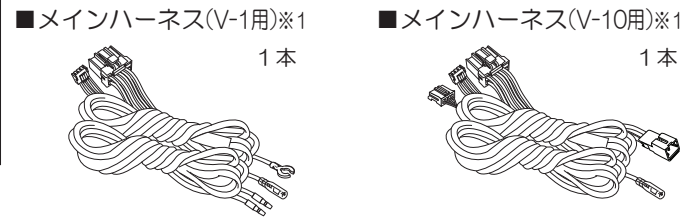
リモコン 本体 アンテナユニット エンジンスターターユニット (V-10のみ)



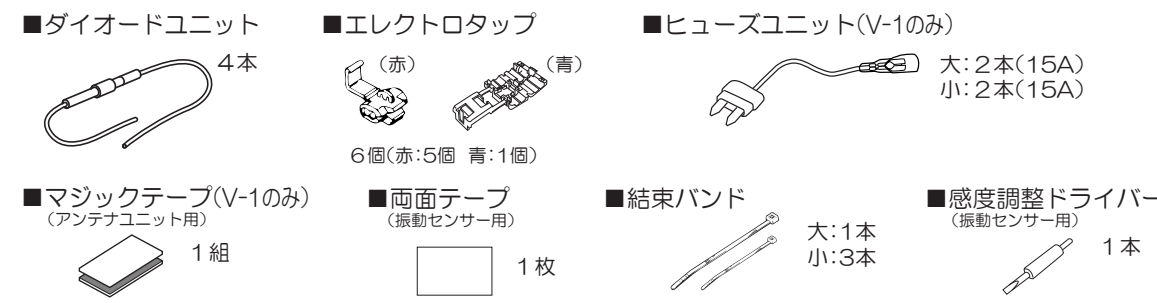
サイレン 振動センサー



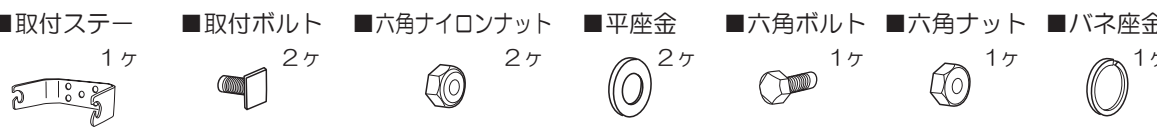
ハーネス



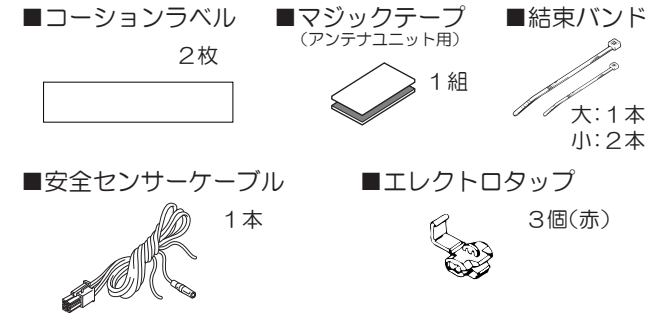
付属品セットA



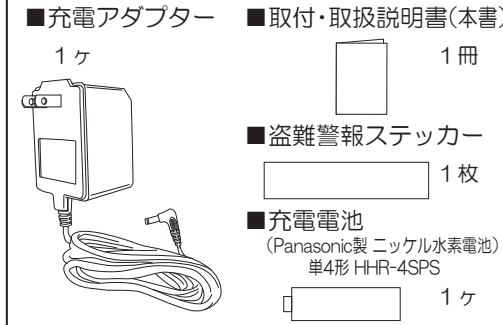
付属品セットB



付属品セットC (V-10の場合)



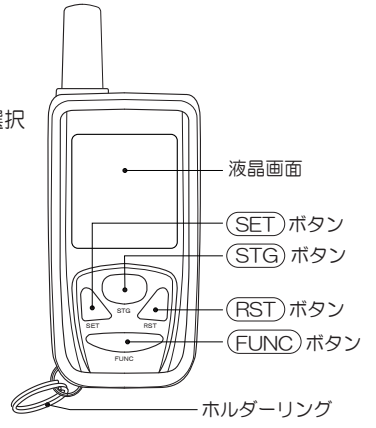
その他付属品



リモコン

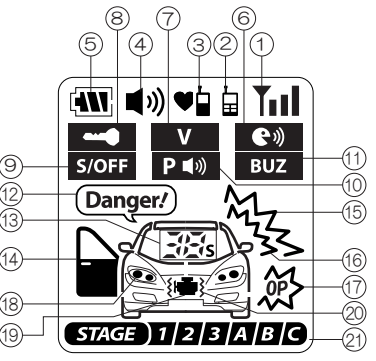
【ボタンの説明】

- :ボタン短押し操作内容 ★:ボタン長押し操作内容
- SET** ●警戒ON ●警戒ステージ_警報モードの選択
 ★マナーモードの設定/解除 ★ボタン操作禁止の設定/解除
- STG** ●警戒ステージ_警報モードの選択
 ★ボタン操作禁止の設定/解除
- RST** ★電源ON/OFF ●各種設定/付加機能操作
 リセット ★警戒OFF ★警報履歴の確認
 ●警戒停止
- FUNC** ●各種設定/付加機能操作
 ★警報履歴の確認
- SET** + **FUNC** ★パニックアラーム動作開始



【アイコンの説明】

- ...受信電波強度を3段階で表示。電波送受信時に表示。
 【電波受信強度の表示内容】
 ●電波受信強度が強い: (アンテナ3本表示)
 ●電波受信強度が弱い: (アンテナ1本表示)
 【送受信表示】
 送信動作: → → → ... (くり返し)
 受信動作: → → → ... (くり返し)
- ...点灯時:ボタン操作可能
 消灯時:ボタン操作禁止
-マナーモードに設定した場合に表示。
-サイレン吹鳴時に表示。
-リモコン電池残量を3段階で表示。
 【電池残量表示】
 満充電状態 ←————→ 充電が必要な状態
 (3個点灯表示) (2個点灯表示) (1個点灯表示)
-リモコン操作時のアンサーバック音または通報音を音声に設定した場合に表示。
-バイブレーションに設定した場合に表示。
-ドアをロックした場合に表示。
 (ドアロックハーネスの配線有無に関係なく、リモコンの操作状態を表示します。)
- S/OFF**ドアを解錠せずに、警報機を解除する場合に表示。(S:セキュリティの意味)
- P**カーファインド(車両の位置確認)動作時に表示。(P:パーキングの意味)
- BUZ**リモコン操作時のアンサーバック音または通報音をブザー音に設定した場合に表示。
- Danger!**異常感知通報や警報履歴を受信した場合に表示。(警戒OFFするまで常時表示)
-警報時間・通信エラー内容・リモコンの登録No.を表示。
-ドアスイッチセンサーが異常を感知した場合に表示。
-振動センサーが強い振動を感知した場合に表示。
-振動センサーが弱い振動を感知した場合に表示。
-オプションセンサーが異常を感知した場合に表示。
-常時表示し、リモコンで警戒ON操作した場合にアニメーション表示。
-エンジン始動中に表示。(V-10のみ)
-エンジンアイドルリング中に表示。(V-10のみ)
- STAGE 1 2 3 A B C**警戒パターン(警戒ステージ_警報モード)を表示。



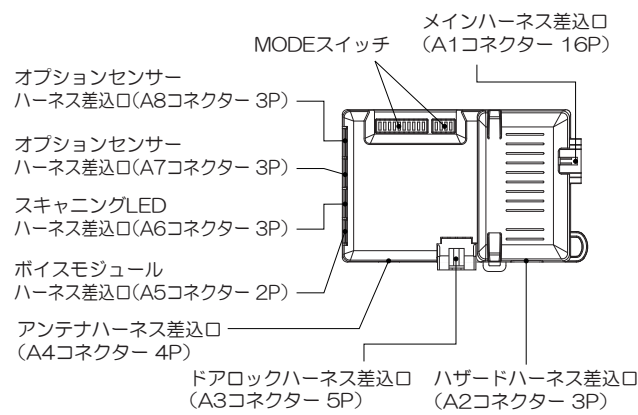
主要部品の名称

主要部品の名称

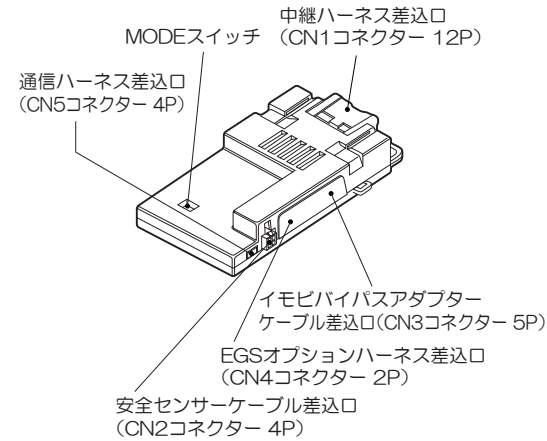
エンジン

エンジン

本体



エンジンスタートユニット(V-10のみ)

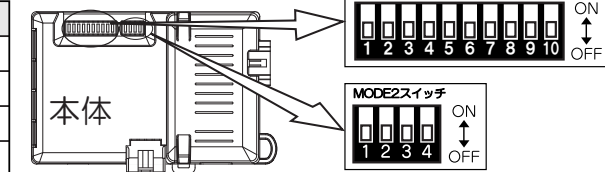


本体MODEスイッチの機能と設定

【MODE1スイッチ】

		OFF	ON
1	動作確認音	あり	なし
2	スタンバイモード時間切替	30秒	5秒
3	OP1 センサーレベル	レベル2	レベル1
4	OP2 センサーレベル	レベル3	レベル2
5	車載ホーン配線	しない	する
6	動作確認音選択	サイレン(ホーン)	ボイス
7	本警報 警報音選択	サイレン(ホーン)	ボイス
8	注意警報 警報音選択	サイレン(ホーン)	ボイス
9	威嚇警報 警報音選択	サイレン(ホーン)	ボイス
10	リモコン登録	通常	登録

【MODEスイッチの名称と役割】



【MODE2スイッチ】

		OFF	ON
1	EGSパワースイッチ	OFF	ON
2	EGS機能設定	設定不可	設定可
3	ガソリン/ディーゼル切替	ガソリン	ディーゼル
4	ターボタイマー	解除	設定

【MODE1スイッチ】

- 1 動作確認音
動作確認音「あり/なし」を設定する場合に使用します。MODEスイッチをONにすることで、確認音を消音することができます。この場合は、アンテナユニットのLED・ハザードで動作の確認をしてください。ご購入時の設定は、動作確認音あり(MODEスイッチOFF)となっています。
- 2 スタンバイモードの時間切替
警戒を開始するまでのスタンバイモード時間「30秒/5秒」を変更する場合に使用します。ご購入時の設定は、30秒(MODEスイッチOFF)となっています。
- 3 OP1 センサーレベル
接続するオプションセンサーのセンサーレベルを合わせる場合に使用します。ご購入時の設定は、レベル2(MODEスイッチOFF)となっています。
メモ 「センサーレベル1」に設定した場合、異常感知10回までは、本警報(30秒警報)となり、11回目以降は、注意警報(5秒警報)となります。
- 4 OP2 センサーレベル
接続するオプションセンサーのセンサーレベルを合わせる場合に使用します。ご購入時の設定は、レベル3(MODEスイッチOFF)となっています。
- 5 車載ホーン配線
車載ホーン配線「する/しない」を設定する場合に使用します。MODEスイッチをONにすることで、ホーンに合わせた吹鳴を行います。詳細は、69ページの「車載ホーンへの配線方法(選択)」を確認してください。ご購入時の設定は、車載ホーン配線しない(MODEスイッチOFF)となっています。
メモ 下記のような車では、ホーン警報できません。付属のサイレンを使用してください。
・エンジンキーを抜いた状態でステアリングのホーンスイッチを押したとき、ホーンが鳴らない車。
・ON時間が0.25秒以下でホーンが鳴らない車。

本体MODEスイッチの機能と設定(つづき)

- 6 動作確認音選択
警戒ON/OFF時の確認音「サイレン(ホーン)/ボイスモジュール」を変更する場合に使用します。ご購入時の設定は、サイレン(ホーン)(MODEスイッチOFF)となっています。
- 7 本警報 警報音選択
本警報時の警報音「サイレン(ホーン)/ボイスモジュール」を変更する場合に使用します。ご購入時の設定は、サイレン(ホーン)(MODEスイッチOFF)となっています。
- 8 注意警報 警報音選択
注意警報時の警報音「サイレン(ホーン)/ボイスモジュール」を変更する場合に使用します。ご購入時の設定は、サイレン(ホーン)(MODEスイッチOFF)となっています。
- 9 威嚇警報 警報音選択
威嚇警報時の警報音「サイレン(ホーン)/ボイスモジュール」を変更する場合に使用します。ご購入時の設定は、サイレン(ホーン)(MODEスイッチOFF)となっています。
- 10 リモコン登録
リモコンを登録する場合に使用します。MODEスイッチをONにすることで、リモコンの登録ができます。
メモ MODEスイッチがONの場合、リモコン登録以外の操作はできません。

【MODE2スイッチメニュー(V-10のみ)】

- 1 EGSパワースイッチ
エンジンスタートの機能を「ON/OFF」する場合に使用します。MODEスイッチをONにすることで、エンジンスタート機能を使用することができます。ご購入時の設定は、EGS/パワースイッチOFFとなっています。
メモ 下記の場合は、必ず本体のEGS/パワースイッチをOFFにしてください。
●整備・車検等で車を預ける場合。 ●整備・車検を行う場合。 ●この商品の取り扱いを知らない人が運転する場合。
- 2 EGS機能設定
エンジンスタートの各種設定操作を行う場合に使用します。MODEスイッチをONにすることで、エンジンスタートの各種設定操作を行うことができます。
メモ MODEスイッチがONの場合、エンジンスタートの各種設定以外の操作はできません。
- 3 ガソリン/ディーゼル切替
始動検出方式「ガソリン/ディーゼル」を変更する場合に使用します。取り付けるお車に合わせて、始動検出方式を適正化してください。ご購入時の設定は、ガソリン(MODEスイッチOFF)となっています。
- 4 ターボタイマー
ターボタイマーの機能を「設定/解除」する場合に使用します。MODEスイッチをONにすることで、ターボタイマーを使用することができます。ご購入時の設定は、解除(MODEスイッチOFF)となっています。

エンジンスタートユニットMODEスイッチの機能と設定(V-10のみ)

【MODEスイッチの名称と役割】

	内容	OFF	ON
1	シフト検出	自動	フットブレーキ
2	始動検出	自動	L端子

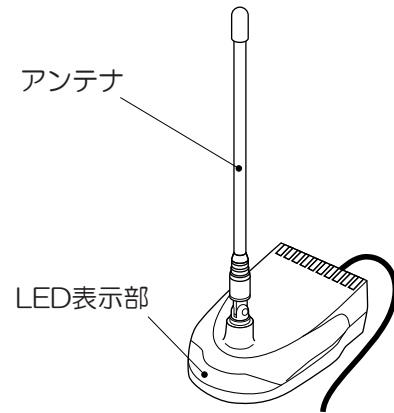
エンジンスタートユニット

- 1 シフト検出
シフト検出「自動/フットブレーキ」を変更する場合に使用します。リモコンでエンジン始動後、シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かしてもエンジンが停止しない場合、シフト検出をフットブレーキ(MODEスイッチON)へ変更します。ご購入時の設定は、自動(MODEスイッチOFF)となっています。
- 2 始動検出
始動検出「自動/L端子」を変更する場合に使用します。エンジンがかかっているのに止めてしまう場合やエンジンがかかっているのにメーターパネルが点灯したままになってしまう場合、始動検出をL端子(MODEスイッチON)へ変更します。ご購入時の設定は、自動(MODEスイッチOFF)となっています。

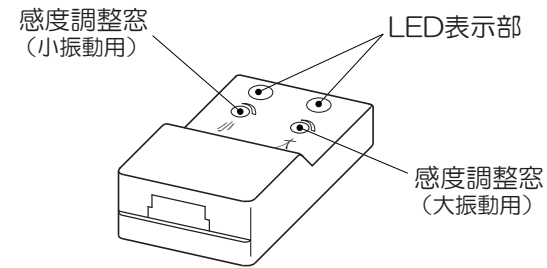
はじめに

はじめに

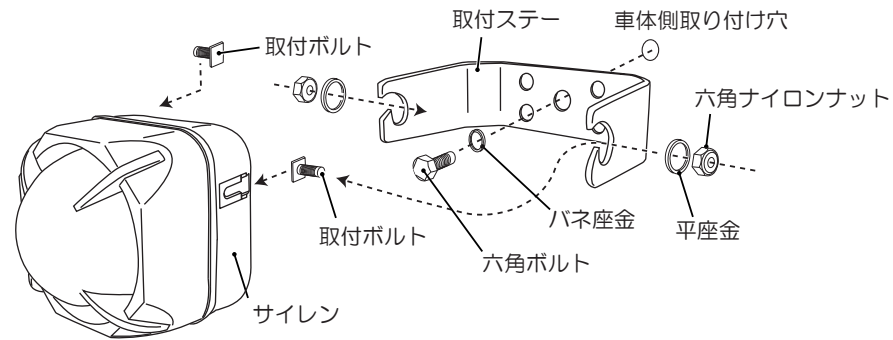
アンテナユニット



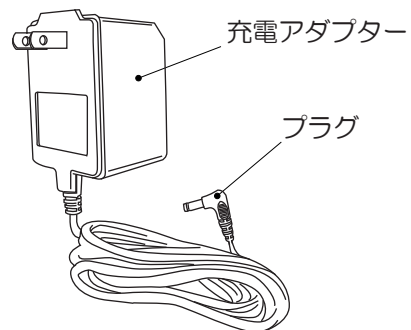
振動センサー



サイレン



リモコン充電アダプター



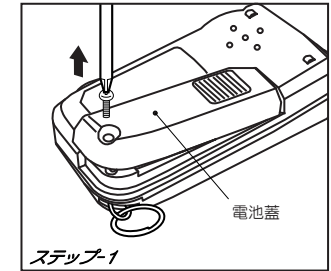
電池の挿入

ステップ 1 電池蓋を外します。

注意 電池蓋を外す際は、リモコン内部を損傷させないでください。故障の原因となります。

注意 電池蓋以外は外さないでください。

精密プラスドライバーでネジを外し、電池蓋を開けます。

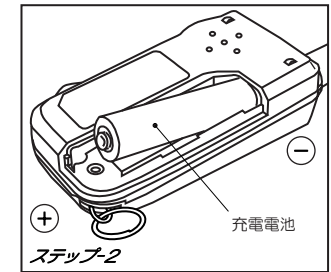


ステップ 2 電池を入れます。

危険 電池の⊕⊖の逆挿入は絶対にしないでください。電池が漏液・発熱・破裂し、故障の原因となります。

注意 ・リモコンの電池端子部をさわらないでください。
・電池表面に汚れや油分が付かないようにしてください。
・雨や汗等の水分が浸入しないようにしてください。

電池のプラス、マイナスの向きを注意して入れてください。(電池のプラス面がリモコンの底面側となります。)

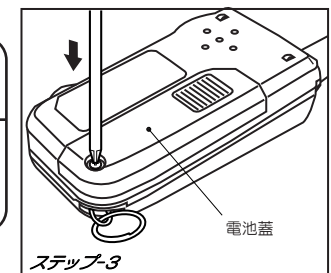


ステップ 3 電池蓋を閉じます。

警告 ・リモコンの電池を交換した際は、幼児の手の届かないところにおいて、早めに処分してください。万一飲み込んでしまった場合やもれた液をなめたりした場合は、すぐにうがいをし、医師に相談してください。

注意 ・ネジを締めるときは、締めすぎたり、ゆるまないようきちんと締めてください。部品の損傷や紛失の原因となります。
・リモコンの内部を損傷させたり、異物を入れたりしないでください。故障の原因となります。

外したときと逆の手順で、電池蓋を閉じます。



リモコンを充電する

本品付属の充電アダプター(家庭用電源AC100V)でリモコンの充電ができます。充電は、アイコンの表示が1目盛(□)になったら、行ってください。満充電まで最大約6時間かかります。アイコンが1目盛になった時点で、リモコンは低電圧モードとなります。詳細は、43ページの「リモコンのオートスリープ機能」を確認してください。また充電できる電池は、当社指定のPanasonic製ニッケル水素電池(単4形 HHR-4SPS)だけです。これ以外の電池は絶対に使用しないでください。

	危険 ・電池の⊕⊖の逆挿入は絶対にしないでください。電池が漏液・発熱・破裂し、故障の原因となります。 ・付属の充電アダプターで充電を行う前に、リモコンに装着された電池が、当社指定の充電電池であるか必ず確認してください。当社指定以外の充電電池および1次電池(アルカリ電池・マンガン電池等)を装着して充電を行うと、電池が漏液・発熱・破裂し、故障の原因となります。特に未使用の1次電池を充電した場合、漏液・発熱・破裂などの発生率が高くなります。
	警告 ・本品付属の充電アダプター以外は絶対に使用しないでください。故障の原因となります。

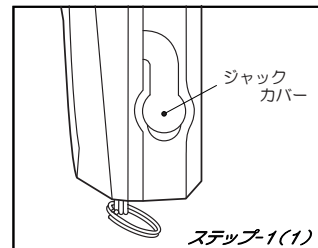
- 注意**
- 周囲の温度が充電に適さない場合、充電できません。(充電が可能な温度範囲は、5℃~35℃です。)
 - 充電異常を検知すると、液晶のバックライトが赤色に点灯し、電池残量アイコンも早い点滅となり、異常検知音が「ピピピ…」約4秒間鳴ります。このような場合は、リモコンからプラグを外し、原因を確認してください。
 - 電池が満充電の状態、再度充電を行うと、過充電となり電池寿命が短くなります。
- メモ**
- 充電中は、電源OFF操作を除き、リモコンの操作を行うことができます。電源をOFFする場合は、リモコンからプラグを外して行ってください。
 - 充電電池は消耗品です。充放電を繰り返すことで、徐々に使用できる時間が短くなります。約1年毎の交換をお奨めします。

ステップ1 リモコンのジャックカバーを外し、充電アダプターのプラグを差し込み充電を開始します。

液晶画面 【リモコン】 充電開始音が鳴り、充電を開始します。
(電源ON/OFF状態により充電開始音が異なります。)

メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】 ・バックライトが点灯し、消灯。
・アイコンが点滅し、充電を開始したことを表示。

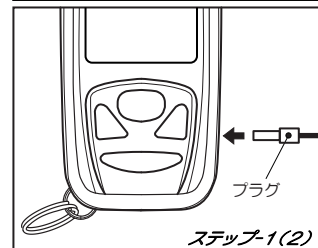


ステップ2 リモコンから充電完了音「ピピピッ」が鳴り、充電が完了します。

液晶画面 【リモコン】 充電完了音「ピピピッ」が鳴り、充電を完了したことをお知らせします。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】 アイコンが点灯し、充電が完了したことを表示。



ステップ3 リモコンから充電アダプターのプラグを外します。

充電状態の表示について

液晶画面のアイコンで、リモコンの充電状態を確認することができます。

アイコン表示	充電状態
遅い点滅	充電中です。 正常に充電が行われています。
早い点滅	異常です。 電池不良・一次電池装着・電池逆挿入・充電温度不適切等。 ただし、正常に充電を行った場合でも、充電電池の寿命が近づくと電池の発熱量が多くなり、充電異常表示します。その際は、電池が異常に熱くなっていますので、やけどをしないよう注意してください。 このような状態になった場合は、早めに充電電池の交換を行ってください。
点灯	正常に充電が完了しました。

電源の入れ方

ステップ1 リモコンの(RST)ボタンを液晶画面が点灯するまで押し続けます。

液晶画面 【リモコン】 電源ONと同時にブザー音が「パパッ」と鳴り、液晶画面が点灯します。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】 ・バックライトが点灯(緑色)。
・アイコンが全て点灯。
・アイコンが電波を送信していることをアニメーションで表示。

送信アニメーション表示
→ Tu → Tu → Tu

メモ リモコンの電源を入れると、車両の状態を確認するために、自動的に電波を送信します。

ステップ2 リモコンからの電波を本体が受信し、リモコンへ車両の状態を送信します。このとき車両側は、受信したことを表示しません。

ステップ3 本体からの電波をリモコンが受信すると「ピロリッ」と音が鳴り、車両の状態を液晶画面に表示します。

液晶画面 【リモコン】 リモコンが「ピロリッ」と鳴り、電波を受信したことをお知らせします。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】 ・バックライトは本体からの電波を受信するまで点灯し、消灯。
・アイコンが電波を受信していることをアニメーションで表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。

受信アニメーション表示
→ Tu → Tu → Tu

- アイコンが操作したリモコンNo.を表示し、消灯。
- 本体の状態を表示。

メモ ・通信ができなかった場合は、アイコンでエラー内容を表示します。詳細は、38ページの「リモコンのエラー表示について」を確認してください。
・マナーモード時は、音を発しません。

電源の切り方

メモ 充電中は、電源をOFFできません。リモコンからプラグを外して行ってください。

ステップ1 リモコンの(RST)ボタンを液晶画面が消えるまで押し続けます。

液晶画面 【リモコン】 電源OFFと同時に液晶画面が消灯します。

表示なし

【液晶画面】 ・バックライトが消灯。
・アイコンが全て消灯。

マナーモードの設定／解除

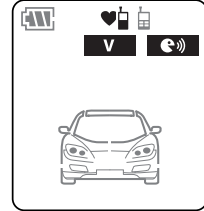
周囲に迷惑がかかる環境下で使用する場合にリモコンの操作音や通報音などを消音し、バイブレーションにて確認できるようにします。バイブレーション動作については、「バイブレーション動作内容一覧」を確認してください。

メモ マナーモード時、リモコンが低電圧モード(電池残量1個点灯時)に入ると、バイブレーションの機能を停止します。この場合、液晶画面でしか確認することができませんので、マナーモードを解除して使用してください。




マナーモードの設定


ステップ 1 リモコンの **(SET)** ボタンをバイブレーション動作「ブルルッ」するまで長押しします。

液晶画面



【リモコン】 リモコンが「ブッ」と鳴り、バイブレーションが動作「ブルルッ」し、マナーモードに設定されたことをお知らせします。

【液晶画面】 ・バックライトが点灯(緑色)し、消灯。
 ・  が点灯し、マナーモードに設定されたことを表示。
 ・ が消灯。

メモ リモコン操作時のアンサーバック音または通報音をブザー音に設定している場合は、 も消灯します。

以上でマナーモードの設定は、終了です。

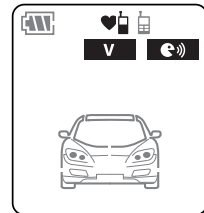
【バイブレーション動作内容一覧】

	バイブレーション動作
ボタン短押し時	ブルッ
ボタン長押し時	ブルルッ
ボタン同時長押し時	
ボタン操作無効エラー	ブルッ_ブルッ_ブルッ
リモコン操作時のアンサーバック受信時	ブルッ_ブルッ
異常感知通報受信時	ブル〜っ…
警報履歴受信時	ブル〜っ
通信エラー受信時	ブルッ_ブルッ_ブルッ
充電開始時	ブルッ
充電完了時	ブルッ_ブルッ_ブルッ
低電圧モード作動時	ブル〜っ





マナーモードの解除


ステップ 1 リモコンの **(SET)** ボタンを押し、「ププッ」と2連音が鳴るまで長押しします。

液晶画面



【リモコン】 リモコンが「ププッ」と鳴り、マナーモードが解除されたことをお知らせします。

【液晶画面】 ・バックライトが点灯(緑色)し、消灯。
 ・  が消灯し、マナーモードが解除されたことを表示。
メモ バイブレーションに設定している場合は、 は消灯しません。
 ・ が点灯。

メモ リモコン操作時のアンサーバック音または通報音をブザー音に設定している場合は、 も点灯します。

以上でマナーモードの解除は、終了です。

ボタン操作禁止の設定／解除

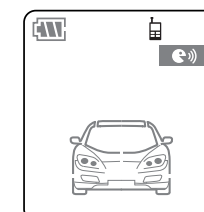
不用意なボタン操作を防止するため、リモコンのボタンをロックし、ボタン操作ができないようにすることができます。リモコンが通報音を発している場合のみ、通報音と車両側の警報を **(RST)** ボタンで停止することができます。

メモ リモコンが通報音を発しているときに、**(RST)** 以外のボタンを操作すると、ミュート機能が働きリモコンの通報音が停止します。

ボタン操作禁止の設定


ステップ 1 リモコンの **(STG)** ボタンを「ピッ ピピッ」と音が鳴るまで長押しします。

液晶画面



【リモコン】 リモコンが「ピッ ピピッ」と鳴り、ボタン操作禁止に設定されたことをお知らせします。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

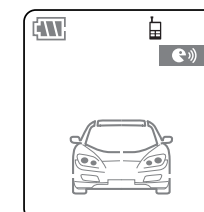
【液晶画面】 ・バックライトが点灯(緑色)し、消灯。
 ・ が点灯し、ボタン操作禁止に設定されたことを表示。

以上でボタン操作禁止の設定は、終了です。

ボタン操作禁止の解除


ステップ 1 リモコンの **(STG)** ボタンを「ピッ ピピッ」と音が鳴るまで長押しします。

液晶画面



【リモコン】 リモコンが「ピッ ピピッ」と鳴り、ボタン操作禁止が解除されたことをお知らせします。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】 ・バックライトが点灯(緑色)し、消灯。
 ・ が点灯し、ボタン操作禁止が解除されたことを表示。

以上でボタン操作禁止の解除は、終了です。

警報機を動作させる(警戒ON)

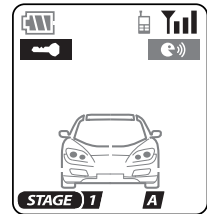
メモ ・ドアロックハーネスを接続することにより、リモコンの警戒ON操作に連動してドアの施錠が行えるようになります。
 ・V-10の場合、エンジンスターターでエンジン始動後は、警戒ON操作することができません。エンジンスターターでエンジンを始動しているときに警報機を動作させたい場合は、警報機を動作させてからエンジンスターターでエンジンを始動してください。
 ただし、ターボタイマーを設定している場合は、エンジンスターターでエンジンを始動しても警戒ON操作ができます。
 アイドリング中に働くセンサーは、ドアスイッチセンサーとセンサーレベル1商品(別売)のみです。アイドルリングが終了すると、停止していたセンサーが警戒を開始します。

注意 エンジンキーを車室内に放置せず、携帯した状態で操作してください。

ステップ1 車を降りて、全てのドアを閉めます。

ステップ2 リモコンの(SET)ボタンを「プッ」と音が鳴るまで押します。

液晶画面 【リモコン】リモコンが「プッ」と鳴り、警戒ON操作したことをお知らせします。



メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】・バックライトが点灯(緑色)。
 ・STAGE が点灯し、1 A が現在の警戒パターンを点滅で表示。
 ・LED が点滅し、ドアを施錠することを表示。
 (ドアロックハーネスの配線有無に関係なく、リモコンの操作状態を表示します。) 送信アニメーション表示
 ・Tul が電波を送信していることをアニメーションで表示。

メモ ご購入時に登録されている警戒パターンは、「警戒ステージ1_警戒モードA」となっています。使用環境に合わせて警戒パターンを変更してください。詳細は、24~25ページの「警報機の警戒パターンを変更し、動作させる」・26ページの「使用頻度の高い警戒パターンを登録する」を確認してください。

ステップ3 リモコンからの電波を本体が受信し、警報機がスタンバイモードに入ります。

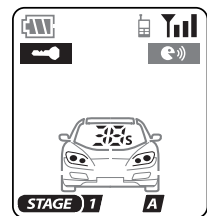
警戒ステージ1でスタンバイモードに入ったときの車両側表示は、下表の通りです。

警戒設定	アンテナユニット	サイレン	ハザード	ドア (配線時のみ)	ホーン (選択)	オプション(別売)	
						スキャンニングLED	ボイスモジュール
警戒ステージ1	LED-1ヶ(緑色)が1回点灯	クックク	2回点滅(配線時のみ)	施錠時のみ	1回吹鳴	LED-3ヶが点滅	【日本語】 ノーマルステージで警戒開始します。 【英語】 Security system stand by on normal stage.

ステップ4 本体からの電波をリモコンが受信すると「警戒を開始しました。」と発声します。

メモ ・スタンバイモード時は、全てのセンサーは動きません。
 ・スタンバイモード時間は、30秒/5秒の設定ができます。詳細は、14ページの2「スタンバイモードの時間切替」を確認してください。ご購入時は、30秒に設定されています。

液晶画面 【リモコン】リモコンが「警戒を開始しました。」と発声し、警報機がスタンバイモードに入ったことをお知らせします。



【液晶画面】・バックライトは本体からの電波を受信するまで点灯し、消灯。
 ・警戒パターン 1 A が点滅から点灯へ変化し、スタンバイモードに入ったことを表示。
 ・LED が点滅から点灯へ変化し、ドアを施錠したことを表示。
 (ドアロックハーネスの配線有無に関係なく、リモコンの操作状態を表示します。) 受信アニメーション表示
 ・Tul が電波を受信していることをアニメーションで表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。
 ・No. が操作したリモコンNo.を表示し、消灯。
 ・LED が点灯からアニメーション表示へ変化し、警報機が動作していることを表示。

ステップ5 スタンバイモードが終了すると、自動的に監視モードへ移行します。

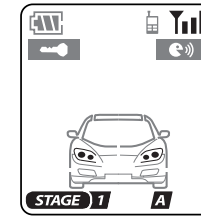
アンテナユニット		スキャンニングLED(別売)	
スタンバイモード時 LED-1ヶ(緑色)が点滅	監視モード時 LED-2ヶ(赤色)が点滅	スタンバイモード時 LED-3ヶが点滅	監視モード時 スキャンニング点滅開始

警報機を停止させる(警戒OFF)

メモ ドアロックハーネスを接続することにより、リモコンの警戒OFF操作に連動してドアの解錠が行えるようになります。

ステップ1 リモコンの(RST)ボタンを「パッ」と音が鳴るまで押します。

液晶画面 【リモコン】リモコンが「パッ」と鳴り、警戒OFF操作したことをお知らせします。



メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】・バックライトが点灯(緑色)。
 ・STAGE 1 A が消灯し、警戒OFF操作したことを表示。送信アニメーション表示
 ・Tul が電波を送信していることをアニメーションで表示。
 ・LED がアニメーション表示から点灯へ変化し、警報機の停止操作したことを表示。

ステップ2 リモコンからの電波を本体が受信し、警報機が停止します。警報機が停止したときの車両側表示は、下表の通りです。

警報履歴	アンテナユニット	サイレン	ハザード	ドア	ホーン (選択)	オプション(別売)	
						スキャンニングLED	ボイスモジュール
履歴がなかった場合	LED-1ヶ(緑色)が1回点灯	クツ	1回点滅(配線時のみ)		1回吹鳴	LED-1ヶが点滅	【日本語】 警戒解除します。 【英語】 Security system stopped.
本警戒があった場合				解錠(配線時のみ)		LED-4ヶが15秒間点滅	【日本語】 警戒解除します。警戒中に警戒ランクSに達しました。 【英語】 Security system stopped. Check the car.
注意警戒があった場合	LED-2ヶ(赤色)が1回点灯	クッククツ	3回点滅(配線時のみ)		2回吹鳴	LED-3ヶが15秒間点滅	【日本語】 警戒解除します。警戒中に警戒ランクAに達しました。 【英語】 Security system stopped. Check the car.
威嚇警戒があった場合						LED-2ヶが15秒間点滅	【日本語】 警戒解除します。警戒中に警戒ランクBに達しました。 【英語】 Security system stopped. Check the car.

ステップ3 本体からの電波をリモコンが受信すると「警戒を解除しました。」と発声します。

履歴がなかった場合 【リモコン】リモコンが「警戒を解除しました。」と発声し、警報機が停止したことをお知らせします。
メモ マナーモード時は、音を発しません。



【液晶画面】・バックライトは本体からの電波を受信するまで点灯し、消灯。
 ・LED が消灯し、ドアを解除したことを表示。
 (ドアロックハーネスの配線有無に関係なく、リモコンの操作状態を表示します。)
 ・Tul が電波を受信していることをアニメーションで表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。
 ・No. が操作したリモコンNo.を表示し、消灯。 受信アニメーション表示

履歴があった場合 【リモコン】リモコンが「警戒を解除しました。」と発声し、警報機が停止したことをお知らせします。その後「履歴があります。」と発声します。
メモ マナーモード時は、音を発しません。



【液晶画面】・バックライトは本体からの電波を受信するまで点灯し、消灯。
 ・LED が消灯し、ドアを解除したことを表示。
 (ドアロックハーネスの配線有無に関係なく、リモコンの操作状態を表示します。)
 ・Tul が電波を受信していることをアニメーションで表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。
 ・Danger! が消灯。
 ・感知したセンサー(No.)が点滅表示し、消灯。 受信アニメーション表示

3警戒ステージ×3警報モードについて

3警戒ステージ×3警報モードとは

どんな環境下においても安心してお使い頂けるよう、警戒の異なる3つのステージと警報の異なる3つのモードを準備し、その組み合わせにより合計9つの警戒パターンを設定できるようにしました。それぞれの特徴をよく理解していただき、使用する環境に最適と思われる警戒パターンでご使用ください。

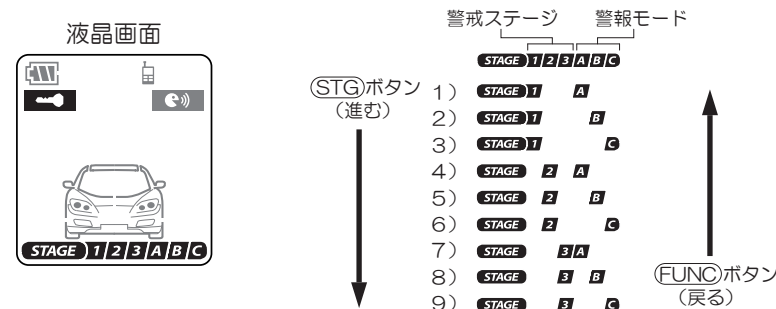
- 警戒ステージ1
外乱振動の少ない環境下で使用する場合に設定します。このステージは、全てのセンサーで警戒を行います。
- 警戒ステージ2
線路付近や交通量の多い幹線道路沿い等、外乱振動の発生があらかじめ予測できるような場所で使用する場合に設定します。振動センサーの「小振動」およびオプションセンサー「レベル3」(別売)以外のセンサーで警戒を行います。
- 警戒ステージ3
「警戒ステージ2」よりも、さらに外乱振動が多発するような場所(機械式駐車場等)で使用する場合に設定します。このステージは、誤動作の少ないドアスイッチセンサーおよびオプションセンサー「レベル1」(別売)で警戒を行います。
- 警報モードA
感知したセンサーが、通常の警報(30秒/5秒/1秒)を行う設定です。
- 警報モードB
「近所迷惑が気になるので、警報を長時間鳴らしたくない。」という場合に設定します。ドアスイッチセンサー以外の警報は、全て1秒警報となります。(ドアスイッチセンサーのみ30秒警報)
- 警報モードC
「近所迷惑が気になるので、警報を鳴らしたくない。」という場合に設定します。ドアスイッチセンサー以外の警報はサイレンで行いません。(ドアスイッチセンサーのみ30秒警報)

警報機の警戒パターンを変更し、動作させる

ステップ1 リモコンのSTGボタンを押します。

(STG)ボタンを押す音「ピッ」に合わせて液晶画面表示が下表のように変化します。

メモ マナーモード時は、音を発しません。



ステップ2 警戒パターンを選択します。

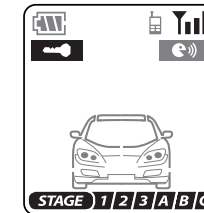
(STG)ボタンを押し、お好みの警戒パターンを点滅表示させください。

警報機の警戒パターンを変更し、動作させる(つづき)

ステップ3 警戒パターンが点滅している状態で、リモコンのSETボタンを「ブツ」と音が鳴るまで押します。

メモ 操作の途中でバックライトが消灯した場合は、もう一度ステップ1からやり直してください。

液晶画面 【リモコン】リモコンが「ブツ」と鳴り、警戒ON操作したことをお知らせします。



メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】・1 2 3 A B C が現在の警戒パターンを点滅で表示。

- ・1 が点滅し、ドアを施錠することを表示。
(ドアロックハーネスの配線有無に関係なく、リモコンの操作状態を表示します。)
- ・Til が電波を送信していることをアニメーションで表示。
送信アニメーション表示

ステップ4 リモコンからの電波を本体が受信し、警報機がスタンバイモードに入ります。

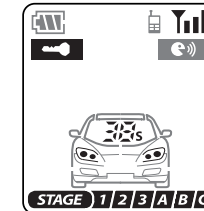
スタンバイモードに入ったときの車両側表示は、下表の通りです。

警戒設定	アンテナユニット	サイレン	ハザード	ドア	ホーン(選択)	オプション(別売)	
						スキャンングLED	ボイスモジュール
警戒ステージ1		クックク	2回点滅 (配線時のみ)	施錠配線時のみ	1回吹鳴		【日本語】 ノーマルステージで警戒開始します。 【英語】 Security system stand by on normal stage.
警戒ステージ2							【日本語】 誤動作軽減ステージで警戒開始します。 【英語】 On "GODOUSAKEIGEN" stage.
警戒ステージ3							【日本語】 ドアスイッチステージで警戒開始します。 【英語】 On door switch stage.

ステップ5 本体からの電波をリモコンが受信すると「警戒を開始しました。」と発声します。

メモ ・スタンバイモード時は、全てのセンサーは動きません。
・スタンバイモード時間は、30秒/5秒の設定ができます。詳細は、14ページの2「スタンバイモードの時間切替」を確認してください。ご購入時は、30秒に設定されています。

液晶画面 【リモコン】リモコンが「警戒を開始しました。」と発声し、警報機がスタンバイモードに入ったことをお知らせします。



- 【液晶画面】
- ・バックライトは本体からの電波を受信するまで点灯し、消灯。
 - ・警戒パターン(1 2 3 A B C)が点滅から点灯へ変化し、スタンバイモードに入ったことを表示。
 - ・1 が点滅から点灯へ変化し、ドアを施錠したことを表示。
(ドアロックハーネスの配線有無に関係なく、リモコンの操作状態を表示します。)
 - ・Til が電波を受信していることをアニメーションで表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。
受信アニメーション表示
 - ・No. が操作したリモコンNo.を表示し、消灯。
 - ・1 2 3 A B C が点灯からアニメーション表示へ変化し、警報機が動作していることを表示。

ステップ6 スタンバイモードが終了すると、自動的に監視モードへ移行します。

アンテナユニット		スキャンングLED(別売)	
スタンバイモード時 	監視モード時 	スタンバイモード時 ステップ4の点滅パターンでLEDが点滅	監視モード時

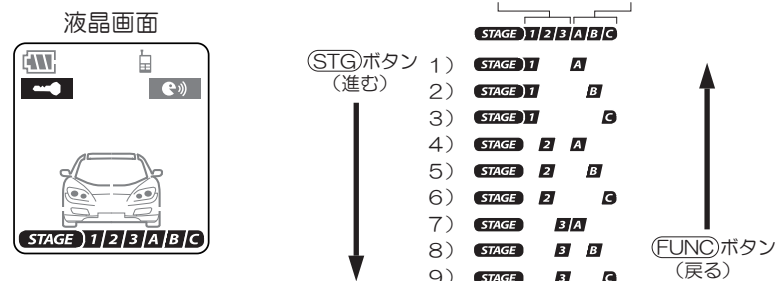
使用頻度の高い警戒パターンを登録する

日常良く使用する警戒パターンをリモコンに登録することができます。この登録を行うと、警戒パターンを都度選択することなく、一度の(SET)ボタン操作で、希望するパターンの警戒を開始することができます。ご購入時に登録されている警戒パターンは、「警戒ステージ1_警報モードA」となっています。

ステップ1 リモコンの(STG)ボタンを押します。

(STG)ボタンを押す音「ピッ」に合わせて液晶画面表示が下表のように変化します。

メモ マナーモード時は、音を発しません。



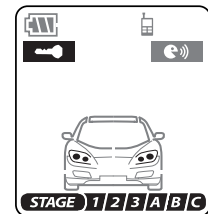
ステップ2 警戒パターンを選択します。

(STG)ボタンを押し、希望する警戒パターンを点滅表示させください。

ステップ3 警戒パターンが点滅している状態で、リモコンの(SET)ボタンを「プッ プッ」と音が鳴るまで長押しします。

メモ 操作の途中でバックライトが消灯した場合は、もう一度ステップ1からやり直してください。

液晶画面 【リモコン】リモコンが「プッ プッ」と鳴り、警戒パターンを登録したことをお知らせします。



メモ マナーモード時は、音を発しません。

- 液晶画面
- ・バックライトは登録が終了するまで点灯し、消灯。
 - ・**1 2 3 A B C**が点滅から点灯へ変化し、警戒パターンを登録したことを表示し、消灯。
 - ・**1 2 3 A B C**が点滅から点灯へ変化し、警戒パターンを登録したことを表示。

異常を感知したときの通報内容一覧

異常を感知したときのリモコンへの通報は、下表の通りです。警戒パターン別に記載しています。

		本警報		注意警報	威嚇警報
		・ドアスイッチセンサー	・オプションセンサー「レベル1」(別売)	・振動センサー(大振動) ・オプションセンサー「レベル2」(別売)	・振動センサー(小振動) ・オプションセンサー「レベル3」(別売)
STAGE 1 A	液晶画面表示	アイコン表示 [Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。	[Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。	[Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。	[Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。
		バックライト表示	赤色点灯	橙色点灯	黄色点灯
	音声通報	「侵入を感知しました…」(30秒)	「異常を感知しました…」(30秒)	「異常を感知しました…」または「衝撃を感知しました…」(10秒)	「異常を感知しました…」または「衝撃を感知しました…」(5秒)
	ブザー音通報	「ピロ…」(30秒)	「ピロ…」(10秒)	「ピロ…」(5秒)	「ピロ…」(5秒)
	バイブレーション動作	「ブルっ_ブルっ…」(30秒)	「ブルっ_ブルっ…」(10秒)	「ブルっ_ブルっ…」(5秒)	「ブルっ_ブルっ…」(5秒)
STAGE 1 B	液晶画面表示	アイコン表示 [Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。	[Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。	[Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。	[Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。
		バックライト表示	赤色点灯	橙色点灯	黄色点灯
	音声通報	「侵入を感知しました…」(30秒)	「異常を感知しました…」(5秒)	「異常を感知しました…」または「衝撃を感知しました…」(5秒)	「異常を感知しました…」または「衝撃を感知しました…」(5秒)
	ブザー音通報	「ピロ…」(30秒)	「ピロ…」(5秒)	「ピロ…」(5秒)	「ピロ…」(5秒)
	バイブレーション動作	「ブルっ_ブルっ…」(30秒)	「ブルっ_ブルっ…」(5秒)	「ブルっ_ブルっ…」(5秒)	「ブルっ_ブルっ…」(5秒)

異常を感知したときの通報内容一覧(つづき)

異常を感知したときのリモコンへの通報は、下表の通りです。警戒パターン別に記載しています。

		本警報		注意警報	威嚇警報
		・ドアスイッチセンサー	・オプションセンサー「レベル1」(別売)	・振動センサー(大振動) ・オプションセンサー「レベル2」(別売)	・振動センサー(小振動) ・オプションセンサー「レベル3」(別売)
STAGE 1 C	液晶画面表示	アイコン表示 [Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。	[Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。	[Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。	[Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。
		バックライト表示	赤色点灯	橙色点灯	黄色点灯
	音声通報	「侵入を感知しました…」(30秒)	「異常を感知しました…」(30秒)	「異常を感知しました…」または「衝撃を感知しました…」(10秒)	「異常を感知しました…」または「衝撃を感知しました…」(5秒)
	ブザー音通報	「ピロ…」(30秒)	「ピロ…」(10秒)	「ピロ…」(5秒)	「ピロ…」(5秒)
	バイブレーション動作	「ブルっ_ブルっ…」(30秒)	「ブルっ_ブルっ…」(10秒)	「ブルっ_ブルっ…」(5秒)	「ブルっ_ブルっ…」(5秒)
STAGE 2 A	液晶画面表示	アイコン表示 [Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。	[Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。	[Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。	—
		バックライト表示	赤色点灯	橙色点灯	—
	音声通報	「侵入を感知しました…」(30秒)	「異常を感知しました…」(30秒)	「異常を感知しました…」または「衝撃を感知しました…」(10秒)	—
	ブザー音通報	「ピロ…」(30秒)	「ピロ…」(10秒)	「ピロ…」(10秒)	—
	バイブレーション動作	「ブルっ_ブルっ…」(30秒)	「ブルっ_ブルっ…」(10秒)	「ブルっ_ブルっ…」(10秒)	—
STAGE 2 B	液晶画面表示	アイコン表示 [Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。	[Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。	[Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。	—
		バックライト表示	赤色点灯	橙色点灯	—
	音声通報	「侵入を感知しました…」(30秒)	「異常を感知しました…」(5秒)	「異常を感知しました…」または「衝撃を感知しました…」(5秒)	—
	ブザー音通報	「ピロ…」(30秒)	「ピロ…」(5秒)	「ピロ…」(5秒)	—
	バイブレーション動作	「ブルっ_ブルっ…」(30秒)	「ブルっ_ブルっ…」(5秒)	「ブルっ_ブルっ…」(5秒)	—
STAGE 2 C	液晶画面表示	アイコン表示 [Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。	[Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。	[Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。	—
		バックライト表示	赤色点灯	橙色点灯	—
	音声通報	「侵入を感知しました…」(30秒)	「異常を感知しました…」(30秒)	「異常を感知しました…」または「衝撃を感知しました…」(10秒)	—
	ブザー音通報	「ピロ…」(30秒)	「ピロ…」(10秒)	「ピロ…」(10秒)	—
	バイブレーション動作	「ブルっ_ブルっ…」(30秒)	「ブルっ_ブルっ…」(10秒)	「ブルっ_ブルっ…」(10秒)	—
STAGE 3 A	液晶画面表示	アイコン表示 [Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。	[Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。	—	—
		バックライト表示	赤色点灯	—	—
	音声通報	「侵入を感知しました…」(30秒)	「異常を感知しました…」(30秒)	—	—
	ブザー音通報	「ピロ…」(30秒)	「ピロ…」(30秒)	—	—
	バイブレーション動作	「ブルっ_ブルっ…」(30秒)	「ブルっ_ブルっ…」(30秒)	—	—
STAGE 3 B	液晶画面表示	アイコン表示 [Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。	[Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。	—	—
		バックライト表示	赤色点灯	—	—
	音声通報	「侵入を感知しました…」(30秒)	「異常を感知しました…」(5秒)	—	—
	ブザー音通報	「ピロ…」(30秒)	「ピロ…」(5秒)	—	—
	バイブレーション動作	「ブルっ_ブルっ…」(30秒)	「ブルっ_ブルっ…」(5秒)	—	—
STAGE 3 C	液晶画面表示	アイコン表示 [Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。	[Danger] が点滅。 [音] 5s が点灯。	—	—
		バックライト表示	赤色点灯	—	—
	音声通報	「侵入を感知しました…」(30秒)	「異常を感知しました…」(30秒)	—	—
	ブザー音通報	「ピロ…」(30秒)	「ピロ…」(30秒)	—	—
	バイブレーション動作	「ブルっ_ブルっ…」(30秒)	「ブルっ_ブルっ…」(30秒)	—	—

異常を感知したときの警報内容一覧

異常を感知したときの車両側の警報は、下表の通りです。警戒パターン別に記載しています。

		本警報		注意警報	威嚇警報
		・ドアスイッチセンサー	・オフショセンサー 「レベル1」	・振動センサー(大振動) ・オフショセンサー 「レベル2」	・振動センサー(小振動) ・オフショセンサー 「レベル3」
STAGE 1 A	アンテナユニット	 LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(30秒)		 LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(5秒)	 LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(1秒)
	サイレン	30秒連続吹鳴		5秒断続吹鳴	1秒断続吹鳴
	ハザード	30秒点滅		5秒点滅	2回点滅
	ホーン(選択)	30秒断続吹鳴		5秒断続吹鳴	2回吹鳴
	スキャンングLED(別売)	 LED-4ヶが高速スキャンと高速点滅(30秒)		 LED-3ヶが高速スキャンと高速点滅(5秒)	 LED-2ヶが高速スキャンと高速点滅(1秒)
ボイスモジュール(別売)	<日本語> 非常事態発令!(30秒) <英語> Emergency!(30秒)		<日本語> 警告します!(2回) <英語> Warning!(2回)	<日本語> 注意してください。(1回) <英語> Attention.(1回)	
STAGE 1 B	アンテナユニット	 LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(30秒)	 LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(1秒)		
	サイレン	30秒連続吹鳴		1秒断続吹鳴	
	ハザード	30秒点滅		2回点滅	
	ホーン(選択)	30秒断続吹鳴		2回吹鳴	
	スキャンングLED(別売)	 LED-4ヶが高速スキャンと高速点滅(30秒)	 LED-4ヶが高速スキャンと高速点滅(1秒)	 LED-3ヶが高速スキャンと高速点滅(1秒)	 LED-2ヶが高速スキャンと高速点滅(1秒)
ボイスモジュール(別売)	<日本語> 非常事態発令!(30秒) <英語> Emergency!(30秒)	<日本語> 非常事態発令!(4回) <英語> Emergency!(4回)	<日本語> 警告します!(2回) <英語> Warning!(2回)	<日本語> 注意してください。(1回) <英語> Attention.(1回)	
STAGE 1 C	アンテナユニット	 LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(30秒)		 LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(5秒)	 LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(1秒)
	サイレン	30秒連続吹鳴		—	—
	ハザード	30秒点滅		5秒点滅	2回点滅
	ホーン(選択)	30秒断続吹鳴		—	—
	スキャンングLED(別売)	 LED-4ヶが高速スキャンと高速点滅(30秒)		 LED-3ヶが高速スキャンと高速点滅(5秒)	 LED-2ヶが高速スキャンと高速点滅(1秒)
ボイスモジュール(別売)	<日本語> 非常事態発令!(30秒) <英語> Emergency!(30秒)	—	—	—	

異常を感知したときの警報内容一覧(つづき)

異常を感知したときの車両側の警報は、下表の通りです。警戒パターン別に記載しています。

		本警報		注意警報	威嚇警報
		・ドアスイッチセンサー	・オフショセンサー 「レベル1」	・振動センサー(大振動) ・オフショセンサー 「レベル2」	・振動センサー(小振動) ・オフショセンサー 「レベル3」
STAGE 2 A	アンテナユニット	 LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(30秒)		 LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(5秒)	—
	サイレン	30秒連続吹鳴		5秒断続吹鳴	—
	ハザード	30秒点滅		5秒点滅	—
	ホーン(選択)	30秒断続吹鳴		5秒断続吹鳴	—
	スキャンングLED(別売)	 LED-4ヶが高速スキャンと高速点滅(30秒)		 LED-3ヶが高速スキャンと高速点滅(5秒)	—
ボイスモジュール(別売)	<日本語> 非常事態発令!(30秒) <英語> Emergency!(30秒)		<日本語> 警告します!(2回) <英語> Warning!(2回)	—	
STAGE 2 B	アンテナユニット	 LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(30秒)	 LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(1秒)		
	サイレン	30秒連続吹鳴		1秒断続吹鳴	
	ハザード	30秒点滅		2回点滅	
	ホーン(選択)	30秒断続吹鳴		2回吹鳴	
	スキャンングLED(別売)	 LED-4ヶが高速スキャンと高速点滅(30秒)	 LED-4ヶが高速スキャンと高速点滅(1秒)	 LED-3ヶが高速スキャンと高速点滅(1秒)	—
ボイスモジュール(別売)	<日本語> 非常事態発令!(30秒) <英語> Emergency!(30秒)	<日本語> 非常事態発令!(4回) <英語> Emergency!(4回)	<日本語> 警告します!(2回) <英語> Warning!(2回)	—	
STAGE 2 C	アンテナユニット	 LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(30秒)		 LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(5秒)	—
	サイレン	30秒連続吹鳴		—	—
	ハザード	30秒点滅		5秒点滅	—
	ホーン(選択)	30秒断続吹鳴		—	—
	スキャンングLED(別売)	 LED-4ヶが高速スキャンと高速点滅(30秒)		 LED-3ヶが高速スキャンと高速点滅(5秒)	—
ボイスモジュール(別売)	<日本語> 非常事態発令!(30秒) <英語> Emergency!(30秒)	—	—	—	

操作方法

操作方法

異常を感知したときの警報内容一覧(つづき)

異常を感知したときの車両側の警報は、下表の通りです。警戒パターン別に記載しています。

		本警報		注意警報	威嚇警報
		・ドアスイッチセンサー	・オプションセンサー「レベル1」	・振動センサー(大振動) ・オプションセンサー「レベル2」	・振動センサー(小振動) ・オプションセンサー「レベル3」
STAGE 3 A	アンテナユニット	LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(30秒)		-	-
	サイレン	30秒連続吹鳴		-	-
	ハザード	30秒点滅		-	-
	ホーン(選択)	30秒断続吹鳴		-	-
	スキャンングLED(別売)	LED-4ヶが高速スキャンと高速点滅(30秒)		-	-
	ボイスモジュール(別売)	<日本語> 非常事態発令!(30秒) <英語> Emergency!(30秒)		-	-
STAGE 3 B	アンテナユニット	LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(30秒)	LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(1秒)	-	-
	サイレン	30秒連続吹鳴	1秒断続吹鳴	-	-
	ハザード	30秒点滅	2回点滅	-	-
	ホーン(選択)	30秒断続吹鳴	2回吹鳴	-	-
	スキャンングLED(別売)	LED-4ヶが高速スキャンと高速点滅(30秒)	LED-4ヶが高速スキャンと高速点滅(1秒)	-	-
	ボイスモジュール(別売)	<日本語> 非常事態発令!(30秒) <英語> Emergency!(30秒)	<日本語> 非常事態発令!(4回) <英語> Emergency!(4回)	-	-
STAGE 3 C	アンテナユニット	LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(30秒)		-	-
	サイレン	30秒連続吹鳴	-	-	-
	ハザード	30秒点滅		-	-
	ホーン(選択)	30秒断続吹鳴		-	-
	スキャンングLED(別売)	LED-4ヶが高速スキャンと高速点滅(30秒)		-	-
	ボイスモジュール(別売)	<日本語> 非常事態発令!(30秒) <英語> Emergency!(30秒)	-	-	

車両側の警報を停止させる

この操作を行うことで、車両の警報を途中で停止することができます。この操作は、車両の警報のみを停止し、警報機は警戒動作を継続します。

- メモ**
- ・ボタン操作禁止が設定されている場合でも、警報停止操作を行うことができます。
 - ・この操作でリモコンの通報音も停止します。
 - ・バックライト点灯中(赤色)は、リモコンのボタン操作を受け付けません。
 - ・この操作を行うと、ボタン操作時の警報履歴を通知しません。

ステップ 1 リモコンの異常感知通報中に(RST)ボタンを「パッ」と音が鳴るまで押します。

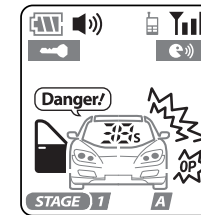
リモコンが「パッ」と鳴り、通報音が停止します。

- メモ** マナーモード時は、音を発しません。

ステップ 2 リモコンからの電波を本体が受信し、車両側の警報を停止します。

ステップ 3 本体からの電波をリモコンが受信すると「警報を停止しました。」を発声します。

液晶画面 【リモコン】リモコンが「警報を停止しました。」と発声し、車両側の警報が停止したことをお知らせします。



- メモ** マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】

- ・バックライトは本体からの電波を受信するまで点灯し、消灯。
- ・が消え、警報を停止したことを表示。
- ・**Danger!**が点滅から点灯へ変化し、警報履歴があることを表示。
- ・**Tel**がアニメーション表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。



- メモ** ボイスモジュール(別売)とオプションセンサー「レベル1」を接続し、本警報をボイスモジュールに設定している場合に限り、オプションセンサー「レベル1」が感知して警報を発しているときにドアスイッチセンサーが感知して連続警報を行った場合、ボイスモジュールの警報のみ途中で停止できない場合があります。このような場合は、警報が終了するまで待ってください。

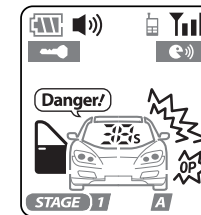
リモコンの通報音のみ停止させる(ミュート機能)

この操作を行うことで、リモコンの通報音のみ途中で停止することができます。この操作は、リモコンの通報音のみ停止し、車両側は継続して警報を行います。

- メモ**
- ・ボタン操作禁止が設定されている場合でも、通報音停止操作を行うことができます。
 - ・この操作を行うと、ボタン操作時の警報履歴を通知しません。

ステップ 1 通報中に(SET) (STG) (FUNC) のいずれかのボタンを音がするまで押します。

液晶画面 【リモコン】リモコンのボタン操作音が鳴り、通報音が停止します。



- メモ** マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】

- ・バックライト、は通報時間が経過するまで点灯し、消灯。
- ・**Danger!**は通報時間が経過するまで点滅し、点灯。警報履歴があったことを表示。
- ・は通報時間が経過するまで点滅し、消灯。
- ・**Tel**は通報時間が経過するまでアニメーション表示し、消灯。



警報履歴を確認する

この操作を行うことで、警報機の警報履歴を確認することができます。

メモ この操作を行わなくても、定期通信(約3分に一度)により、警報機の警報履歴がリモコンへ送られてきます。

ステップ 1 リモコンの **(FUNC)** ボタンを「ポッ ポポッ」と音が鳴るまで長押しします。

液晶画面 【リモコン】 リモコンが「ポッ ポポッ」と鳴り、警報履歴の確認を開始したことをお知らせします。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】 ・バックライトが点灯(緑色)。
・音が点滅し、警報履歴の確認を開始したことを表示。
・TTLが電波を送信していることをアニメーションで表示。

送信アニメーション表示
TTL → TTL → TTL

・アイコンがアニメーション表示から点灯表示へ変化。

ステップ 2 リモコンからの電波を本体が受信し、リモコンへ警報履歴を送信します。このとき車両側は、受信したことを表示しません。

ステップ 3 本体からの電波をリモコンが受信すると「ピロリッ」と鳴り、警報履歴をお知らせします。

履歴がなかった場合

液晶画面 【リモコン】 リモコンが「ピロリッ」と鳴り、警報履歴を確認したことをお知らせし、終了します。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】 ・バックライトは本体からの電波を受信するまで点灯し、消灯。
・音が点滅から点灯へ変化し、本体の警報履歴を確認したことを表示。
・TTLが電波を受信していることをアニメーションで表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。

受信アニメーション表示
TTL → TTL → TTL

・アイコンが操作したリモコンNo.を表示し、消灯。
・アイコンが点灯からアニメーションへ変化し、警報機が継続動作していることを表示。

履歴があった場合

液晶画面 【リモコン】 リモコンが「ピロリッ」と鳴り、警報履歴を確認したことをお知らせし、その後「履歴があります。」と発声します。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】 ・バックライトは本体からの電波を受信するまで点灯し、消灯。
・音が点滅から点灯へ変化し、本体の警報履歴を確認したことを表示。
・TTLが電波を受信していることをアニメーションで表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。

受信アニメーション表示
TTL → TTL → TTL

・異常を感知したアイコンを点滅表示し、消灯。
・(Danger!) が点灯し、警報履歴があったことを表示。

メモ (Danger!) は、通報を受信した時点で表示されます。

・感知したセンサー(アイコン)が点滅表示し、消灯。
・アイコンが点灯からアニメーションへ変化し、警報機が継続動作していることを表示。

カーファインドを動作させる

カーファインドとは、警報機の動作有無に関係なく強制的にサイレンとハザードを2秒間動作させることができる機能です。広い駐車場などで車両の位置を確認する場合に使用します。

ステップ 1 リモコンの **(FUNC)** ボタンを押します。

(FUNC) ボタンを押す音「ポッ」に合わせて液晶画面表示が下表のように変化します。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

液晶画面

(FUNC)ボタン (進む)

1) (FUNC) 2) (S/OFF) 3) (P) 4) (BUZ) 5) (TTL) 6) (BUZ) 7) (V)

(STG)ボタン (戻る)

ステップ 2 (P) を点滅表示させます。

ステップ 3 (P) が点滅している状態で、リモコンの **(SET)** ボタンを「プッ」と音が鳴るまで押しします。

メモ 操作の途中でバックライトが消灯した場合は、もう一度ステップ1からやり直してください。

液晶画面 【リモコン】 リモコンが「プッ」と鳴り、カーファインド開始操作をしたことをお知らせします。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】 ・(P) が点滅し、カーファインド開始操作したことを表示。
・TTLが電波を送信していることをアニメーションで表示。

送信アニメーション表示
TTL → TTL → TTL

ステップ 4 リモコンからの電波を本体が受信し、車両側のサイレンとハザードが動作します。

カーファインド動作時の車両側表示は、下表の通りです。

サイレン	ハザード	ホーン(選択)
2秒連続吹鳴	4回点滅(配線時のみ)	4回断続吹鳴

ステップ 5 本体からの電波をリモコンが受信すると、「ピロリッ」と音が鳴ります。

液晶画面 【リモコン】 リモコンが「ピロリッ」と鳴り、カーファインドが動作したことをお知らせします。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】 ・(P) はカーファインドが動作していることを点滅表示し、消灯。
・TTLが電波を受信していることをアニメーションで表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。

受信アニメーション表示
TTL → TTL → TTL

パニックアラームを動作させる

パニックアラームとは、警報機の動作有無に関係なく強制的に警報を30秒間鳴らすことができる機能です。不審者が車に近づいたときなど、強制的に警報を発したい場合に使用します。

ステップ 1 リモコンの(STG)ボタンと(FUNC)ボタンを同時に「ピッ ポポポッ」と鳴るまで長押しします。

液晶画面 【リモコン】リモコンが「ピッ ポポポッ」と鳴り、パニックアラームの開始操作をしたことお知らせします。

液晶画面 【液晶画面】・バックライトが点灯(緑色)。
・音が点滅し、パニックアラームを動作させることを表示。
・Tulが電波を送信していることをアニメーションで表示。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

ステップ 2 リモコンからの電波を本体が受信し、車両側の警報を開始します。

パニックアラーム動作時の車両側表示は、下表の通りです。

アンテナユニット	サイレン	ハザード	ホーン (選択)	オプション(別売)	
				スキャンングLED	ボイスモジュール
LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(30秒間)	30秒連続吹鳴	30秒点滅(配線時のみ)	30秒断続吹鳴	LED-4ヶが高速スキャンと高速点滅(30秒)	【日本語】 非常事態発令!(約30秒) 【英語】 Emergency!(約30秒)

ステップ 3 本体からの電波をリモコンが受信すると「警報を開始しました。」と発声します。

液晶画面 【リモコン】リモコンが「警報を開始しました。」と発声し、パニックアラームが動作したことをお知らせします。

液晶画面 【液晶画面】・バックライトが緑色から赤色へ変化。パニックアラームが停止するまで点灯し、消灯。
・音はパニックアラームが動作していることを点滅表示し、消灯。
・Tulが電波を受信していることをアニメーションで表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

パニックアラームを停止させる

パニックアラームを動作させたリモコンでのみ、パニックアラーム警報を途中で停止することができます。

ステップ 1 リモコンの(RST)ボタンを「パッ」と音が鳴るまで押します。

液晶画面 【リモコン】リモコンが「パッ」と鳴り、パニックアラームの停止操作をしたことをお知らせします。

液晶画面 【液晶画面】・バックライトが赤色から緑色へ変化。
・音が消灯し、パニックアラームの停止操作したことを表示。
・Tulが電波を送信していることをアニメーションで表示。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

ステップ 2 リモコンからの電波を本体が受信し、パニックアラームを停止します。

ステップ 3 本体からの電波をリモコンが受信すると「警報を停止しました。」と発声します。

液晶画面 【リモコン】リモコンが「警報を停止しました。」と発声し、パニックアラームが停止したことをお知らせします。

液晶画面 【液晶画面】・バックライトは本体からの電波を受信するまで点灯し、消灯。
・Tulが操作したリモコンNo.を表示し、消灯。
・Tulが電波を受信していることをアニメーションで表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

警報機のみ停止する

ドアロックハーネスを接続している場合の操作です。ドアを解錠しないで警報機を途中で停止したい場合に使用します。

ステップ 1 リモコンの(FUNC)ボタンを押します。

(FUNC)ボタンを押す音「ポッ」に合わせて液晶画面表示が下表のように変化します。

液晶画面

メモ マナーモード時は、音を発しません。

(FUNC)ボタン(進む)

- 1) S/OFF
- 2) P
- 3) S/OFF
- 4) P
- 5) BUZ
- 6) BUZ
- 7) V

(STG)ボタン(戻る)

ステップ 2 S/OFF を点滅表示させます。

ステップ 3 S/OFF が点滅している状態で、リモコンの(RST)ボタンを「パッ」と音が鳴るまで押します。

液晶画面 【リモコン】リモコンが「パッ」と鳴り、警報機の停止操作をしたことをお知らせします。

液晶画面 【液晶画面】・S/OFF が点滅から点灯へ変化し、警報機の停止操作したことを表示。
・Tulが電波を送信していることをアニメーションで表示。
・目がアニメーション表示から点灯へ変化し、警報機の停止操作したことを表示。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

ステップ 4 リモコンからの電波を本体が受信し、警報機が停止します。

警報機が停止したときの車両側表示は、23ページの「警報機を停止させる ステップ2」を確認してください。

ステップ 5 本体からの電波をリモコンが受信すると「警戒を解除しました。」と発声します。

履歴がなかった場合

液晶画面 【リモコン】リモコンが「警戒を解除しました。」と発声し、警報機が停止したことをお知らせします。

液晶画面 【液晶画面】・バックライトは本体からの電波を受信するまで点灯し、消灯。
・S/OFF STAGE 1/2/3/A/B/C が消灯し、警報機が停止したことを表示。
・は点灯表示を継続し、ドアが施錠状態であることを表示。(ドアロックハーネスの配線有無に関係なく、リモコンの操作状態を表示します。)
・Tulが電波を受信していることをアニメーションで表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。
・が操作したリモコンNo.を表示し、消灯。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

履歴があった場合

液晶画面 【リモコン】リモコンが「警戒を解除しました。」と発声し、警報機が停止したことをお知らせします。その後「履歴があります。」と発声します。

液晶画面 【液晶画面】・バックライトは本体からの電波を受信するまで点灯し、消灯。
・S/OFF STAGE 1/2/3/A/B/C が消灯し、警報機が停止したことを表示。
・は点灯表示を継続し、ドアが施錠状態であることを表示。(ドアロックハーネスの配線有無に関係なく、リモコンの操作状態を表示します。)
・Tulが電波を受信していることをアニメーションで表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。
・Danger! が消灯。
・感知したセンサー()が点滅表示し、消灯。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

ドアのみ施錠する

ドアロックハーネスを接続している場合の操作です。警報機を動作させないでドアを施錠する場合に使用します。

ステップ 1 リモコンの(FUNC)ボタンを押します。

(FUNC)ボタンを押す音「ポッ」に合わせて液晶画面表示が下表のように変化します。

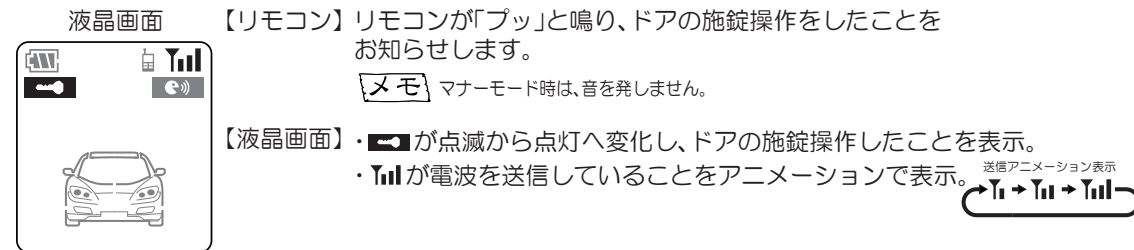
メモ マナーモード時は、音を発しません。



ステップ 2 を点滅表示させます。

ステップ 3 が点滅している状態で、リモコンの(SET)ボタンを「プッ」と音が鳴るまで押します。

メモ 操作の途中でバックライトが消灯した場合は、もう一度ステップ1からやり直してください。

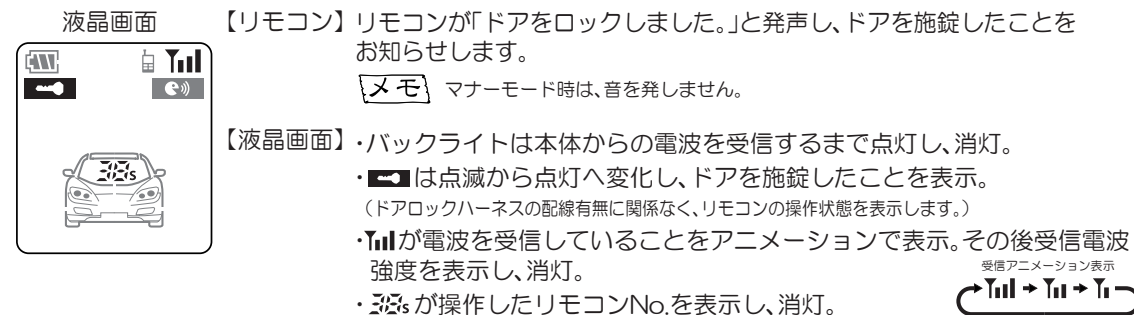


ステップ 4 リモコンからの電波を本体が受信し、ドアを施錠します。

ドアを施錠したときの車両側表示は、下表の通りです。

サイレン	ハザード	ホーン(選択)
クツ	2回点滅 (配線時のみ)	1回吹鳴

ステップ 5 本体からの電波をリモコンが受信すると「ドアをロックしました。」と発声します。

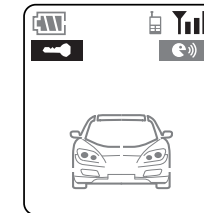


ドアを解錠する

警報機を動作させないでドアを施錠した場合(36ページの操作)の解錠操作です。

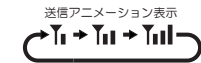
ステップ 1 リモコンの(RST)ボタンを「パッ」と音が鳴るまで押します。

【リモコン】リモコンが「パッ」と鳴り、ドアの解錠操作をしたことをお知らせします。



メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】・バックライトが点灯(緑色)。
・Tulが電波を送信していることをアニメーションで表示。



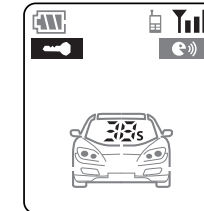
ステップ 2 リモコンからの電波を本体が受信し、ドアを解錠します。

ドアを解錠したときの車両側表示は、下表の通りです。

サイレン	ハザード	ホーン(選択)
クツ	1回点滅 (配線時のみ)	1回吹鳴

ステップ 3 本体からの電波をリモコンが受信すると「ドアロックを解除しました。」と発声します。

【リモコン】リモコンが「ドアロックを解除しました。」と発声し、ドアを解錠したことをお知らせします。



メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】・バックライトは本体からの電波を受信するまで点灯し、消灯。
・が消灯し、ドアを解錠したことを表示。
(ドアロックハーネスの配線有無に関係なく、リモコンの操作状態を表示します。)
・Tulが電波を受信していることをアニメーションで表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。



・が操作したリモコンNo.を表示し、消灯。

リモコンのエラー表示について

リモコンのエラー表示は、下表の通りです。指示にしたがって対処してください。

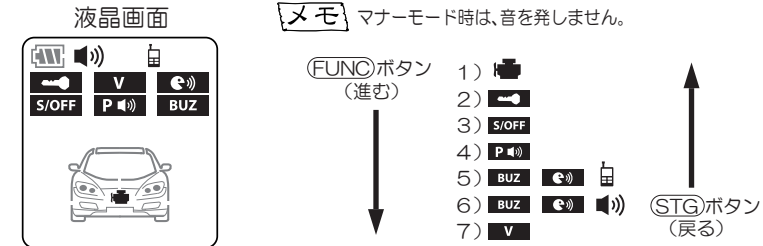
	エラー表示	対 処
キャリアセンサーエラー	液晶画面 	近くで同じ周波数(429MHz帯)が使用されています。しばらくしてから、もう一度操作してください。
	エラー音	「ブブブブッ」
	バイブレーション動作	「ブルッ_ブルッ_ブルッ」
通信エラー	液晶画面 	リモコンと本体の通信ができていません。 ・車に近づいて操作してみてください。 ・本体のMODEスイッチ1の10「リモコン登録」がONになっていないか確認してください。 ・14日間エンジンを始動しない場合は、本体がスリープモード(バッテリー保護機能)に入っているため、通信できません。 ①警報機を動作させている場合(スリープモード1)一度ドアを開け、警報させてから操作してください。 ②警報機を停止している場合(スリープモード2)エンジンキーにて、エンジンを始動してから操作してください。 ・車のバッテリーが弱っていないか確認してください。
	エラー音	「ブーブー」
	バイブレーション動作	「ブルッ_ブルッ_ブルッ」
本体受付エラー	液晶画面 	リモコンの操作を本体が受け付けていません。 ・本体のMODEスイッチ2の2「EGS機能設定」がONになっていないか確認してください。 ・7日間連続で警報機を動作させた場合、本体が省エネモード(バッテリー保護機能)に入っているため、警報機の停止/再動作・警報履歴の確認・ドアの再施錠・エンジン始動/停止(V-10の場合)以外のリモコン操作を本体が受け付けません。一度リモコンで警報機を停止またはドアを開け、警報させてから操作してください。
	エラー音	「ブーブー」
	バイブレーション動作	「ブルッ_ブルッ_ブルッ」
ボタン操作エラー	液晶画面	—
	エラー音	「ブーブー」
	バイブレーション動作	「ブルッ_ブルッ_ブルッ」

バイブレーション機能の併用設定/解除

リモコンの発する音に合わせてバイブレーションを動作させ、音と振動にて確認することができます。バイブレーション動作については、「バイブレーション動作内容一覧」を確認してください。

ステップ 1 リモコンの(FUNC)ボタンを押します。

(FUNC)ボタンを押す音「ポッ」に合わせて液晶画面表示が下表のように変化します。



ステップ 2 「V」を点滅表示させます。

ステップ 3 バイブレーションを設定/解除します。

液晶画面の「V」が点滅している状態で、リモコンの(SET)ボタンを「プッ」と音が鳴るまで押します。



バイブレーションの設定

【リモコン】リモコンが「プッ」と鳴り、バイブレーションに設定されたことをお知らせします。

【液晶画面】「V」が点灯し、バイブレーションに設定されたことを表示。

バイブレーションの解除

【リモコン】リモコンが「パッ」と鳴り、バイブレーションが解除されたことをお知らせします。

【液晶画面】「V」が消灯し、バイブレーションが解除されたことを表示。

以上でバイブレーションの設定は、終了です。

【バイブレーション動作内容一覧】

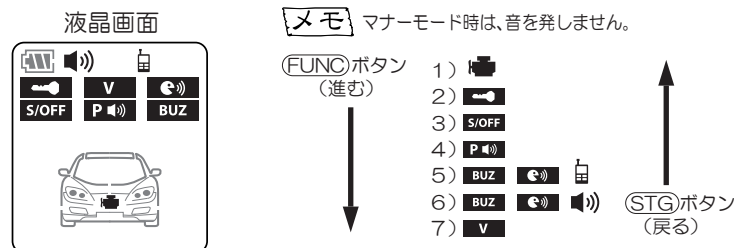
	バイブレーション動作
ボタン短押し時	ブルッ
ボタン長押し時	ブルルッ
ボタン同時長押し時	ブルッ_ブルッ_ブルッ
ボタン操作無効エラー	ブルッ_ブルッ_ブルッ
リモコン操作時のアンサーバック受信時	ブルッ_ブルッ
異常感知通報受信時	ブル〜ッ...
警報履歴受信時	ブル〜ッ
通信エラー受信時	ブルッ_ブルッ_ブルッ
充電開始時	ブルッ
充電完了時	ブルッ_ブルッ_ブルッ
低電圧モード作動時	ブル〜ッ

リモコン操作時のアンサーバック音切り替え方法

リモコン操作時のアンサーバック音を音声/ブザー音に切り替えることができます。リモコン操作時のアンサーバック音の内容については、「リモコン操作時のアンサーバック音一覧」を確認してください。

ステップ 1 リモコンの(FUNC)ボタンを押します。

(FUNC)ボタンを押す音「ポッ」に合わせて液晶画面表示が下表のように変化します。



ステップ 2 BUZを点滅表示させます。

ステップ 3 リモコン操作時のアンサーバック音を設定します。

メモ 操作の途中でバックライトが消灯した場合は、もう一度ステップ1からやり直してください。

音声に設定

BUZが点滅している状態で、リモコンの(SET)ボタンを「プッ」と音が鳴るまで押します。
 【リモコン】リモコンが「プッ」と鳴り、音声に設定されたことをお知らせします。
 メモ マナーモード時は、音を発しません。
 【液晶画面】液晶画面にBUZが点灯し、音声に設定されたことを表示。

ブザー音に設定

BUZが点滅している状態で、リモコンの(RST)ボタンを「パッ」と音が鳴るまで押します。
 【リモコン】リモコンが「パッ」と鳴り、ブザー音に設定されたことをお知らせします。
 メモ マナーモード時は、音を発しません。
 【液晶画面】液晶画面にBUZが点灯し、ブザー音に設定されたことを表示。

以上でリモコン操作時のアンサーバック音の設定は、終了です。

【リモコン操作時のアンサーバック音一覧】

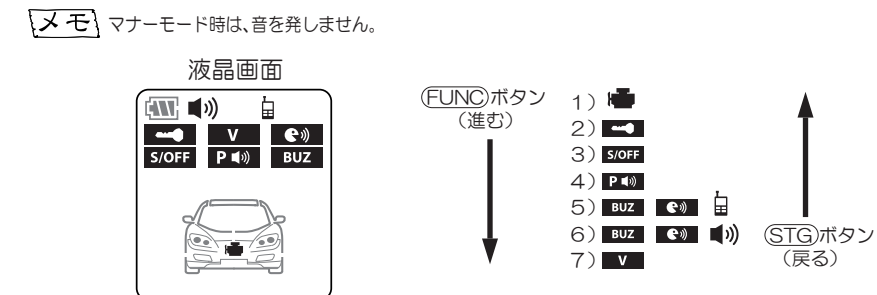
	音声設定時	ブザー音設定時
警戒ON(ドアロック連動時)	警戒を開始しました。	ピロリッ
警戒OFF(ドアロック連動時)	警戒を解除しました。	
警戒のみOFF	警戒を解除しました。	
警報停止	警報を停止しました。	
ドアのみロック	ドアをロックしました。	
ドアのみアンロック	ドアロックを解除しました。	
パニックアラーム動作	警報を開始しました。	
パニックアラーム停止	警報を停止しました。	
カーファインド動作	ピロリッ	
車両の状態および警報履歴の確認	(ブザー音が鳴ります。)	
エンジン始動	エンジンを始動しました。	
エンジン停止	エンジンを停止しました。	

通報音切り替え方法

リモコンの通報音を音声/ブザー音に切り替えることができます。通報音の内容については、「通報音一覧」を確認してください。

ステップ 1 リモコンの(FUNC)ボタンを押します。

(FUNC)ボタンを押す音「ポッ」に合わせて液晶画面表示が下表のように変化します。



ステップ 2 BUZを点滅表示させます。

ステップ 3 通報音を設定します。

メモ 操作の途中でバックライトが消灯した場合は、もう一度ステップ1からやり直してください。

音声に設定

BUZが点滅している状態で、リモコンの(SET)ボタンを「プッ」と音が鳴るまで押します。
 【リモコン】リモコンが「プッ」と鳴り、音声に設定されたことをお知らせします。
 メモ マナーモード時は、音を発しません。
 【液晶画面】液晶画面にBUZが点灯し、音声に設定されたことを表示。

ブザー音に設定

BUZが点滅している状態で、リモコンの(RST)ボタンを「パッ」と音が鳴るまで押します。
 【リモコン】リモコンが「パッ」と鳴り、ブザー音に設定されたことをお知らせします。
 メモ マナーモード時は、音を発しません。
 【液晶画面】液晶画面にBUZが点灯し、ブザー音に設定されたことを表示。

以上で通報音の設定は、終了です。

【通報音一覧】

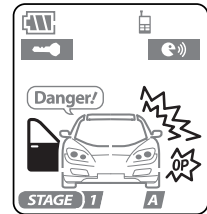
	音声設定時	ブザー音設定時
ドアスイッチセンサー検出時	侵入を感知しました。	ピロピロ...
振動センサー大振動検出時	衝撃を感知しました。	
振動センサー小振動検出時	衝撃を感知しました。	
オプションセンサー検出時	異常を感知しました。	
警報履歴通報音	履歴があります。	ピポピポッ

ボタン操作時の警報履歴通知機能

リモコンが異常感知通報を受信した場合、最初のリモコンボタン操作時に警報履歴を表示させる機能です。リモコンへの通報に気づかなかった場合でも、ボタン操作時に再度警報履歴を表示することで、見逃しを防止します。

メモ ・車両側の警報やリモコンの通報音を停止させた場合は、ボタン操作時の警報履歴を通知しません。
・ボタン操作禁止設定されている場合は、(SET)ボタンでのみボタン操作時の警報履歴を通知します。

警報履歴通知例



【リモコン】リモコンのボタンを押すと「履歴があります。履歴があります。」と発声します。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】・バックライトが点灯(赤色)。
・直近で感知したセンサー(🚗🔊🔊)を点滅表示し、消灯。

定期通信による警報履歴通知機能

警報履歴を本体からリモコンへ定期的に通信する機能です。リモコンが通信圏外にあった場合でも、定期通信「約3分に一度」を行うことで、リモコンへ警報履歴を確実に通知します。なおリモコンの液晶画面に感知したセンサーを表示しませんので、確認したい場合は、32ページの「警報履歴を確認する」を行ってください。

警報履歴通知例

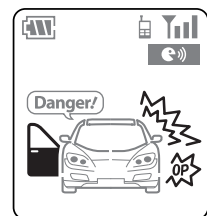
リモコンが通信圏内に入り、本体からの定期通信をリモコンが受信すると「履歴があります。履歴があります。」と発声します。ただし、一度通知されたセンサーよりも、危険度レベルの高いセンサーが反応しない限り警報履歴を通知しません。(マナーモード時は、音を発しません。)
感知したセンサーの危険度レベルは下表の通りです。

ドアスイッチ センサー	オプションセンサー レベル1	振動センサー大振動 オプションセンサーレベル2	振動センサー小振動 オプションセンサーレベル3
(危険度レベル)			
高 ←		→ 低	

警報機停止時の警報履歴通知機能

リモコンが異常感知通報を受信した場合、警報機停止操作時に警報履歴を表示させる機能です。警報機を停止したときに警報履歴があったことを再度表示し、再認識していただきます。

警報履歴通知例



【リモコン】リモコンの(RST)ボタンを押すと「警戒を解除しました。履歴があります。」と発声します。

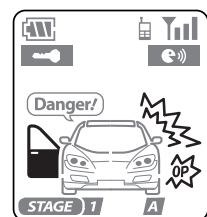
メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】・バックライトが点灯(赤色)。
・感知した全てのセンサー(🚗🔊🔊)を点滅表示し、消灯。

電源投入時の警報履歴通知機能

リモコンの電源投入時に車両の状態を確認する機能です。警報機動作中にリモコンの電源が切れてしまった場合でも、電源投入時に車両の状態を確認することで、警報履歴を確実に通知します。

警報履歴通知例



【リモコン】リモコンの(RST)ボタンを押すと「ピロリッ」履歴があります。」と発声します。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】・バックライトが点灯(赤色)。
・感知した全てのセンサー(🚗🔊🔊)を点滅表示し、消灯。

警戒パターンメモリー機能

警報機が動作中に警報機の電源(バッテリー等)が切られた場合でも、電源が切られる前の状態を警報機が記憶し、電源が再投入された時点から再度警戒を開始する機能です。行為的に電源が切られた場合でも、警報機は自動停止しません。

本体のオートスリープ機能

バッテリーを保護する機能です。3つのモードで段階的にバッテリーの消耗を抑え、バッテリーの負担を軽減します。

省エネモード

7日間連続で警報機を動作させた場合、省エネモードに入り、ドアスイッチセンサー以外のセンサーを全て停止します。またアンテナユニットのLED表示も遅い点滅となります。ただし、スリープモード1の条件(14日間エンジンを始動しない)が、省エネモードの条件よりも先に当てはまると、スリープモード1に入ります。

メモ ・下記以外のリモコン操作を行った場合は、本体受付エラー(Eと3が交互に表示)が表示されます。
・警報機の再動作およびドア再施錠してもハザード表示しません。

【リモコンで行える操作】

- ・警報機の停止/再動作
- ・エンジンの始動/停止(v-10の場合)
- ・警報履歴の確認
- ・ドアの再施錠

【車両側が行える警報】

- ・サイレン/ホーン(選択)
- ・ハザード

【省エネモードが解除される行為】

- ・ドアを開け警報を行った場合
- ・リモコンで警報機を停止した場合

スリープモード1

下記どちらかの条件に当てはまるとスリープモード1に入り、ドアスイッチセンサー以外のセンサーを全て停止します。またアンテナユニットのLED表示も停止します。

【スリープモード1の条件】

- ・14日間連続で警報機を動作させた場合。
- ・14日間エンジンを始動させない状態が続き、そのとき警報機が動作していた場合。

メモ リモコン操作を行った場合は、通信エラー(Eと2が交互に表示)が表示されます。

【リモコンで行える操作】

- ・リモコン操作は、一切できません。

【スリープモード1が解除される行為】

- ・ドアを開け警報を行った場合

【車両側が行える警報】

- ・サイレン/ホーン(選択)
- ・ハザード

スリープモード2

14日間エンジンを始動させない状態が続き、そのとき警報機が停止していた場合、スリープモード2に入り、本体機能を全て停止します。

メモ リモコン操作を行った場合は、通信エラー(Eと2が交互に表示)が表示されます。

【リモコンで行える操作】

- ・リモコン操作は、一切できません。

【スリープモード2が解除される行為】

- ・エンジンキーにてエンジンを始動した場合

リモコンのオートスリープ機能

リモコンの電池容量を確保するための機能です。2つのモードで段階的に電池の消耗を抑え、電池の負担を軽減します。

低電圧モード

アイコン表示が1目盛(□)になった時点で、低電圧モードの通知音「ピピピピピピピッ」が鳴り、バックライトとハイブレーションの機能を停止します。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

スリープモード

低電圧モードの通知音「ピピピピピピピッ」が鳴ってから約3分後、強制的に電源を切ります。その後は、再度電源を入れることで警報機停止操作(警戒OFF)が、5回程度行えます。このような状態になった場合は、すぐに充電を行ってください。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

エンジンスターターの基本操作(v-10のみ)

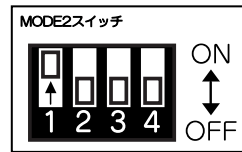
エンジンを始動する

- メモ** ・エンジンスターターでエンジン始動後は、警戒ON操作することができません。エンジンスターターでエンジンを始動しているときに警報機を動作させたい場合は、警報機を動作させてからエンジンスターターでエンジンを始動してください。
 ただし、ターボタイマーを設定している場合は、エンジンスターターでエンジンを始動しても警戒ON操作ができません。
 アイドリング中に働くセンサーは、ドアスイッチセンサーとセンサーレベル1商品(別売)のみです。アイドリングが終了すると、停止していたセンサーが警戒を開始します。
 ・複数のリモコン(最大4個)を使用している場合、エンジンの始動/停止が行えるリモコンは、一番最初に登録したリモコン「No.1」のみです。その他のリモコンでは、エンジンの始動/停止はできません。(リモコンのNo.は、(FUNC)ボタンを長押し「警報履歴の確認」した際に、リモコンの液晶画面に表示されます。)

ステップ 1 あらかじめ車を下記の状態にします。

注意 リモコンでエンジンをかけるときは、エアコン(ヒーター)以外のスイッチはOFFにしてください。リヤ熱線や大容量のオーディオ等を併用すると、本品のヒューズが切れることがあります。

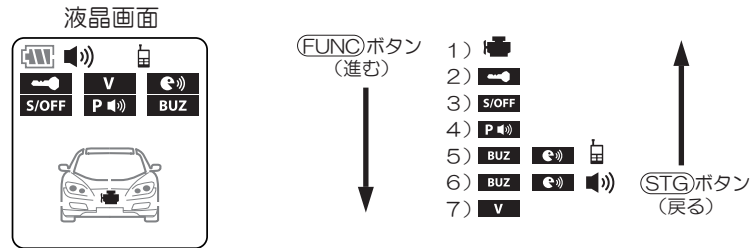
- 本体のMODE2スイッチメニュー1「EGS/パワースイッチ」をONにする。
- パーキングブレーキをしっかり引き、シフトレバーをPレンジの位置にする。
- 必要に応じてエアコンをセットする。(他の電装品はOFFにする。)
- オートライト車は、ライトスイッチをOFFにする。
- エンジンキーを抜き、携帯する。



ステップ 2 リモコンの(FUNC)ボタンを押します。

(FUNC)ボタンを押す音「ボッ」に合わせて液晶画面表示が下表のように変化します。

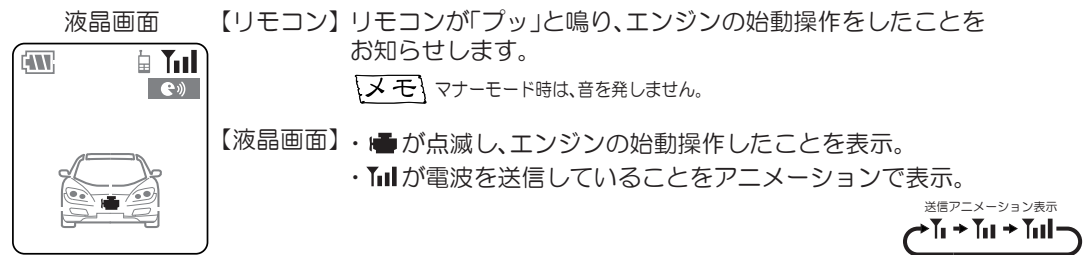
メモ マナーモード時は、音を発しません。



ステップ 3 点滅表示させます。

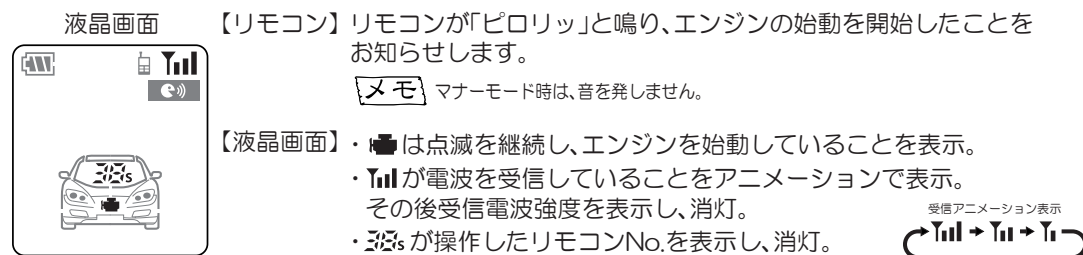
ステップ 4 点滅している状態で、リモコンの(SET)ボタンを「ブツ」と音が鳴るまで押します。

メモ 操作の途中でバックライトが消灯した場合は、もう一度ステップ1からやり直してください。



ステップ 5 リモコンからの電波を本体が受信し、エンジンを始動します。このとき車両側は、受信したことを表示しません。

ステップ 6 本体からの電波をリモコンが受信すると「ピロリッ」と音が鳴ります。



エンジンスターターの基本操作(v-10のみ)

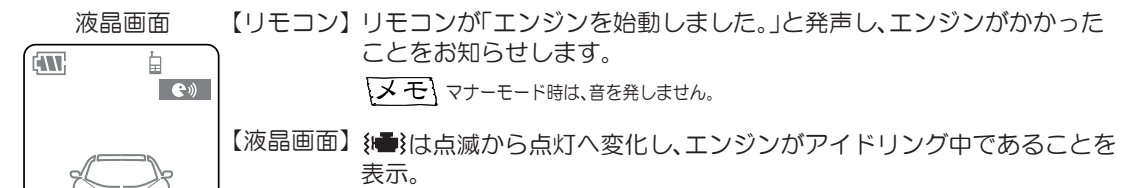
エンジンを始動する(つづき)

ステップ 7 エンジンの始動が完了すると、エンジンスターターユニットから「ピピピッ」と音が鳴り、リモコンへエンジン始動完了の電波を送信します。

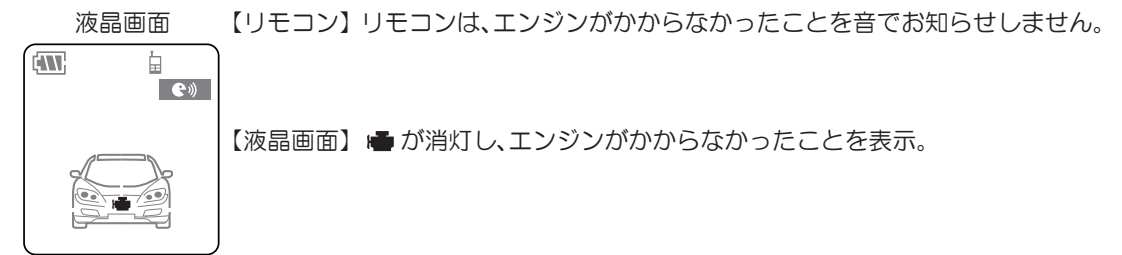
ステップ 8 本体からの電波をリモコンが受信すると「エンジンを始動しました。」と発声します。

- メモ** ・リモコンによるアイドリング中は、エンジンスターターユニットから数秒間隔で警告音「ピッ」を鳴らし、エンジンキー以外でのエンジン始動であることをお知らせします。この警告音は、残り時間に連動して徐々に短くなり、自動停止1分前に連続音へと変わり、使用者にまもなくエンジンが停止することをお知らせします。
 ・一度でエンジンがかからなかった場合は、その後2回のリトライ(再始動)を行います。
 ・エンジン始動完了の電波を受信できなかった場合は、リモコンのエンジン始動操作してから約130秒後に強制的に消灯させます。この場合は、3分に一度の定期通信または警報履歴確認操作でエンジン始動が点滅の有無を確認できます。
 ・アイドリング停止後は、点滅が消灯し、エンジンが停止していることをリモコンで確認できます。
 ・アイドリング時間は、「5分/20分/30分」のいずれかに設定することができます。詳細は、47ページの「アイドリング時間の設定」を確認してください。ご購入時は、20分に設定されています。

エンジンがかかった場合



エンジンがかからなかった場合



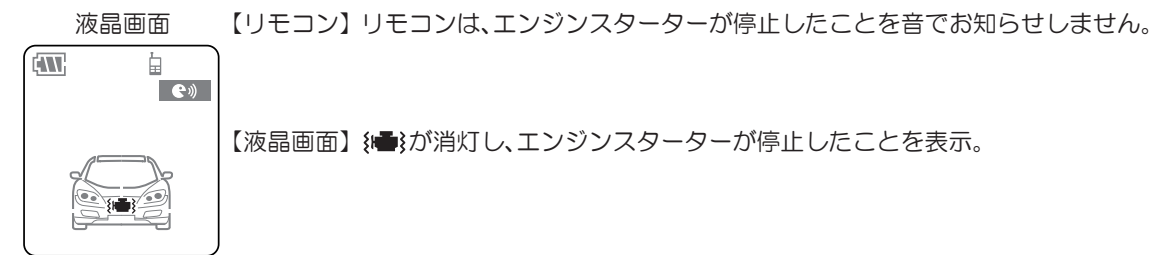
ステップ 9 走行します。

警告 エンジンキーを回す際に、誤ってSTART(STT)の位置まで回すとスターターモーターを傷める場合があります。

注意 車へ乗車する際は、必ず警報機を停止してください。

メモ ・走行操作することでエンジンスターターの機能が停止し、エンジンスターターユニットからのブザー音も停止します。
 ・安全センサーケーブルの茶コード(ドアスイッチ配線)を接続している場合は、ドアを開けると同時にエンジンが停止します。エンジンキーにて再始動してください。

エンジンキーを差し込み、ONの位置まで回してください。エンジンスターター機能が停止し、通常通り走行できます。



エンジンスターターの基本操作(V-10のみ)

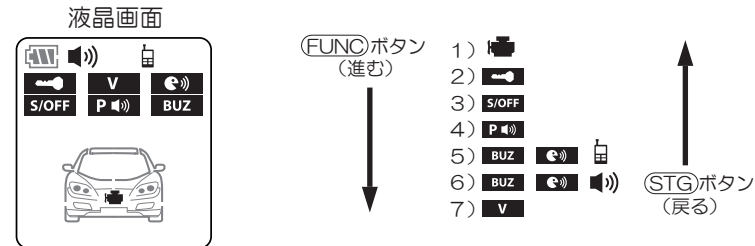
エンジンスターターの基本操作(V-10のみ)

エンジンを停止する

ステップ 1 リモコンの(FUNC)ボタンを押します。

(FUNC)ボタンを押す音「ポッ」に合わせて液晶画面表示が下表のように変化します。

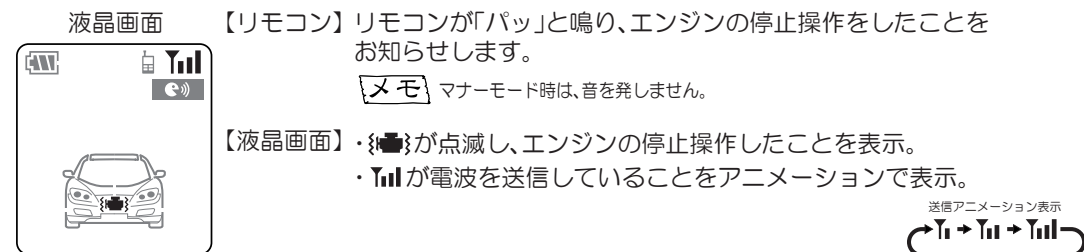
メモ マナーモード時は、音を発しません。



ステップ 2 電波を点滅表示させます。

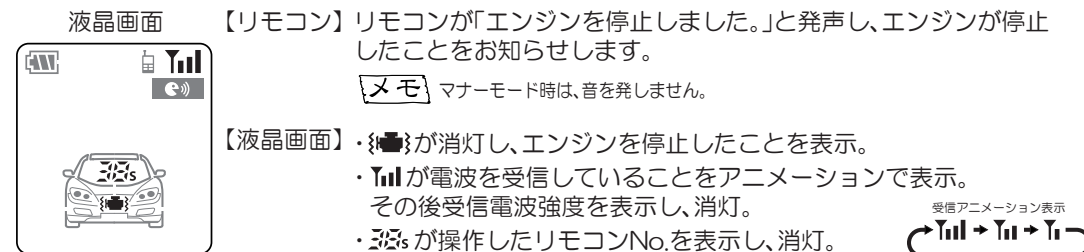
ステップ 3 電波が点滅している状態で、リモコンの(RST)ボタンを「パッ」と音が鳴るまで押します。

メモ 操作の途中でバックライトが消灯した場合は、もう一度ステップ1からやり直してください。



ステップ 4 リモコンからの電波を本体が受信し、エンジンを停止します。このとき車両側は、受信したことを表示しません。

ステップ 5 本体からの電波をリモコンが受信すると「エンジンを停止しました。」と発声します。



タイマーによる自動停止

エンジンスターターでエンジンを始動した場合、約20分(初期状態)で自動停止します。アイドリング時間は、「5分/20分/30分」のいずれかに設定することができます。変更する場合は、47ページの「アイドリング時間の設定」を確認してください。

ガソリン/ディーゼル車の設定

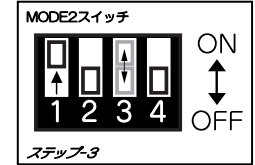
ガソリン/ディーゼル車の始動検出方式を適正化します。ご購入時は、ガソリン車(MODE2スイッチOFF)となっています。



ステップ 1 本体のMODE2スイッチメニュー1「EGSパワースイッチ」をOFFにします。

ステップ 2 本体のMODE2スイッチメニュー3「ガソリン/ディーゼル切替」を設定します。

ガソリン車設定 スイッチ3を「OFF」にします。
ディーゼル車設定 スイッチ3を「ON」にします。

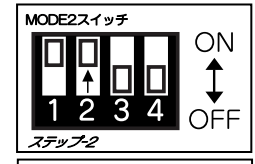


ステップ 3 本体のMODE2スイッチメニュー1「EGSパワースイッチ」をONにします。

以上でガソリン/ディーゼル車の設定は、終了です。

アイドリング時間の設定

エンジンスターターでエンジンを始動させた場合のアイドリング時間を「5分/20分/30分」のいずれかに設定することができます。ご購入時は、20分に設定されています。



ステップ 1 リモコンの電源を入れます。

ステップ 2 本体のMODE2スイッチメニュー2「EGS機能設定」をONにします。

ステップ 3 エンジンキーをONの位置にします。

メモ このとき誤ってエンジンを始動させないでください。以降の設定ができません。

ステップ 4 10秒以内にリモコンの(SET)ボタンを「ブッ」と音が鳴るまで押します。エンジンスターターユニットから「ブブッ ブブッ…」の3連音が鳴ります。

メモ ・10秒以内に操作が完了しない場合は設定できません。エンジンキーをOFFに戻し、ステップ3からやり直してください。
・リモコンのボタン操作後にエラー表示をしますが、気にせずエンジンスターターユニットからの音にしたがって、設定を行ってください。

ステップ 5 30秒以内に次の操作を行います。

メモ ・30秒以内に操作が完了しない場合は、エンジンスターターユニットから「ピーピー」と警告音がし、その後の設定ができません。エンジンキーをOFFに戻し、ステップ3からやり直してください。
・リモコンのボタン操作後にエラー表示をしますが、気にせずエンジンスターターユニットからの音にしたがって、設定を行ってください。

(1)「5分」に設定。

リモコンの(RST)ボタンを「パッ」と音が鳴るまで押します。エンジンスターターユニットから「ブー」という音がして、5分に設定されたことをお知らせします。

(2)「20分」に設定。

リモコンの(FUNC)ボタンを「ポッ ポポッ」と音が鳴るまで長押しします。エンジンスターターユニットから「ブーブー」という音がして、20分に設定されたことをお知らせします。

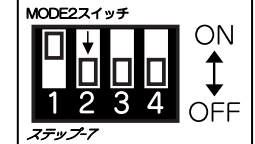
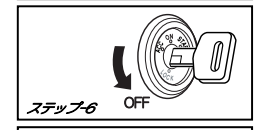
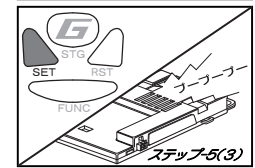
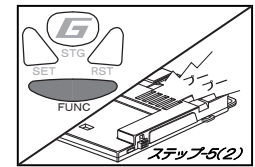
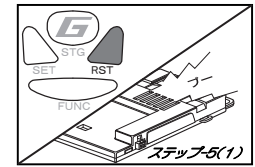
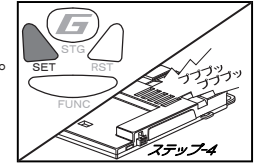
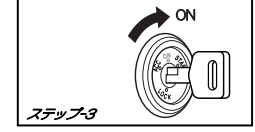
(3)「30分」に設定。

リモコンの(SET)ボタンを「ブッ」と音が鳴るまで押します。エンジンスターターユニットから「ブーブーブー」という音がして、30分に設定されたことをお知らせします。

ステップ 6 エンジンキーをOFFにします。

ステップ 7 本体のMODE2スイッチメニュー2「EGS機能設定」をOFFにします。以上でアイドリング時間の設定は、終了です。

メモ 車のバッテリーを外したり、車種別専用ハーネス(アース線)を外した場合には、初期設定20分に戻ります。



エンジンスターターの基本操作(v-10のみ)

グロー時間の設定

グロー(予熱時間)が必要な車(ディーゼル車等)の場合、グローの時間を「3秒/6秒/9秒」のいずれかに設定することができます。ご購入時は、3秒が設定されています。

メモ グロー時間とは、エンジンキーをONにしてからスターターモーターを回すまでの時間のことです。ガソリン車は通常3秒(初期状態)で使用してください。

ステップ 1 リモコンの電源を入れます。

ステップ 2 本体のMODE2スイッチメニュー2「EGS機能設定」をONにします。

ステップ 3 エンジンキーをONの位置にします。

メモ このとき誤ってエンジンを始動させないでください。以降の設定ができません。

ステップ 4 10秒以内にリモコンの(RST)ボタンを「パッ」と音が鳴るまで押します。エンジンスターターユニットから「ブッ ブッ…」の2連音が鳴ります。

メモ ・10秒以内に操作が完了しない場合は設定できません。エンジンキーをOFFに戻し、ステップ3からやり直してください。
・リモコンのボタン操作後にエラー表示をしますが、気にせずエンジンスターターユニットからの音にしたがって、設定を行ってください。

ステップ 5 30秒以内に次の操作を行います。

メモ ・30秒以内に操作が完了しない場合は、エンジンスターターユニットから「ピーピー」と警告音がし、グロー時間が3秒に設定されます。エンジンキーをOFFに戻し、ステップ3からやり直してください。
・リモコンのボタン操作後にエラー表示をしますが、気にせずエンジンスターターユニットからの音にしたがって、設定を行ってください。

(1)「6秒」に設定。

リモコンの(RST)ボタンを「パッ」と音が鳴るまで押します。エンジンスターターユニットから「ピーピー」という音がして、6秒に設定されたことをお知らせします。

(2)「9秒」に設定。

リモコンの(SET)ボタンを「ブッ」と音が鳴るまで押します。エンジンスターターユニットから「ピーピー」という音がして、9秒に設定されたことをお知らせします。

(3)「3秒」に設定。

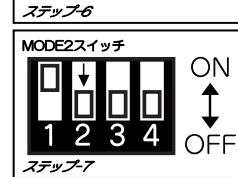
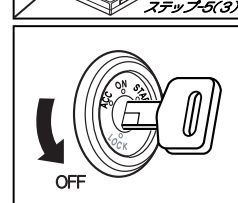
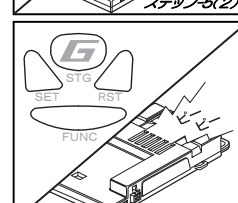
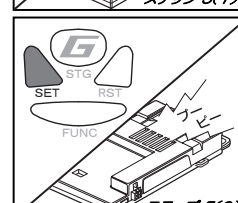
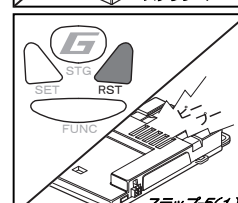
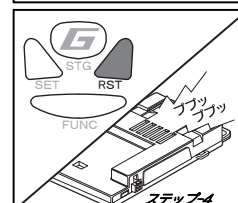
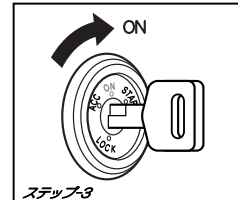
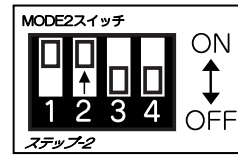
そのまま、30秒間放置します。エンジンスターターユニットから「ピーピー」という音がして、3秒に設定されたことをお知らせします。

ステップ 6 エンジンキーをOFFにします。

ステップ 7 本体のMODE2スイッチメニュー2「EGS機能設定」をOFFにします。

以上でグロー時間の設定は、終了です。

メモ 車のバッテリーを外したり、車種別専用ハーネス(アース線)を外した場合には、初期設定3秒に戻ります。



エンジンスターターの基本操作(v-10のみ)

キー始動学習機能の設定

スターターモーター駆動時間が短すぎてエンジンがかかりにくい場合には、キー始動学習機能の設定を行ってください。

ステップ 1 リモコンの電源を入れます。

ステップ 2 本体のMODE2スイッチメニュー2「EGS機能設定」をONにします。

ステップ 3 エンジンキーをONの位置にします。

メモ このとき誤ってエンジンを始動させないでください。以降の設定ができません。

ステップ 4 10秒以内にリモコンの(RST)ボタンを「パッ」と音が鳴るまで押します。エンジンスターターユニットから「ブッ ブッ…」の2連音が鳴ります。

メモ ・10秒以内に操作が完了しない場合は設定できません。エンジンキーをOFFに戻し、ステップ3からやり直してください。
・リモコンのボタン操作後にエラー表示をしますが、気にせずエンジンスターターユニットからの音にしたがって、設定を行ってください。

ステップ 5 30秒以内にエンジンキーでエンジンを始動します。

エンジンスターターユニットから「ブブブブ」と音が鳴り、キー始動学習が行われたことをお知らせします。スターター駆動時間は、0.8~3秒の範囲で学習し、以降のエンジンスターター始動時に適用されます。

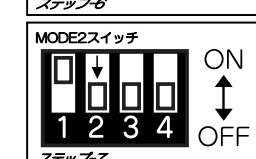
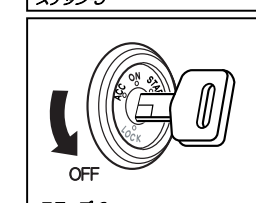
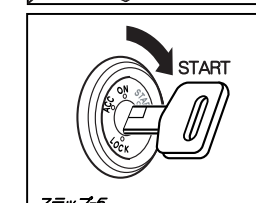
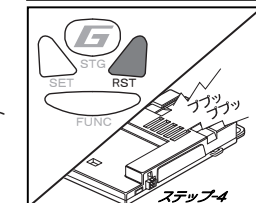
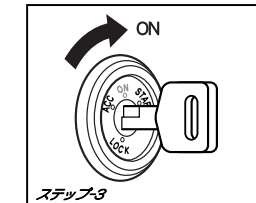
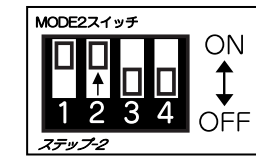
メモ 30秒以内に操作が完了しない場合は、キー始動学習は行われず、エンジンスターターユニットは「グロー時間の設定」モードとなり、「ピーピー」という音がし、グロー時間が3秒に設定されてしまいます。エンジンキーをOFFに戻し、ステップ3からやり直してください。またグロー時間を設定している場合は、48ページの「グロー時間の設定」を再度行ってください。

ステップ 6 エンジンキーをOFFにします。

ステップ 7 本体のMODE2スイッチメニュー2「EGS機能設定」をOFFにします。

以上でキー始動学習機能の設定は、終了です。

メモ 車のバッテリーを外したり、車種別専用ハーネス(アース線)を外した場合には、再度設定する必要があります。

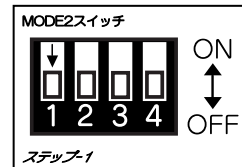


ターボタイマーの設定/解除

ターボタイマー機能を使用する場合に設定します。ご購入時は、ターボタイマー解除(MODE2スイッチOFF)となっています。

メモ ターボタイマー使用中でも、警戒ON操作ができます。アイドル中に働くセンサーは、ドアスイッチセンサーとセンサーレベル1商品(別売)のみです。アイドル停止後に停止していたセンサーが警戒を開始します。

ステップ1 本体のMODE2スイッチメニュー1「EGS/パワースイッチ」をOFFにします。



ステップ2 本体のMODE2スイッチメニュー4「ターボタイマー」を設定します。

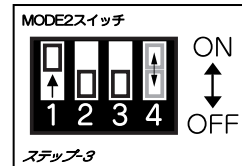
ターボタイマー設定

ターボタイマー解除

スイッチ4を「ON」にします。

スイッチ4を「OFF」にします。

ステップ3 本体のMODE2スイッチメニュー1「EGS/パワースイッチ」をONにします。



以上でターボタイマーの設定/解除は、終了です。

ターボタイマーを動作させる

ターボタイマー機能は、フルオート方式を採用しています。アフターアイドルの時間は、車の走行状況に合わせて自動的に設定されます。動作の確認は、下記手順にしたがい行ってください。

ステップ1 エンジンキーまたはリモコンで、エンジンを始動します。

ステップ2 走行します。

30秒以上走行しないと、ターボタイマーは作動しません。

ステップ3 走行終了後シフトレバーをPレンジにし、エンジンキーをOFFにします。

注意 ターボタイマーによるアイドル中には、エアコン(ヒーター)以外のスイッチをOFFにしてください。リヤ熱線や大容量オーディオ等を併用すると、本品のヒューズが切れることがあります。

注意 必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPレンジの位置にしてください。

メモ ・ターボタイマー動作中にエンジンキーが抜けられない車があります。このような車は、別売の「日産キーロックアダプター」を使用してください。
・正常にターボタイマーが作動しない車があります。このような車は、別売の「ターボタイマーストール防止アダプター」を使用してください。
・ターボタイマーのアイドル時間は30秒~5分の範囲で自動的に設定されます。
・本品リモコンの液晶画面にターボタイマー動作中は「T」が点灯します。ターボタイマーが停止したことをリモコンの音で確認できません。液晶画面での確認となります。

ターボタイマー動作が開始すると、エンジンスターターユニットから「プッププッ」というカウントダウン音が鳴り始めます。カウントダウン音は、残り時間に連動して徐々に短くなり、停止直前で連続音へと変わります。

ターボタイマーを停止させる

リモコン操作で、アフターアイドルを途中で停止することができます。46ページの「エンジンを停止する」操作を行ってください。

ステップ1 リモコンで警報機を動作させます。

「警戒ステージ1_警戒モードA」の警戒パターンで警報機を動作させてください。

ステップ2 アンテナユニットの赤色LEDが点滅を開始してから、どの位の振動でセンサーが感知するか確認してください。

注意 動作確認で車へ振動を与える場合、強く叩きすぎてケガをしないように気をつけてください。またガラスやボディ等が、破損しないように充分注意してください。万一破損等が発生しても、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

メモ 一旦センサーが感知すると、その後約5秒間は感知しません。

大振動センサー感知の場合

小振動センサー感知の場合



注意警報時(5秒警報)



威嚇警報時(1秒警報)

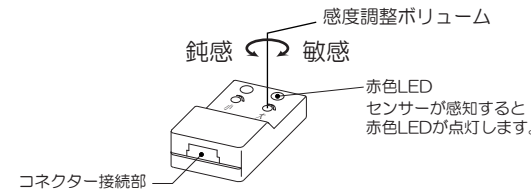
ステップ3 振動センサーの感度を調整します。

大振動と小振動の感度調整ボリュームを付属の感度調整ドライバーを使用し、希望する感度に調整してください。

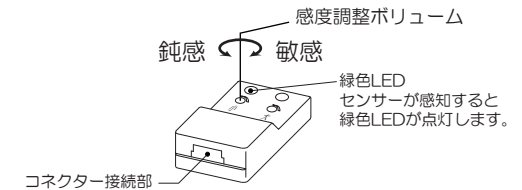
注意 感度調整ボリュームは、力を入れず軽く回してください。無理に回すと破損します。

【大振動センサー感度調整】

【小振動センサー感度調整】



時計回り	感度が「敏感」になります。
反時計回り	感度が「鈍感」になります。



時計回り	感度が「敏感」になります。
反時計回り	感度が「鈍感」になります。

メモ ・大振動を感知した場合は、振動センサーの赤色LEDと一緒に緑色LEDも点灯します。
・本品の振動センサーは、主に窓ガラスを割られた際に発生する衝撃に対して感知させることを想定しております。車両によってボディを軽く叩く程度の衝撃にも感知させることができますが、その場合は、犯人に対する威嚇効果を高められる反面、付近を車が通過したときなどに発生する外乱振動でも感知する可能性が高くなります。住宅密集地等の警報音が近所迷惑となるような場所では、適切と思われる感度に調整してお使いください。

小振動感度調整推奨例

小振動センサーの感度は、警戒パターン「警戒ステージ1_警戒モードA」の状態でも運転席または助手席側のガラスを強めに叩いたときに、威嚇警報(1秒警報)で警報するように感度調整してください。

調整上の注意

・振動センサーの感度を上記のように調整していただくことで、外乱振動による誤動作を大幅に軽減することができますが、下記のような状況下では、警報してしまう場合があります。

1. 強風・豪雨・雷雨・台風等の気象条件の場合。
2. 地震が起きた場合。
3. 線路付近・幹線道路沿い・工事現場付近・飛行場付近等の振動が発生する場所。

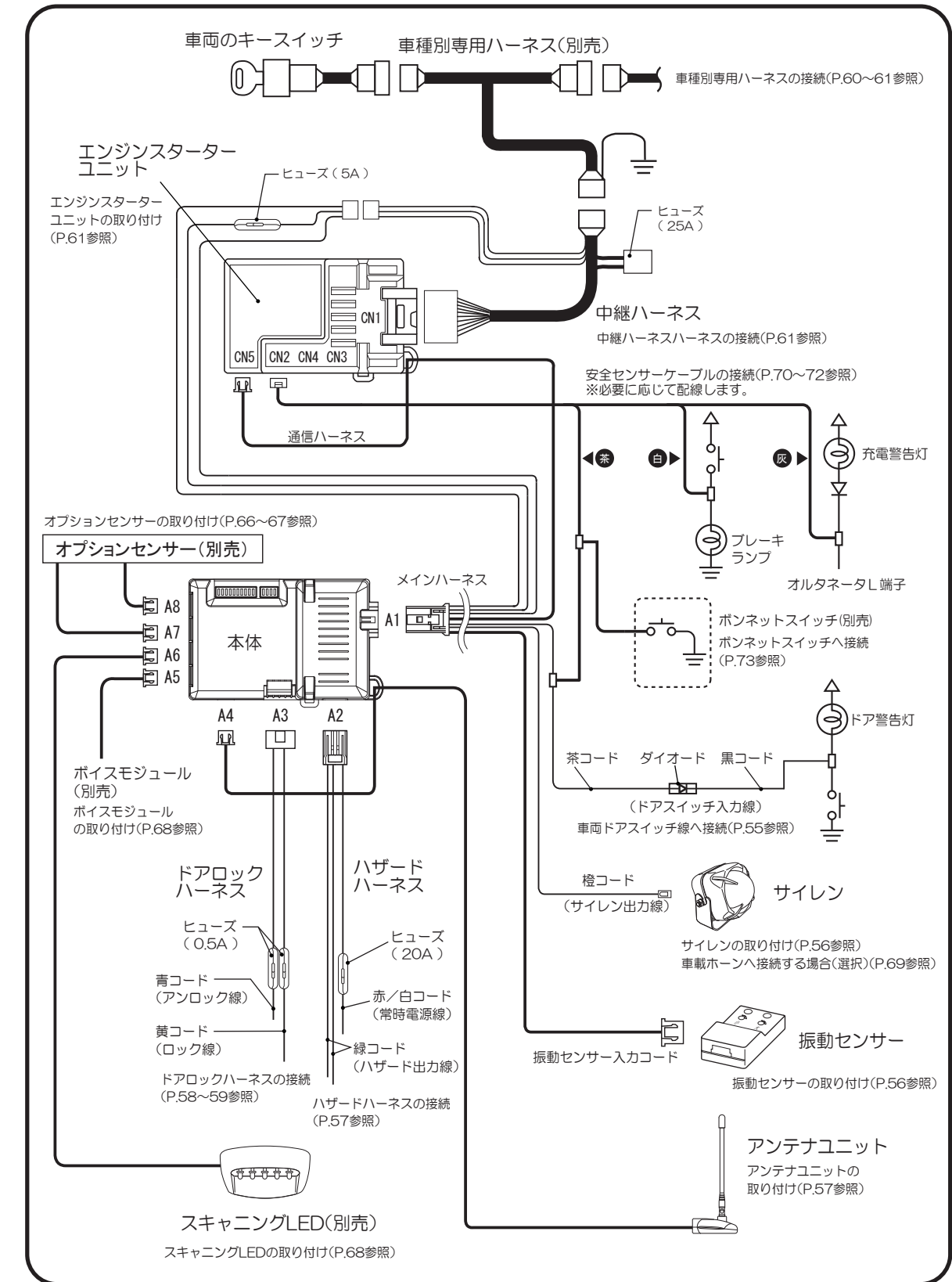
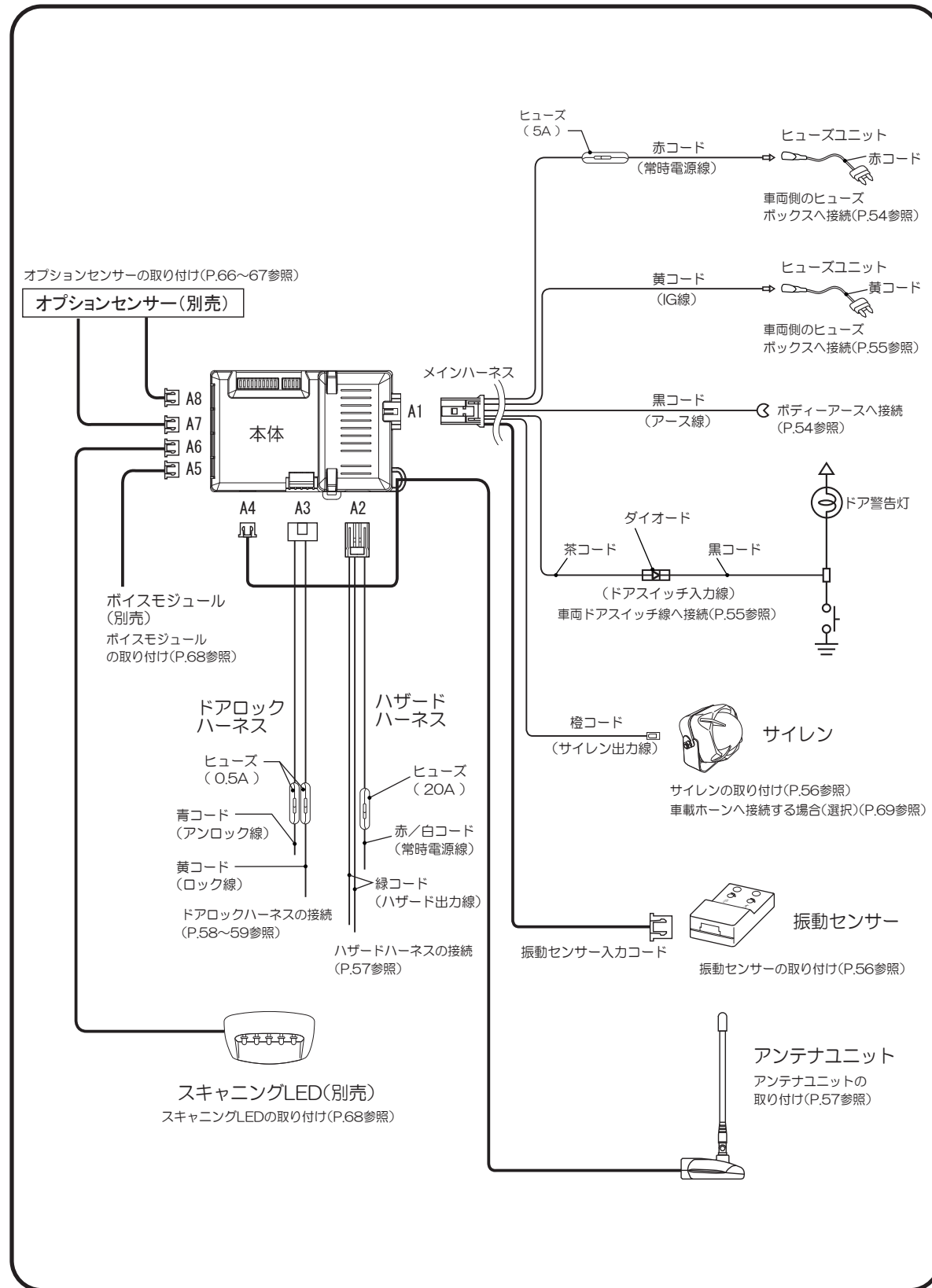
・振動センサーの感度は、車両の大きさやボディ剛性によって異なります。特にRV車や1BOX車等の大型車は、リヤガラス等の車両後部に加えられた衝撃に対して感知できない場合があります。

ステップ4 希望する感度に調整できたら、警報機を停止(警戒OFF)してください。

以上で振動センサーの感度調整は、終了です。

V-1 基本接続図

V-10 基本接続図



取付方法

取付方法

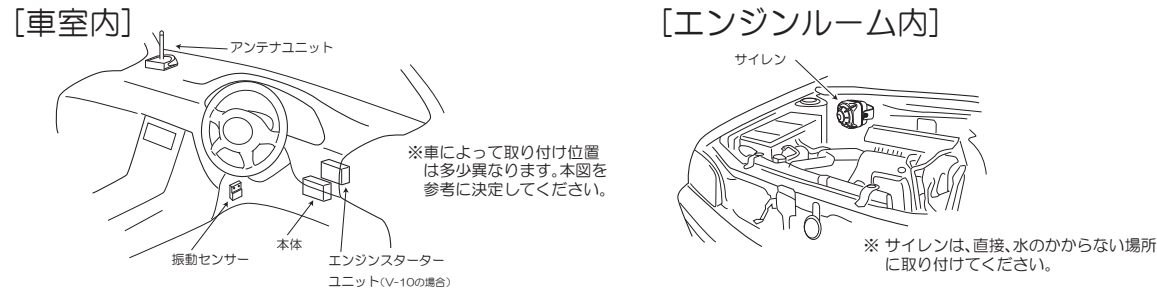
取り付け作業

取り付け作業(つづき)

取り付け前の事前準備

- パーキングブレーキをしっかり引き、シフトレバーをPレンジの位置にしてください。
- エンジンキーは、必ず抜いてください。
カードキー等によるエンジン始動システム装着車は、不用意にエンジンがかからないようにしてください。
- リモコンへ電池を挿入してください。詳細は、17ページの「電池の挿入」を確認してください。
- 取り付け工具を用意してください。
プラスドライバー・プライヤー・ニッパー・スパナ・アナログテスター等。(工具は同梱されていません。)
- 必要に応じ、カバー類を取り外してください。

取り付けレイアウトイメージ



メインハーネスの配線

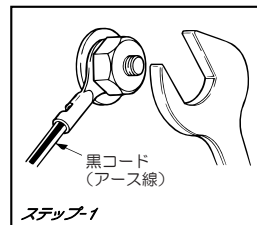
V-1取り付けの場合 :ステップ1～4の接続を行い、56ページの「振動センサーの取り付け」へ進んでください。

V-10取り付けの場合 :ステップ4の接続を行い、56ページの「振動センサーの取り付け」へ進んでください。

ステップ1 黒コード(アース線)を接続します。

注意 塗装されている金属部分や車の振動等で緩んでしまう場所に接続しないでください。動作不良の原因となります。

メインハーネスの黒コードを車体の金属部分へ接続します。



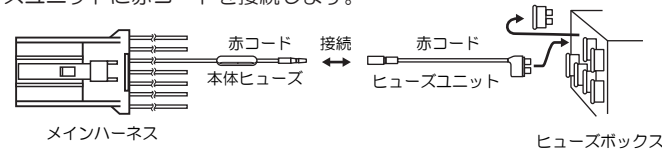
ステップ2 赤コード(常時電源線)を接続します。

付属のヒューズユニット(赤コード)またはエレクトロタップを使用し、赤コードを接続します。

- ヒューズユニット(赤コード)による接続方法

注意 ヒューズユニットは、必ず車両側の青色(同じ定格電流)ヒューズと差し替えてください。色の違うヒューズと差し替えた場合、ヒューズが切れたり、車両側に悪影響を与える恐れがあります。

- ①車両側のヒューズボックスの中で常時+12Vを示す青色ヒューズをテスターで探します。
- ②付属のヒューズユニット(赤コード)の中から①で探したヒューズと同じ大きさのものを選び、差し替えます。
- ③ヒューズユニットに赤コードを接続します。



- エレクトロタップによる接続方法(車室内に該当する青色ヒューズがない場合)

注意 エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックしてください。エレクトロタップの金属部分が車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。

- ①車両側の配線で常時+12Vを示すコードをテスターで探します。
- ②赤コードのギボシ端子部を切断します。
- ③赤コードを①で探したコードにエレクトロタップで接続します。

メモ 赤コード接続用のエレクトロタップは、同梱されていません。エレクトロタップを別途用意してください。エレクトロタップは、自動車用低電圧線(AVS線)0.5mm²サイズ適応品を使用してください。

メインハーネスの配線(つづき)

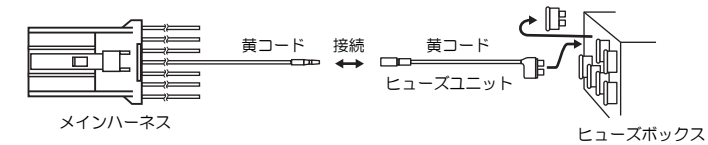
ステップ3 黄コード(IG線)を接続します。

付属のヒューズユニット(黄コード)またはエレクトロタップを使用し、黄コードを接続します。

- ヒューズユニット(黄コード)による接続方法

注意 ヒューズユニットは、必ず車両側の青色(同じ定格電流)ヒューズと差し替えてください。色の違うヒューズと差し替えた場合、ヒューズが切れたり、車両側に悪影響を与える恐れがあります。

- ①車両側のヒューズボックスの中で、エンジンキーが「OFF」「ACC」のときにOV、「ON」のときに+12Vを示す青色ヒューズをテスターで探します。
- ②付属のヒューズユニット(黄コード)の中から①で探したヒューズと同じ大きさのものを選び、差し替えます。
- ③ヒューズユニットに黄コードを接続します。



- エレクトロタップによる接続方法(車室内に該当する青色ヒューズがない場合)

注意 エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックしてください。エレクトロタップの金属部分が車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。

- ①車両側の配線でエンジンキーが「OFF」「ACC」のときにOV、「ON」のときに+12Vを示すコードをテスターで探します。
- ②黄コードのギボシ端子部を切断します。
- ③黄コードを①で探したコードにエレクトロタップで接続します。

メモ 黄コード接続用のエレクトロタップは、同梱されていません。エレクトロタップを別途用意してください。エレクトロタップは、自動車用低電圧線(AVS線)0.5mm²サイズ適応品を使用してください。

ステップ4 茶コード(ドアスイッチ入力線)を接続します。

注意 エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックしてください。エレクトロタップの金属部分が車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。

注意 全てのドアを開めたときにOV、いずれかのドアを開けたときに+12Vとなる線へ接続する場合には、別途リレーが必要となります。

- ①全てのドアを開めたときに+12V、いずれかのドアを開けたときにOVを示すコードをテスターで探します。
- ②茶コードを①で探したコードに付属のエレクトロタップ(赤色)で接続します。

メモ 車によって茶コードを1ヶ所に配線しただけでは、全てのドアの開閉を検出できない場合があります。そのような場合は、付属のダイオードユニットを使用して茶コードを分岐し、各ドアのカーテシスイッチへ配線してください。分岐する際は、エレクトロタップと延長コードを別途用意してください。エレクトロタップは、自動車用低電圧線(AVS線)0.5mm²サイズ適応品を使用してください。茶コード(ドアスイッチ入力線)の配線が困難な車は、車室内侵入感知用のオプションセンサー(超音波センサー、赤外線センサー、エリアセンサー等)を別途お買い求めください。



取り付け作業(つづき)

振動センサーの取り付け

注意 振動センサーは、しっかりと固定してください。固定が不十分だと感度が鈍くなります。

ステップ1 振動センサーを取り付けます。

注意 取り付け姿勢が感度に大きく影響します。取り付け後は、必ず動作を確認し、感度を確かめてください。

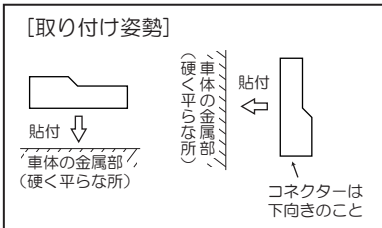
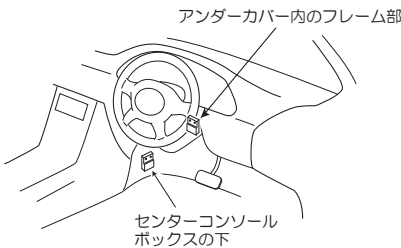
取り付け位置について

●振動センサーは、車内のなるべく固い所へ設置すると振動を敏感に感知します。車体のフレーム等の金属部へ付属の両面テープでしっかりと貼り付けてください。また車体の各部へ加えられる衝撃をなるべく均一に得られるよう、センターコンソール付近等の車体中心部に貼り付けてください。

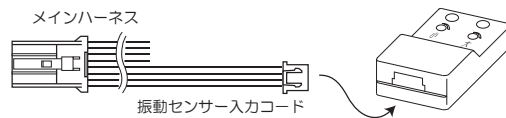
●センサーは防水構造になっていないため、エアコンの吹き出し口付近に取り付けしないでください。高温になったり結露し、故障の原因となります。

振動センサーの取り付け姿勢について

●振動センサーの取り付け姿勢は、右図のいずれかの向きで取り付けてください。このとき感度調整が可能な向きとなっているか確認してください。



ステップ2 振動センサー入力コードを接続します。



サイレンの取り付け

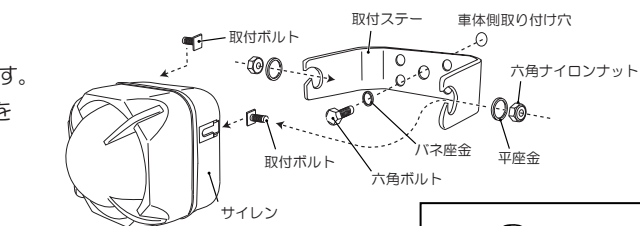
警報音および警報ON/OFFの確認音を「付属のサイレン」または「車載ホーン」のいずれかで出力することができます。付属のサイレンにて出力させる場合は、下記の取り付け方法にしたがって、取り付けしてください。また車載ホーンにて出力させる場合は、別途69ページの「車載ホーンへの配線方法(選択)」にしたがって、配線してください。

注意 サイレンは、エンジンの排気装置等極端に高温になる場所やグリルまわり等の直接水がかかるような場所に取り付けしないでください。故障の原因となります。
サイレンは、車の振動等で脱落しないように下図の取付姿勢を守り、確実に固定してください。またナットが振動で緩む場合もありますので、定期的な締め付け確認を行ってください。この確認を怠った場合、サイレンが脱落し、事故・故障の原因となります。

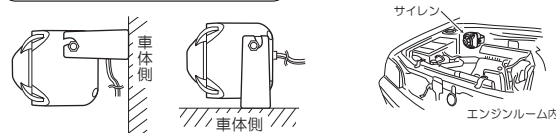
ステップ1 サイレンを固定します。

サイレンをエンジンルーム内へ取り付けます。

- ①車両のネジ穴等を利用して取付ステーを車体に固定します。
- ②サイレンに取付ボルトを差し込み、取付ステーに締め付けます。



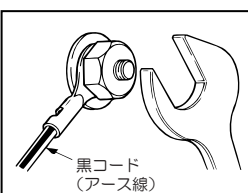
サイレンの取付姿勢



ステップ2 サイレンの黒コード(アース線)を接続します。

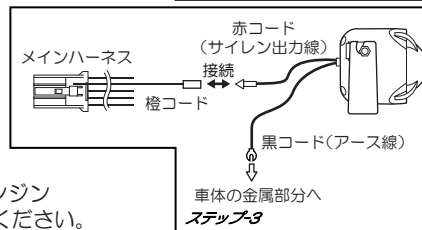
注意 塗装されている金属部分や車の振動等で緩んでしまう場所に接続しないでください。動作不良の原因となります。

サイレンから出ている黒コードを車体の金属部分へ接続します。



ステップ3 サイレンの赤コード(サイレン出力線)を接続します。

サイレンから出ている赤コードを車両のグロメット等を利用してエンジンルームから車室内へ引き込み、メインハーネスの橙コードへ接続してください。

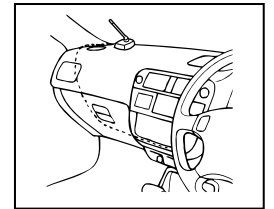


取り付け作業(つづき)

アンテナユニットの取り付け

警告 アンテナユニットは、ガラス面に近い場所にしっかりと固定してください。急ブレーキ等でアンテナに顔をぶつけ、ケガをする恐れがあります。
アンテナユニットは、運転の妨げになる場所やエアバッグの動作を妨げる場所には、取り付けしないでください。事故の原因となります。

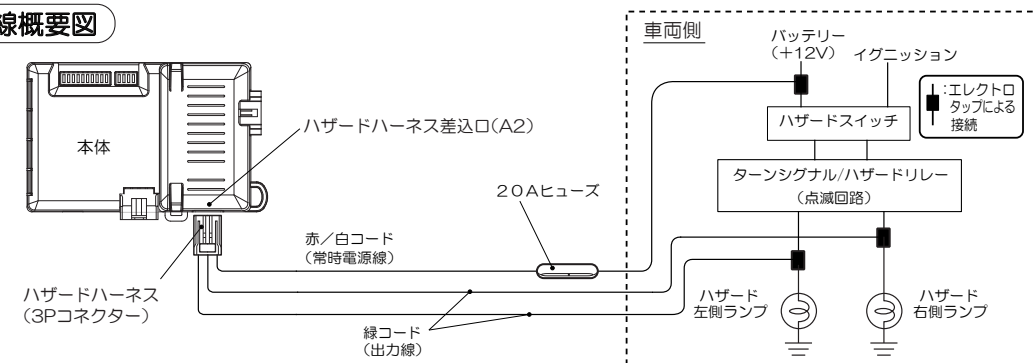
ダッシュボードのサイドピラーおよびデフォグ吹き出し口から10cm以上離し、できるだけフロントガラスに近い平らな場所に付属のマジックテープで固定してください。マジックテープは、アンテナユニット裏面のラベルを避けて貼ってください。



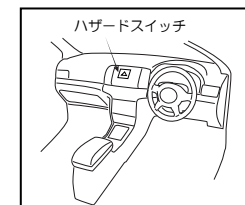
ハザードハーネスの配線(任意)

この配線を行うことで、ハザードによる確認点滅や警報点滅ができるようになります。ただし、本品のハザード点滅回路で車両側のハザードを点滅させることができない車種があります。販売店または当社技術サービスまでお問い合わせください。

配線概要図



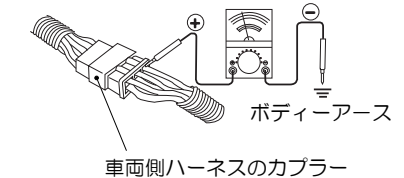
ステップ1 カプラーを外すことで、ハザードスイッチを操作しても動作しなくなるカプラーを探します。必要に応じて周辺のカバー等を外してください。(多くの車は、ハザードスイッチ周辺部にカプラーがあります。)外したカプラーは、元に戻してください。



ステップ2 赤/白コード(常時電源線)を接続します。

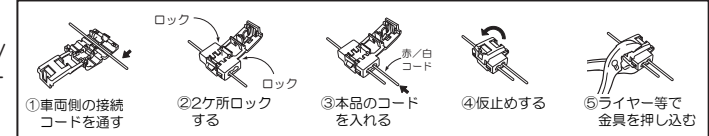
警告 ハザードハーネスの赤/白コード(常時電源線)の配線は、車両側のハザード電源線以外の場所に接続しないでください。車両のヒューズ切れや事故の原因となります。
注意 エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックしてください。エレクトロタップの金属部分が車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。

- ①エンジンキーを抜いたときに常時+12Vを示すコードをテスターで探します。
- ②赤/白コードを①で探したコードに付属のエレクトロタップ(青色)で接続します。



ステップ3 緑コード(出力線)を接続します。●エレクトロタップ(青色)の接続方法

- ①ハザードスイッチがOFFのときに0V、ハザードスイッチがONのときに0~12Vの範囲で針の振れを示すコードをテスターで2本探します。
- ②緑コードを①で探したコードに付属のエレクトロタップ(赤色)でそれぞれ接続します。



ステップ4 本体のハザードハーネス差込口(A2)へハザードハーネスの3Pコネクタを接続します。

取り付け作業(つづき)

ドアロックハーネスの配線(任意)

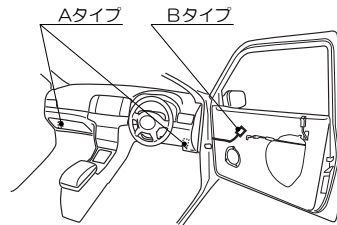
この配線を行うことで、リモコンによるドアの施錠および解錠ができるようになります。ただし、車種によって取り付けできなかったり、別売商品が必要となります。ドアロックハーネスを配線しない場合は、A3差込口の空コネクタを絶対に外さないでください。

V-1取り付けの場合 : 店頭「ドアロック適応車種一覧表」の最新版を確認してください。

V-10取り付けの場合 : 店頭「EGSシリーズ適応車種一覧表」の最新版を確認してください。

ステップ1 ドアロック配線タイプを確認します。

- Aタイプ: 右図のような車室内位置にあるカプラーを探し、付属のドアロックハーネスで接続します。
- Bタイプ: 右図のようなドアの内張り内にあるカプラーを探し、付属のドアロックハーネスで接続します。
- Cタイプ: 別売のモーターキット(KES-03)を使用し接続します。
- Dタイプ: 別売のドアロック車種別専用キットを使用し接続します。
- Eタイプ: 別売のキーレスアダプター(KES-06)を使用し接続します。

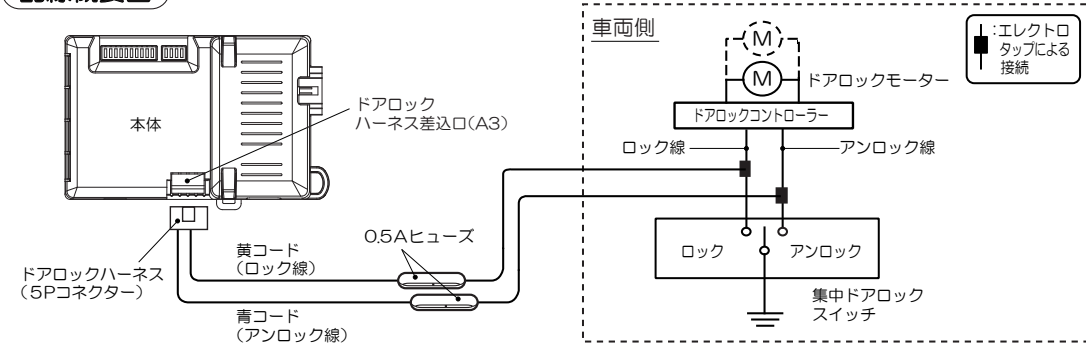


ステップ2 配線タイプ別に配線を行います。

注意 エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックしてください。エレクトロタップの金属部分が車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。

(1) Aタイプ及びBタイプの配線方法

配線概要図



- ①カプラーを外すことで、集中ドアロックスイッチを操作しても動作しなくなるカプラーを探します。必要に応じて周辺のカバーを外してください。外したカプラーは元に戻してください。
- ②ロック線およびアンロック線を探します。
[表A]のように示すコードをテスターで探します。

注意 ドアを開けた状態では、集中ドアロックが動作しない車両があります。必ずカプラーを外す前に動作を確認してください。

[表A]

ドアロックハーネスの配線	特性
ロック線 (黄コードの配線先)	集中ドアロックスイッチを操作しないときに3~12V、ロック側へ操作しているときに0Vを示すコード。
アンロック線 (青コードの配線先)	集中ドアロックスイッチを操作しないときに3~12V、アンロック側へ操作しているときに0Vを示すコード。

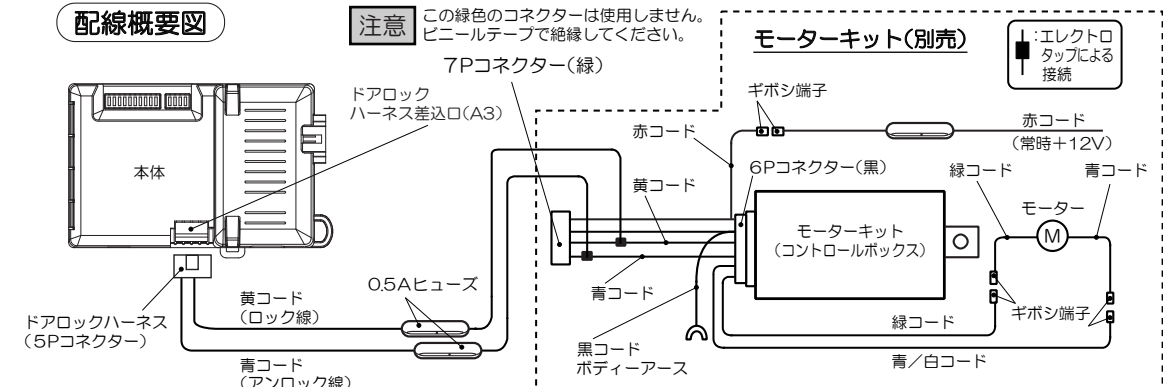
- ③黄コードおよび青コードを②で探したコードに付属のエレクトロタップ(赤色)でそれぞれ接続します。
- ④本体のドアロックハーネス差込口(A3)の空コネクタを外し、ドアロックハーネスの5Pコネクタを差し込みます。

取り付け作業(つづき)

ドアロックハーネスの配線(任意 つづき)

(2) Cタイプの配線方法(モーターキット(KES-03)を使用し接続します。)

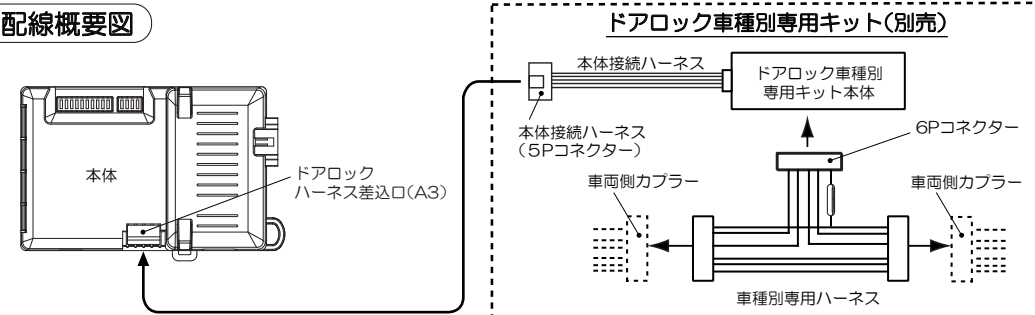
配線概要図



- ①モーターキットの取付・取扱説明書にしたがって、配線を行ってください。
- ②ドアロックハーネスの「黄コード」をモーターキット付属のハーネスの「黄コード」へ付属のエレクトロタップ(赤色)で接続します。
- ③ドアロックハーネスの「青コード」をモーターキット付属のハーネスの「青コード」へ付属のエレクトロタップ(赤色)で接続します。
- ④本体のドアロックハーネス差込口(A3)の空コネクタを外し、ドアロックハーネスの5Pコネクタを差し込みます。

(3) Dタイプの配線方法(ドアロック車種別専用キットを使用し接続します。付属のドアロックハーネスは使用しません。)

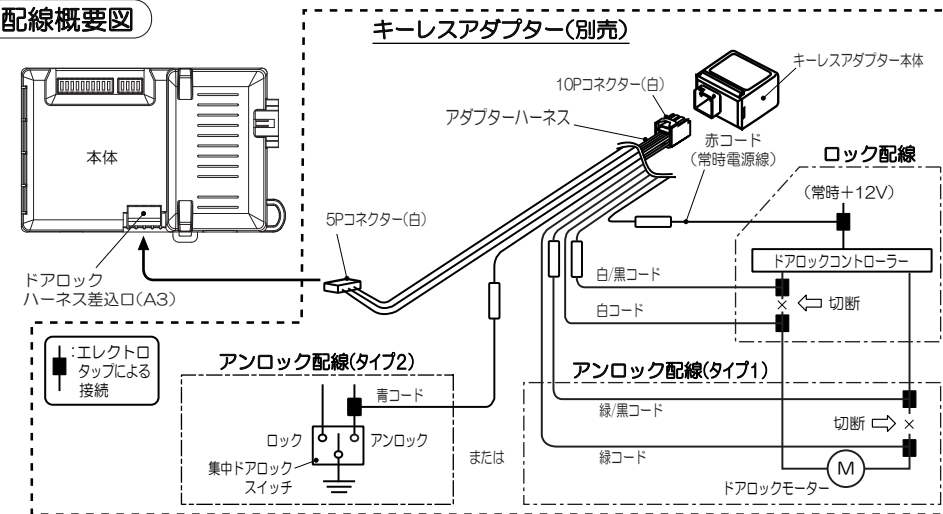
配線概要図



- ①ドアロック車種別専用キットの取付・取扱説明書にしたがって、配線を行ってください。
- ②本体のドアロックハーネス差込口(A3)の空コネクタを外し、本体接続ハーネスの5Pコネクタを差し込みます。

(4) Eタイプの配線方法(キーレスアダプター(KES-06)を使用し接続します。付属のドアロックハーネスは使用しません。)

配線概要図



- ①キーレスアダプター(KES-06)の取付・取扱説明書にしたがって、配線を行ってください。
- ②本体のドアロックハーネス差込口(A3)の空コネクタを外し、アダプターハーネスの5Pコネクタを差し込みます。

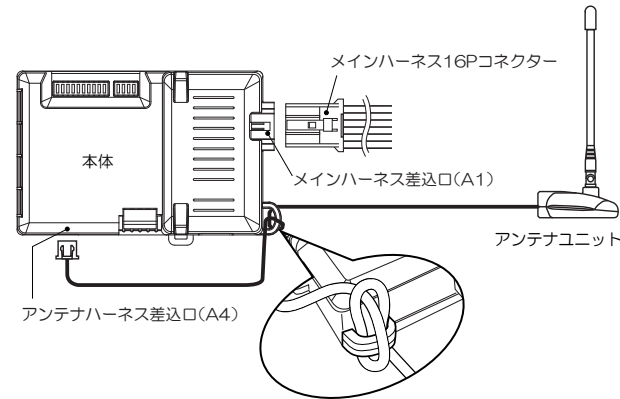
取り付け作業(つづき)

本体の取り付け

ステップ 1 本体とアンテナユニットを接続します。

注意 アンテナハーネスは、振動などで外れないようにハーネスガイド穴に通してから、アンテナハーネス差込口へ確実に差し込んでください。(イラスト参照)。

本体のアンテナハーネス差込口(A4)へアンテナユニットから出ているハーネスのコネクターを差し込みます。



ステップ 2 本体とメインハーネスを接続します。

本体のメインハーネス差込口(A1)へメインハーネスの16Pコネクターを差し込みます。

ステップ 3 本体を固定します。

警告	・本体は、運転の妨げになる場所やエアバッグの動作を妨げる場所には、取り付けしないでください。事故の原因となります。
注意	・本体は防水構造ではありません。水がかからない場所に取り付けてください。火災・故障の原因となります。 ・本体は、エアコンの吹き出し口付近へは取り付けしないでください。高温になったり、結露し、故障の原因となります。

本体をインストルメントパネルのアンダーカバー内またはセンターコンソール内側等に取り付けてください。本体が走行中などに動かないよう、付属の結束バンドまたは市販の両面テープを使用して、しっかりと固定してください。

メモ 本体の取り付け位置は、MODEスイッチの設定が行え、また他人の目に付きにくい目立たない場所を選んでください。

V-1取り付けの場合 :63ページの「基本動作の確認」へ進んでください。

V-10取り付けの場合 :次の「車種別専用ハーネス(別売)の接続(V-10のみ)」へ進んでください。

車種別専用ハーネス(別売)の接続(V-10のみ)

ステップ 1 キースイッチの配線カプラーを探します。

配線カプラーの位置は、大別すると次のようになります。詳細は、「E-GSシリーズ適応車種一覧表」の最新版を確認してください。

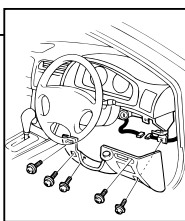
メモ キースイッチの配線カプラーは、基本的に車種別専用ハーネスのカプラーと同形状です。それを目安に探してください。

■タイプ1

●アンダーカバーを外し、キーシリンダーに直接接続されているか、もしくはキーシリンダー直近に位置しているタイプ。

メモ

アンダーカバーを外す際、車種によってスピーカーカバー内やコインポケット等に隠しネジが付いている場合があります。

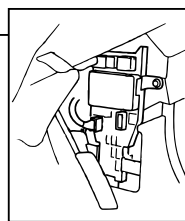


■タイプ3

●ヒューズボックスやジャンクションブロックに直接接続されているタイプ。

メモ

ホンダ車の場合、アクセルペダル横のヒューズボックス内に接続されている場合もあります。

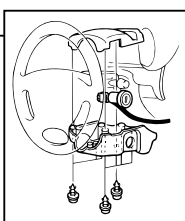


■タイプ2

●ステアリングコラムカバーを外し、キーシリンダーに直接接続されているか、もしくはキーシリンダー直近に位置しているタイプ。

メモ

ステアリングコラムカバーを外す際、車種によってステアリングを90度位回さないとネジが外せない場合があります。

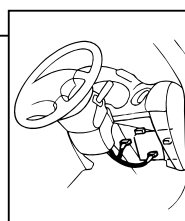


■タイプ4

●配線カプラーが2箇所に分かっているタイプ。

メモ

それぞれの位置が離れている場合もあります。

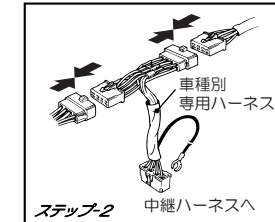


取り付け作業(つづき)

車種別専用ハーネス(別売)の接続(V-10のみ つづき)

ステップ 2 車種別専用ハーネスを接続します。

探したキースイッチの配線カプラーを外し、車種別専用ハーネスを外したカプラーの間に割り込ませます。



ステップ 3 黒コード(アース線)を接続します。

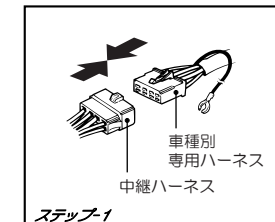
注意 塗装されている金属部分や車の振動等で緩んでしまう場所に接続しないでください。動作不良の原因となります。

車種別専用ハーネスから出ている黒コードを車体の金属部分へ接続します。



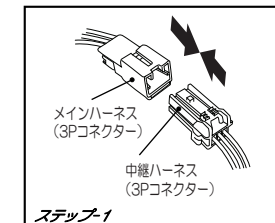
中継ハーネスの接続(V-10のみ)

ステップ 1 車種別専用ハーネスと中継ハーネスを接続します。



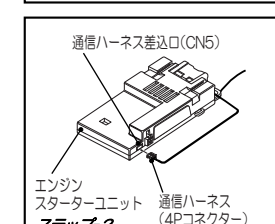
エンジンスターターユニットの取り付け(V-10のみ)

ステップ 1 メインハーネスの3Pコネクターと中継ハーネスの3Pコネクターを接続します。



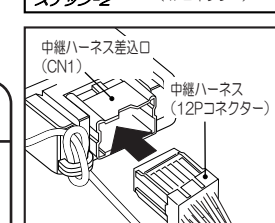
ステップ 2 エンジンスターターユニットの通信ハーネス差込口(CN5)へメインハーネスの通信ハーネス(4Pコネクター)を接続します。

注意 通信ハーネスは、振動などで外れないようにハーネスガイド穴に通してから、通信ハーネス差込口へ確実に差し込んでください。(ステップ3のイラストを参照)。



ステップ 3 エンジンスターターユニットの中継ハーネス差込口(CN1)へ中継ハーネス(12Pコネクター)を接続します。

注意 エンジンスターターユニットと中継ハーネスの接続は、必ず一番最後にしてください。この取り付け手順を間違えると、約20秒後にエンジンスターターユニットから警告音「ビピーッ ビピーッ…」が鳴ります。警告音は、中継ハーネスを外せば鳴り止みます。



ステップ 4 エンジンスターターユニットを固定します。

警告	・エンジンスターターユニットは、運転の妨げになる場所やエアバッグの動作を妨げる場所には取り付けしないでください。事故の原因となります。
注意	・エンジンスターターユニットは防水構造ではありません。水がかからない場所に取り付けてください。火災・故障の原因となります。 ・エンジンスターターユニットは、エアコンの吹き出し口付近へは取り付けしないでください。高温になったり結露し、故障の原因となります。

エンジンスターターユニットをインストルメントパネルのアンダーカバー内またはセンターコンソール内側等に取り付けてください。エンジンスターターユニットが走行中などに動かないよう、付属の結束バンドまたは市販の両面テープを使用して、しっかりと固定してください。

取り付け作業(つづき)

オートマチック車の登録(V-10のみ)

マニュアル車への取り付け防止のため、オートマチック車判別機能を搭載しています。
(取り付けたときにオートマチック車の認識を行いますので、マニュアル車にお取り付けできません。)

ステップ 1 本体MODE2スイッチメニューの1「EGSパワースイッチ」をONにします。

注意 登録作業は、ステップ1から終了までを3分以内に行ってください。なおステップ1からステップ3までの作業は30秒以内に完了してください。時間内に作業が完了しなかった場合は、エンジンスタートユニットのブザー音が途中で鳴り止み、作業が中断されます。このときは、本体の「EGSパワースイッチ」を一旦OFFにしてから、もう一度ステップ1からやり直してください。

このときエンジンスタートユニットから「プーブー プーブー…」と音が鳴ります。

メモ ブザー音が鳴らない場合は、アースが確実に接続されているか、または車種別専用ハーネスの品番が間違っていないか、再度確認してください。

ステップ 2 エンジンキーを差し込み、ONの位置にします。

このときエンジンスタートユニットからの音が「ブブッ ブブッ…」の2連音へと変化します。

メモ このとき誤ってエンジンを始動させないでください。もし始動させた場合は、本体の「EGSパワースイッチ」を一旦OFFにしてから、もう一度ステップ1からやり直してください。

ステップ 3 シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かします。

メモ シフトレバーの操作は、ブレーキを踏んでゆっくり行い、音に変化することを確認してください。音に変化しない場合は一度作業を中断し、専用ハーネス付属の「専用ハーネス接続時の注意事項」を確認してください。(追加配線を行う必要があります。)なお追加配線後は、本体の「EGSパワースイッチ」を一旦OFFにしてから、もう一度ステップ1からやり直してください。

エンジンスタートユニットからの音が「ブブブッ ブブブッ…」の3連音へと変化します。

ステップ 4 シフトレバーをRレンジからPレンジへと戻します。

このときエンジンスタートユニットから「ブブブッ プー」と音が鳴り、その後「ブブッ ブブッ…」の2連音へと変化します。

メモ シフトレバーの操作は、ブレーキを踏んでゆっくり行い、音に変化することを確認してください。

ステップ 5 再度シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かします。

エンジンスタートユニットからの音が「ブブブッ ブブブッ…」の3連音へと変化します。

メモ シフトレバーの操作は、ブレーキを踏んでゆっくり行い、音に変化することを確認してください。

ステップ 6 シフトレバーをRレンジからPレンジへと戻します。

このときエンジンスタートユニットから「ブブブッ プー」と音が鳴り、その後「ブブッ ブブッ…」の間欠音へと変化します。

メモ シフトレバーの操作は、ブレーキを踏んでゆっくり行い、音に変化することを確認してください。

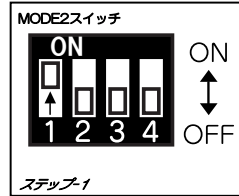
ステップ 7 エンジンキーで、エンジンを始動します。

エンジンスタートユニットから「ブブブッブー」と音が鳴り、オートマチック車の登録が終了したことをお知らせします。

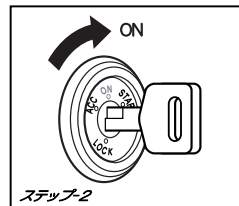
ステップ 8 キーをOFFにします。

以上でオートマチック車の登録は、終了です。

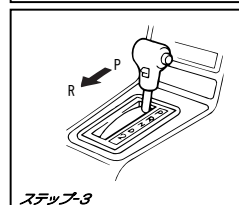
メモ 車のバッテリーを外したり、車種別専用ハーネス(アース線)を外すと、オートマチック車の登録情報が消去されます。この場合には、再度オートマチック車の登録を行ってください。



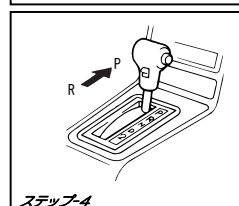
ステップ1



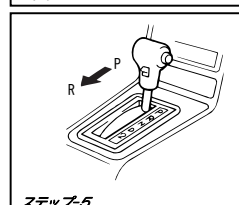
ステップ2



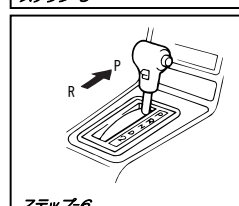
ステップ3



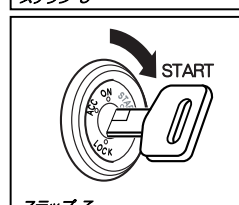
ステップ4



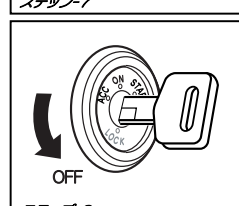
ステップ5



ステップ6



ステップ7



ステップ8

取り付け作業(つづき)

基本動作の確認

動作を確認します。下記手順にしたい行ってください。
動作しない場合は、74~75ページの「故障かな?と思ったら」を確認してください。

警告 動作確認をする際は、必ず車の外に出てから行ってください。また周囲に人がいないことを確認してから行ってください。ショックを与える恐れがあります。

注意 動作確認で車に振動を与える場合、強く叩きすぎてケガをしないように気をつけてください。またガラスやボディー等が、破損しないように充分注意してください。万一破損等が発生しても、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

注意 必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPレンジの位置にしてください。

メモ これからの作業は、配線等が正しく行われているかどうかを確認するためのものです。配線類は固定しない状態で行ってください。

ステップ 1 動作確認前の準備

- パーキングブレーキをしっかり引き、シフトレバーをPレンジにする。
- エンジンキーを携帯し、全てのドア、窓を閉め車の外に出る。(エアコン以外の電装品はOFFにする。)またルームランプが消灯していることを確認する。
- リモコンの(RST)ボタンを長押しし、電源を入れる。

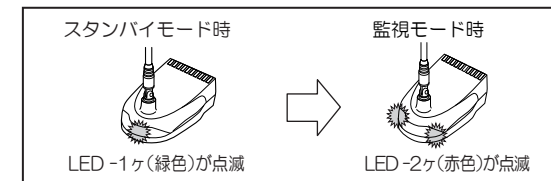
ステップ 2 警報機を動作させます。

リモコンの(SET)ボタンを「ブッ」と音が鳴るまで押し、警報機が動作するか確認してください。このとき車両側が、下記表示を行うことも確認してください。

警戒設定	アンテナユニット	サイレン	ハザード	ドア
警戒ステージ1	LED-1ヶ(緑色)が1回点滅	クックク	2回点滅(配線時のみ)	施錠(配線時のみ)

ステップ 3 スタンバイモードから監視モードへ移行することを確認します。

アンテナユニットのLEDが、下記表示に変化することを確認してください。



メモ アンテナユニットのLEDは、30秒間または5秒間のスタンバイモードが終了すると、自動的に監視モードへ移行します。スタンバイモード時間の切り替えについては、14ページの2「スタンバイモードの時間切替」を確認してください。

ステップ 4 振動センサーの動作を確認します。

メモ 一旦センサーを感知すると、その後約5秒間は感知しません。

車のガラスやボディーを叩いて、警報するか確認してください。このとき与えた振動の大小により、車両側とリモコンが、下記表示を行うことも確認してください。

	アンテナユニット	サイレン	ハザード	リモコン
小振動感知時	LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(1秒)	1秒 断続吹鳴	2回点滅(配線時のみ)	(Danger) STAGE 1
大振動感知時	LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(5秒)	5秒 断続吹鳴	5秒点滅(配線時のみ)	(Danger) STAGE 5

必要に応じて感度を調整してください。詳細は、51ページの「振動センサーの感度調整方法」を確認してください。

基本動作の確認(つづき)

ステップ 5 ドアスイッチセンサーの動作を確認します。

車のドアを開け、警報するか確認してください。このとき車両側とリモコンが、下記表示を行うことも確認してください。

	アンテナユニット	サイレン	ハザード	リモコン
ドアセンサー感知時	 LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(30秒)	30秒連続吹鳴	30秒点滅(配線時のみ)	

ステップ 6 警報機を停止させます。

メモ 警報動作中に(RST)ボタンを押すと警報のみが停止し、警報機は停止しません。このような場合は、バックライト(赤色)が消灯してからもう一度(RST)ボタンを押してください。



リモコンの(RST)ボタンを「パッ」と音が鳴るまで押し、警報機が停止するか確認してください。このとき車両側とリモコンが、下記表示を行うことも確認してください。警報機を停止させると、リモコンから「警戒を解除しました。履歴があります。」と発声します。

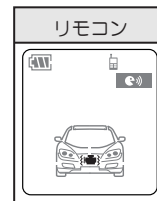
アンテナユニット	サイレン	ハザード	ドア	リモコン
 LED-2ヶ(赤色)が1回点灯	クッククッ	3回点滅(配線時のみ)	解錠(配線時のみ)	

V-1取り付けの場合 :以上で基本動作の確認は、終了です。
65ページの「仕上げ」へ進んでください。

V-10取り付けの場合 :ステップ 7 ~ 8の動作確認を行い、「仕上げ」へ進んでください。

ステップ 7 エンジンを始動させます。

リモコンの(FUNC)ボタンを「ポッ」と音が鳴るまで押し、を点滅表示させ、(SET)ボタンを「ブッ」と音が鳴るまで押してください。その後エンジンが始動するか確認してください。このとき車両側は表示しません。エンジンがかかるとリモコンの液晶部にが表示し、「エンジンを始動しました。」と発声します。



ステップ 8 シフトセンサーの動作を確認します。

メモ エンジンキーを差さないとシフトレバーが動かせない車もあります。その場合は、エンジンキーをACCの位置まで回して、確認してください。



エンジンがかかっている状態で、エンジンキーを差さずにフットブレーキをしっかり踏み、シフトレバーをゆっくりPレンジからRレンジへ動かしてください。このときエンジンが止まるか確認してください。

エンジンが止まらない場合は、シフト検出がうまく行われていません。フットブレーキ検出方式へ変更してください。詳細は、70ページの「フットブレーキ検出方式への変更」を確認してください。

以上で基本動作の確認は、終了です。


仕上げ

ステップ 1 配線したハーネス類を整理します。


 警告	・ハーネス類等は、ステアリングシャフトやペダル類の可動部付近には固定しないでください。運転操作の妨げになり、事故の原因となります。 ・配線したハーネス類は、ビニールテープや結束バンド等で確実に固定してください。固定が不十分だと脱落し、事故の原因となります。
 注意	・接続していない端子部は、ビニールテープ等で絶縁処理してください。ショートし、火災・故障の原因となります。

これまでに配線したハーネス類をビニールテープや付属の結束バンド等を使用して、確実に固定してください。

ステップ 2 外したカバー等を元に戻します。

 警告	車のカバーや内張り等で配線類を挟み込まないようにしてください。断線やショートし、火災・故障の原因となります。
---	--

ステップ 3 コーシオンラベルを貼り付けます。(V-10の場合)

 危険	必ずエンジンルーム内の目立つ場所に貼ってください。ボンネットを開けて作業している際に、誤って始動操作した場合、重大な事故の原因となります。
---	---

エンジンルーム内の目立つ場所に貼ってください。貼り付ける際には、汚れや油分等をきれいに除去してください。

以上で取り付け作業は、終了です。

オプションセンサーの取り付け

オプションセンサーを取り付けることで、お車に合わせた監視を実現します。

基本配線方法

オプションセンサーのコネクターを本体に接続するだけで、オプションセンサーの機能が使用できるようになります。組み合わせできるオプションセンサーは、右表の通りです。オプションセンサーとセンサーレベルについては、9ページの「豊富なオプションセンサー」を確認してください。

	レベル1	レベル2	レベル3
接続例1	○	○	—
接続例2	—	○	○
接続例3	—	○	○
接続例4	○	—	○

ステップ1 本体のオプションセンサー差込口のリッドを外します。

注意 ・オプションセンサーを取り付ける場合を除き、リッドは外さないでください。本体内部に異物が入り、故障の原因となります。
・リッドを外す際は、ケガのないよう充分注意して行ってください。

接続する各センサーの「センサーレベル」を確認の上、下記に該当するリッドを外してください。

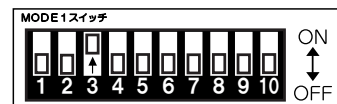
A7リッド: センサーレベル2
または3を接続。
A8リッド: センサーレベル1
または2を接続。



ステップ2 オプションセンサーを接続します。

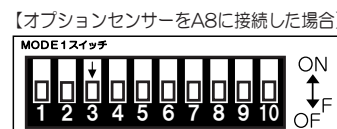
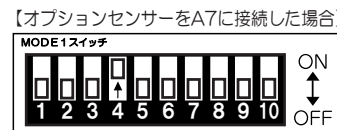
(1) オプションセンサーレベル1を接続する場合

- 各センサーの取付・取扱説明書にしたがって、取り付けを行ってください。
- 本体のオプションセンサーハーネス差込口(A8)へオプションセンサーのコネクターを差し込みます。
- 本体のMODE1スイッチメニューの3「OP1センサーレベル」をONにしてください。



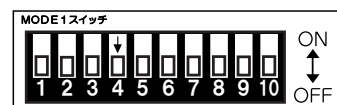
(2) オプションセンサーレベル2を接続する場合

- 各センサーの取付・取扱説明書にしたがって、取り付けを行ってください。
- 本体のオプションセンサーハーネス差込口(A7またはA8)へオプションセンサーのコネクターを差し込みます。
- A7へオプションセンサーを接続した場合:
本体のMODE1スイッチメニューの4「OP2センサーレベル」をONにしてください。
A8へオプションセンサーを接続した場合:
本体のMODE1スイッチメニューの3「OP1センサーレベル」をOFFにしてください。



(3) オプションセンサーレベル3を接続する場合

- 各センサーの取付・取扱説明書にしたがって、取り付けを行ってください。
- 本体のオプションセンサーハーネス差込口(A7)へオプションセンサーのコネクターを差し込みます。
- 本体のMODE1スイッチメニューの4「OP2センサーレベル」をOFFにしてください。

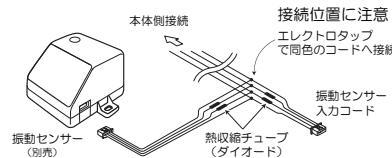


オプションの振動センサー配線方法

注意 エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックしてください。エレクトロタップの金属部分が車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。

注意 青コードと緑コードを接続する際は、ダイオードと本体に接続するコネクターの間に接続してください。

メインハーネスの振動センサー入カコードにオプションの振動センサーコードをエレクトロタップでそれぞれ同じ色のコードに接続します。



オプションセンサーの取り付け(つづき)

特殊配線方法

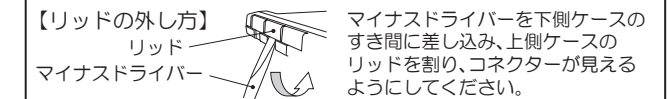
オプションセンサーを3個以上接続する場合の配線方法です。ただし、1つのコネクターに接続するセンサーは2個までとしてください。

メモ オプションセンサー接続用のエレクトロタップは、同梱されていません。エレクトロタップを別途用意してください。エレクトロタップは、自動車用低電圧線(AVSS線)0.3mm²サイズ適応品を使用してください。

ステップ1 本体のオプションセンサー差込口のリッドを外します。

注意 ・オプションセンサーを取り付ける場合を除き、リッドは外さないでください。本体内部に異物が入り、故障の原因となります。
・リッドを外す際は、ケガのないよう充分注意して行ってください。

A7およびA8リッドを外してください。



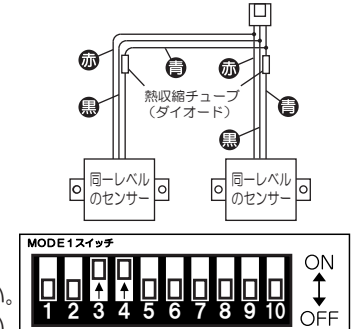
ステップ2 オプションセンサーを接続します。

注意 エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックしてください。エレクトロタップの金属部分が車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。

注意 ・コネクターを切断する際は、青コードのダイオード(熱収縮チューブ)を切断しないように注意してください。
・センサーどうしを接続する際は、ダイオードと本体に接続するコネクターの間に接続してください。

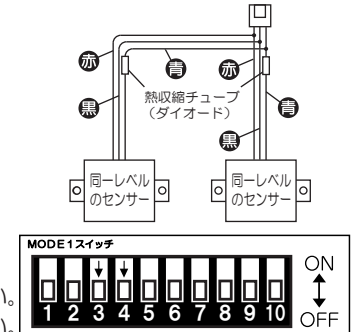
(1) オプションセンサーレベル1と2を複数接続する場合

- 各センサーの取付・取扱説明書にしたがって、取り付けを行ってください。
- 本体のオプションセンサーハーネス差込口(A8)へオプションセンサー「レベル1」のコネクターを差し込みます。
- 本体のオプションセンサーハーネス差込口(A7)へオプションセンサー「レベル2」のコネクターを差し込みます。
- 接続していないオプションセンサーのコネクターを切断します。
- 同じセンサーレベルのオプションセンサーどうしのコードをエレクトロタップでそれぞれ同じ色のコードに接続します。
- 本体のMODE1スイッチメニューの3「OP1センサーレベル」をONにしてください。
- 本体のMODE1スイッチメニューの4「OP2センサーレベル」をONにしてください。



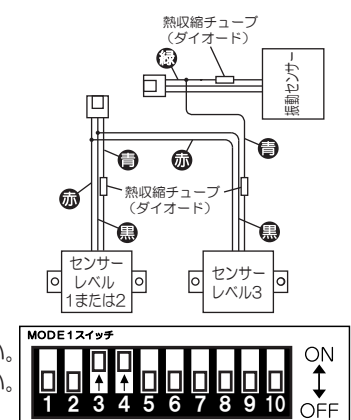
(2) オプションセンサーレベル2と3を複数接続する場合

- 各センサーの取付・取扱説明書にしたがって、取り付けを行ってください。
- 本体のオプションセンサーハーネス差込口(A8)へオプションセンサー「レベル2」のコネクターを差し込みます。
- 本体のオプションセンサーハーネス差込口(A7)へオプションセンサー「レベル3」のコネクターを差し込みます。
- 接続していないオプションセンサーのコネクターを切断します。
- 同じセンサーレベルのオプションセンサーどうしのコードをエレクトロタップでそれぞれ同じ色のコードに接続します。
- 本体のMODE1スイッチメニューの3「OP1センサーレベル」をOFFにしてください。
- 本体のMODE1スイッチメニューの4「OP2センサーレベル」をOFFにしてください。



(3) オプションセンサーレベル1と2と3を接続する場合

- 各センサーの取付・取扱説明書にしたがって、取り付けを行ってください。
- 本体のオプションセンサーハーネス差込口(A8)へオプションセンサー「レベル1」のコネクターを差し込みます。
- 本体のオプションセンサーハーネス差込口(A7)へオプションセンサー「レベル2」のコネクターを差し込みます。
- オプションセンサー「レベル3」のコネクターを切断します。
- オプションセンサー「レベル3」の赤と黒コードをセンサーレベル1または2の同じ色のコードにエレクトロタップで接続します。
- オプションセンサー「レベル3」の青コードを振動センサーの緑コードにエレクトロタップで接続します。
- 本体のMODE1スイッチメニューの3「OP1センサーレベル」をONにしてください。
- 本体のMODE1スイッチメニューの4「OP2センサーレベル」をONにしてください。



メモ この接続を行った場合、オプションセンサー「レベル3」の異常感知通報は、振動センサーの感知通報と同一の内容で通知します。

威嚇警報オプションの取り付け

車載ホーンへの配線方法(選択)

スキャニングLED(別売)の取り付け

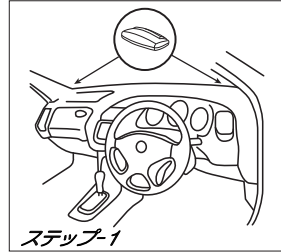
超高輝度LEDにてスキャニング点滅を行い、威嚇効果を更に発揮します。

ステップ 1 スキャニングLEDを取り付けします。

警告 運転の妨げになる場所やエアバッグの動作を妨げる場所には、取り付けしないでください。事故の原因となります。

注意 ダッシュボード上の中央部に取り付けしないでください。熱により変形し、故障の原因となります。

LEDの動作が、外部からよく見える場所に取り付けます。取り付ける際は、取り付け位置の汚れや油分をきれいに拭き取ってから、付属の両面テープで確実に固定してください。

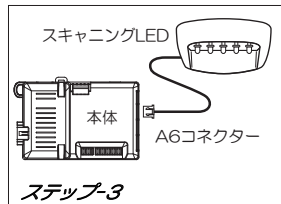


ステップ-1

ステップ 2 本体のスキャニングLEDハーネス差込口(A6)のリッドを外します。

注意 ・スキャニングLEDを取り付ける場合を除き、リッドは外さないでください。本体内部に異物が入り、故障の原因となります。
・リッドを外す際は、ケガのないよう充分注意して行ってください。

【リッドの外し方】
リッド
マイナスドライバー
マイナスドライバーを下側ケースのすき間に差し込み、上側ケースのリッドを割り、コネクタが見えるようにしてください。



ステップ-3

ステップ 3 本体へ接続します。

本体のスキャニングLEDハーネス差込口(A6)へスキャニングLEDのコネクタを差し込みます。

ボイスモジュール(別売)の取り付け

音声と電子音にて警報を行い、ボイス(日本語/英語)による威嚇効果を更に発揮します。

ステップ 1 ボイスモジュールを取り付けします。

ボイスモジュールの取付・取扱説明書にしたがって、取り付けしてください。

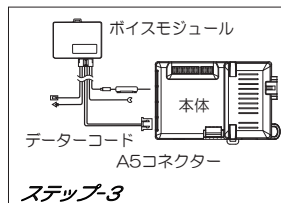


ステップ-1

ステップ 2 本体のボイスモジュールハーネス差込口(A5)のリッドを外します。

注意 ・ボイスモジュールを取り付ける場合を除き、リッドは外さないでください。本体内部に異物が入り、故障の原因となります。
・リッドを外す際は、ケガのないよう充分注意して行ってください。

【リッドの外し方】
リッド
マイナスドライバー
マイナスドライバーを下側ケースのすき間に差し込み、上側ケースのリッドを割り、コネクタが見えるようにしてください。



ステップ-3

ステップ 3 本体へ接続します。

本体のボイスモジュールハーネス差込口(A5)へボイスモジュールデータコードのコネクタを差し込みます。

ボイスモジュールの発声について

ボイスモジュール取付・取扱説明書の「収録音声一覧」に対して、下記の音声を発声しませんので、ご承知置きください。

- ①半ドア検知時の警告
- ②乗り逃げ防止

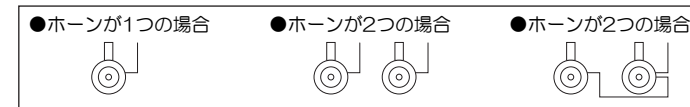
この配線を行うことにより、サイレンの代わりに車載ホーンにて警報を行い、威嚇効果を更に発揮します。

配線をする前に

- 下記のような車では、ホーン警報できません。付属のサイレンを使用してください。
・エンジンキーを抜いた状態でステアリングのホーンスイッチを押したとき、ホーンが鳴らない車。
・ON時間が0.25秒以下で、ホーンが鳴らない車。
- 車載ホーンへ接続する際には、別途ホーンリレーが必要です。(当社のリレー RC-2217およびヒューズを別途お買い求めください。)

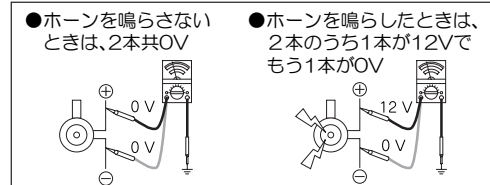
ステップ 1 車載ホーンのスイッチ方式を確認します。下記を参考に車載ホーンの「スイッチ方式」を確認してください。

(A) 車のホーン1個に対し、端子が1つの場合: プラススイッチ方式です。



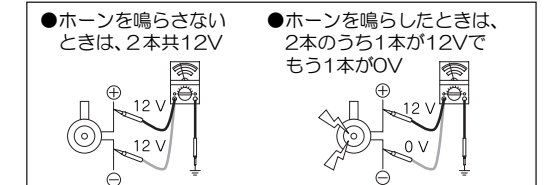
(B) 車のホーン1個に対し、端子が2つの場合
ホーンの配線にテスターを当てて特性を確認し、下図にてスイッチ方式を確認してください。

プラススイッチ方式



注意 ホーンが2つある車の場合、どちらか1つで上記の確認をしてください。

マイナススイッチ方式



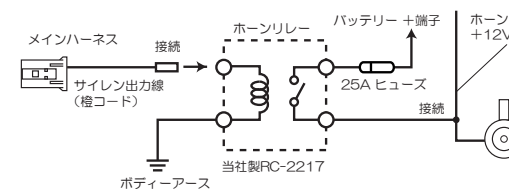
注意 ホーンが2つある車の場合、どちらか1つで上記の確認をしてください。

ステップ 2 ホーンのスイッチ方式にしたがって、配線します。

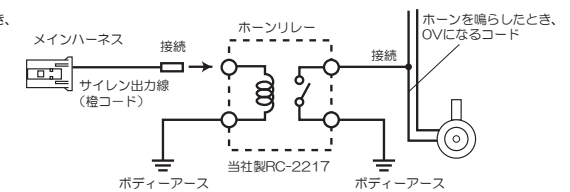
ホーンが2つある場合、どちらか1個のホーンのみに配線してください。

注意 ・塗装されている金属部分や車の振動等で緩んでしまう場所に接続しないでください。動作不良の原因となります。
・配線する際は、必ずリレーを使用してください。故障の原因となります。
・リレーとホーンを接続する際は、ホーンに接続されているハーネスの線径以上のリード線を使用してください。

プラススイッチ方式の配線方法

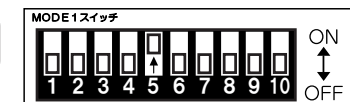


マイナススイッチ方式の配線方法



ステップ 3 本体のMODE1スイッチメニューの5「車載ホーン配線」をONにします。

注意 車載ホーン配線を行った場合は、必ず本体のMODE1スイッチメニューの5「車載ホーン配線」をONにしてください。車載ホーン故障の原因となります。



ステップ 4 配線したハーネス類を整理します。

警告 ・ハーネス類等は、ステアリングシャフトやペダル類の可動部付近には固定しないでください。運転操作の妨げになり、事故の原因となります。
・配線したハーネス類は、車両の高温になる場所(エンジン・ラジエーター等)の近くに固定しないでください。断線やショートし、火災・故障の原因となります。
・配線したハーネス類は、ビニールテープや結束バンド等で確実に固定してください。また車のカバーや内張り等で配線類が挟み込まれたりすると、断線やショートし、火災・故障の原因となります。

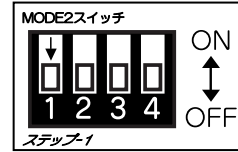
これまでに配線したハーネス類をビニールテープや結束バンド等を使用して、確実に固定してください。

フットブレーキ検出方式への変更(V-10のみ)

シフト検出方式の変更方法です。リモコン操作によるエンジン始動後、シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かしてもエンジンが停止しない場合に変更します。

- ステップ 1** 本体のMODE2スイッチメニューの1「EGS/パワースイッチ」をOFFにします。

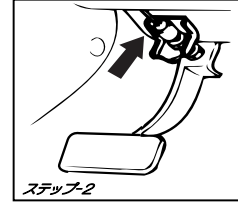
すでに付属の安全センサーケーブルが、エンジンスタートユニットに接続されている場合は、一旦外してから作業を行ってください。



- ステップ 2** 車のフットブレーキスイッチを探します。

フットブレーキスイッチは、ブレーキペダルの根元付近にあります。

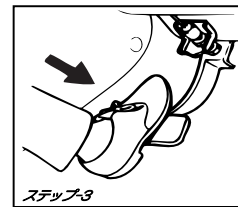
メモ フットブレーキとは、フット式パーキングブレーキのことではありません。



- ステップ 3** ブレーキペダルを踏んだときに12Vを示すコードを探します。

注意 必ずテスターを使用してください。

フットブレーキスイッチから出ているコードの内、ブレーキペダルを踏まないときに0V、踏んだときに12Vを示すコードをテスターで探してください。



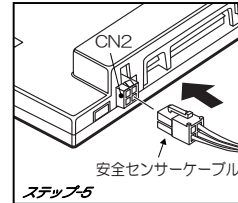
- ステップ 4** 安全センサーケーブルの白コードを接続します。

注意 エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックしてください。エレクトロタップの金属部分が車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。

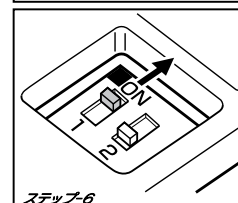
安全センサーケーブルの白コードをステップ3で探したコードに付属のエレクトロタップ(赤色)で接続します。

- ステップ 5** エンジンスタートユニットへ接続します。

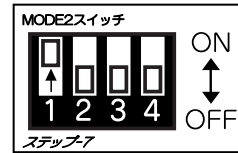
エンジンスタートユニットの安全センサーケーブル差込口(CN2)へ安全センサーケーブルのコネクターを差し込みます。



- ステップ 6** エンジンスタートユニットのMODEスイッチメニューの1「シフト検出」をONにします。



- ステップ 7** 本体のMODE2スイッチメニューの1「EGS/パワースイッチ」をONにします。



- ステップ 8** リモコンで始動したエンジンが、フットブレーキを踏んだときに停止するか確認します。

- ①車に乗り、リモコンでエンジンを始動してください。
- ②フットブレーキを踏んだときに、エンジンが停止することを確認してください。

- ステップ 9** 配線したハーネス類を整理します。

警告 ・ハーネス類等は、ステアリングシャフトやペダル類の可動部付近には固定しないでください。運転操作の妨げになり、事故の原因となります。
・配線したハーネス類は、ビニールテープや結束バンド等で確実に固定してください。また車のカバーや内張り等で配線類が挟み込まれたりすると、断線やショートし、火災・故障の原因となります。

注意 ・接続していない端子部は、ビニールテープ等で絶縁処理してください。ショートし、火災・故障の原因となります。

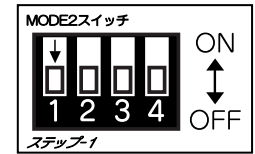
これまでに配線したハーネス類をビニールテープや付属の結束バンド等を使用して、確実に固定してください。

L端子検出方式への変更(V-10のみ)

始動検出方式の変更方法です。エンジンがかかっているのに止めてしまう場合やエンジンがかかっているのにメーターパネルが点灯したままになってしまう場合に変更します。

- ステップ 1** 本体のMODE2スイッチメニューの1「EGS/パワースイッチ」をOFFにします。

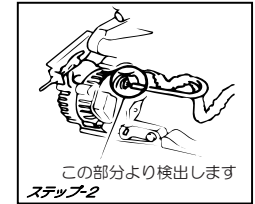
すでに付属の安全センサーケーブルが、エンジンスタートユニットに接続されている場合は、一旦外してから作業を行ってください。



- ステップ 2** 車のオルタネーターから出ているL端子コードを探します。

注意 必ずテスターを使用してください。

オルタネーターから出ているコードの内、イグニッションONの位置でエンジンが停止しているときに約1~3V、エンジンが駆動しているときに約12~14Vを示すコードをテスターで探してください。



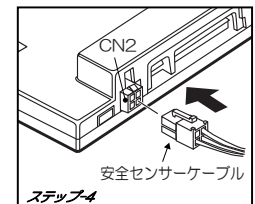
- ステップ 3** 安全センサーケーブルの灰コードを接続します。

注意 エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックしてください。エレクトロタップの金属部分が車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。

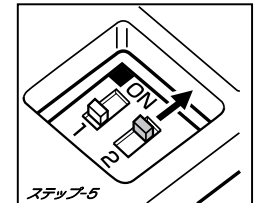
安全センサーケーブルの灰コードをステップ2で探したコードに付属のエレクトロタップ(赤色)で接続します。

- ステップ 4** エンジンスタートユニットへ接続します。

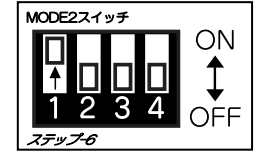
エンジンスタートユニットの安全センサーケーブル差込口(CN2)へ安全センサーケーブルのコネクターを差し込みます。



- ステップ 5** エンジンスタートユニットのMODEスイッチメニューの2「始動検出」をONにします。



- ステップ 6** 本体のMODE2スイッチメニューの1「EGS/パワースイッチ」をONにします。



- ステップ 7** リモコンでエンジンを始動し、エンジンがかかるか確認します。

- ステップ 8** 配線したハーネス類を整理します。

警告 ・ハーネス類等は、ステアリングシャフトやペダル類の可動部付近には固定しないでください。運転操作の妨げになり、事故の原因となります。
・配線したハーネス類は、ビニールテープや結束バンド等で確実に固定してください。また車のカバーや内張り等で配線類が挟み込まれたりすると、断線やショートし、火災・故障の原因となります。

注意 ・接続していない端子部は、ビニールテープ等で絶縁処理してください。ショートし、火災・故障の原因となります。

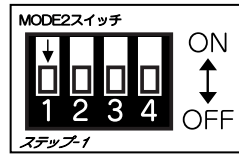
これまでに配線したハーネス類をビニールテープや付属の結束バンド等を使用して、確実に固定してください。

ドアスイッチ配線方法(V-10のみ)

ドアスイッチへ安全センサーケーブルを配線することにより、リモコンで始動したエンジンをドアを開けると同時に停止させることができます。

ステップ 1 本体のMODE2スイッチメニューの1「EGS/パワースイッチ」をOFFにします。

すでに付属の安全センサーケーブルが、エンジンスターターユニットに接続されている場合は、一旦外してから作業を行ってください。

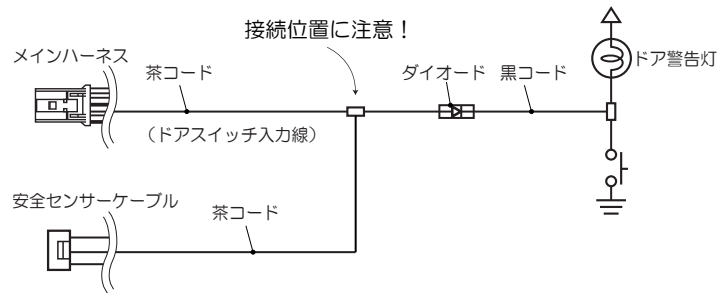


ステップ 2 安全センサーケーブルの茶コードを接続します。

注意 エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックしてください。エレクトロタップの金属部分が車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。

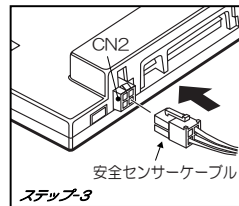
注意 安全センサーケーブルの茶コードをメインハーネス内の茶コード(ドアスイッチ入力線)のダイオードと本体に接続するコネクタの間に接続してください。

安全センサーケーブルの茶コード先端のギボシ端子部を切断し、メインハーネス内の茶コード(ドアスイッチ入力線)に付属のエレクトロタップ(赤色)で接続します。

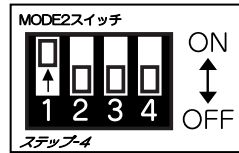


ステップ 3 エンジンスターターユニットへ接続します。

エンジンスターターユニットの安全センサーケーブル差込口(CN2)へ安全センサーケーブルのコネクタを差し込みます。



ステップ 4 本体のMODE2スイッチメニューの1「EGS/パワースイッチ」をONにします。



ステップ 5 リモコンで始動したエンジンが、ドアを開けると同時に停止するか確認します。

①車のドアを閉め、リモコンでエンジンを始動させてください。

メモ 残光式ルームランプ付き車は、ドアを開けてルームランプが完全に消灯してから数秒後にリモコンでエンジンを始動してください。

②ドアを開け、エンジンが停止することを確認してください。

メモ 茶コードの接続の見直しを行った上で、ドアを開けてエンジンが停止しない場合は、ドアのカーテシスイッチに接続してください。

ステップ 6 配線したハーネス類を整理します。

- 警告** ハーネス類等は、ステアリングシャフトやペダル類の可動部付近には固定しないでください。運転操作の妨げになり、事故の原因となります。
- 配線したハーネス類は、ビニールテープや結束バンド等で確実に固定してください。また車のカバーや内張り等で配線類が挟み込まれたりすると、断線やショートし、火災・故障の原因となります。
- 注意** 接続していない端子部は、ビニールテープ等で絶縁処理してください。ショートし、火災・故障の原因となります。

これまでに配線したハーネス類をビニールテープや付属の結束バンド等を使用して、確実に固定してください。

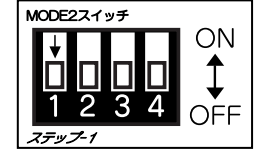
ボンネットスイッチ(別売)の取り付け(V-10のみ)

ボンネットスイッチを取り付けることにより、ボンネットが開いているときは、リモコンでエンジン始動しないようにすることができます。エンジンルーム内の各種作業を行う際の安全を確保します。

メモ ボンネットスイッチ接続用のエレクトロタップは、同梱されていません。エレクトロタップを別途用意してください。エレクトロタップは、自動車用低電圧線(AV線)0.5mm²サイズ対応品を使用してください。

ステップ 1 本体のMODE2スイッチメニューの1「EGS/パワースイッチ」をOFFにします。

すでに付属の安全センサーケーブルが、エンジンスターターユニットに接続されている場合は、一旦外してから作業を行ってください。



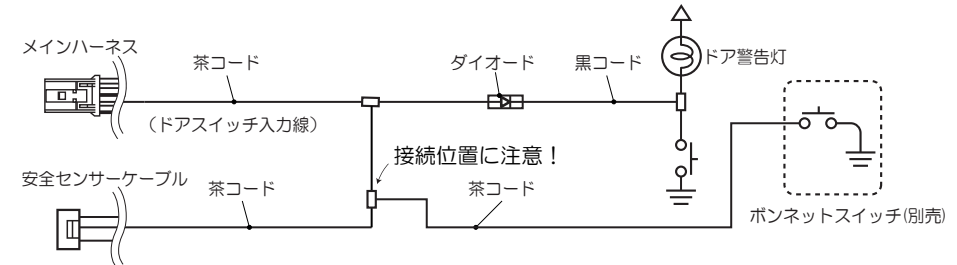
ステップ 2 ボンネットスイッチを取り付けます。

ボンネットスイッチの取付・取扱説明書したがって、取り付けしてください。

ステップ 3 ボンネットスイッチの茶コードを接続します。

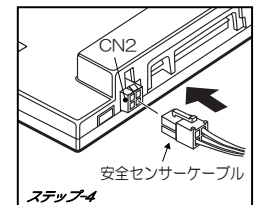
注意 エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックしてください。エレクトロタップの金属部分が車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。

ボンネットスイッチの茶コードを安全センサーケーブルの茶コードにエレクトロタップで接続します。

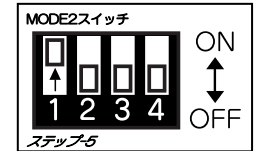


ステップ 4 エンジンスターターユニットへ接続します。

エンジンスターターユニットの安全センサーケーブル差込口(CN2)へ安全センサーケーブルのコネクタを差し込みます。



ステップ 5 本体のMODE2スイッチメニューの1「EGS/パワースイッチ」をONにします。



ステップ 6 ボンネットを開けた状態で、リモコンでエンジンが始動しないか確認します。

①車のドアを閉め、ボンネットを開けた状態にしてください。

②リモコンでエンジンが始動しないことを確認してください。

メモ 残光式ルームランプ付き車は、ドアを開けてルームランプが完全に消灯してから数秒後にリモコンでエンジンを始動してください。

ステップ 7 配線したハーネス類を整理します。

- 警告** ハーネス類等は、ステアリングシャフトやペダル類の可動部付近には固定しないでください。運転操作の妨げになり、事故の原因となります。
- 配線したハーネス類は、ビニールテープや結束バンド等で確実に固定してください。また車のカバーや内張り等で配線類が挟み込まれたりすると、断線やショートし、火災・故障の原因となります。
- 注意** 接続していない端子部は、ビニールテープ等で絶縁処理してください。ショートし、火災・故障の原因となります。

これまでに配線したハーネス類をビニールテープや付属の結束バンド等を使用して、確実に固定してください。

故障かな?と思ったら




故障かな?と思ったら(つづき)

このような時	チェックしてください	処 置	参照ページ	
リモコンのスイッチを操作しても送信表示しない。	スイッチ操作は間違っていないですか? ボタン操作禁止の設定がされていませんか?	本書にしたがい正しく操作してください。 ボタン操作禁止の設定を解除してください。	— 21	
リモコンは送信するが、「E1」エラー表示になる。	キャリアセンスエラー表示になる。	近くで同じ周波数帯の電波が使用されています。しばらくしてから、もう一度操作してください。	38	
リモコンは送信するが、「E2」エラー表示になる。	14日間、警報機を連続動作させていた。	スリープモード1に入っています。ドアを開け、警報させてから操作してください。	43	
	14日間、エンジンをつけなかった。	14日目終了時に、警報機が動作していた。 14日目終了時に、警報機が停止していた。	スリープモード2に入っています。エンジンキーにて、エンジンを始動させてから操作してください。	43
	ヒューズが切れていませんか?	ヒューズ切れの要因を解決してから、ヒューズを交換してください。	—	
	本体のMODEスイッチ1の10「リモコン登録」がONになっていませんか?	MODEスイッチをOFFにしてください。	14~15	
	通信圏外にいませんか?	車に近づいて操作してください。	—	
	アンテナユニットと本体が確実に接続されていますか?	確実に接続してください。	60	
	車のバッテリーが弱っていませんか?	車のバッテリーを点検し、正常な状態にしてください。	—	
リモコンは送信するが、「E3」エラー表示になる。	7日間連続で警報機を動作させていませんか?	省エネモードに入っています。一度リモコンで警報機を停止またはドアを開け、警報させてから操作してください。	43	
	本体のMODEスイッチ2の2「EGS機能設定」がONになっていませんか?	MODEスイッチをOFFにしてください。	14~15	
リモコンの充電ができない。	電池の向きが(+,-)間違っていないですか?	電池の向きを確認してください。	17	
	リモコンに充電アダプターのプラグが確実に接続されていますか?	確実に接続してください。	18	
	充電可能な温度範囲で充電をしていますか?	充電可能な温度範囲で充電を行ってください。	18	
	当社指定の電池を使用していますか?	当社指定の電池に入れ替えてください。	76	
	1年以上電池を使用していませんか?	当社指定の新しい電池と交換してください。	76	
充電後、リモコンの電池残量アイコンの目盛りがすぐに減ってしまふ。	寒い環境で使用していませんか?	電池の特性上、寒い環境で使用すると、電池残量目盛りの減りが早くなります。	17, 76	
リモコンの電源がすぐOFFになる。	リモコンの電池が消耗していませんか?	充電を行うか、当社指定の新しい電池と交換してください。	18, 76	
警報機が警報しない。	警報機が動作していますか?	警報機を動作させてください。	22	
	警報機が監視モードになっていませんか?	アンテナユニットのLEDが監視モード点滅を始めてから確認してください。	22	
ドアを開けても警報しない。	ドアスイッチ入力線(茶コード)の接続先が間違っていないですか?	接続先を確認してください。	55	
	ドアスイッチ入力線(茶コード)はしっかりと接続されていますか?	接触不良のないよう確実に接続してください。	55	
振動を与えても警報しない。	警戒ステージ3で警報機を動作させていませんか?	警戒ステージ1または2で警報機を動作させてください。	24~26	
	振動センサーは、車体の振動が伝わる場所に取り付けられていますか?	振動センサーを車体の振動が伝わる場所に取り付けてください。	56	
	振動センサーの感度が、鈍感になっていませんか?	振動センサーの感度を敏感にしてください。	51	
サイレンで警報しない。	サイレンの赤コードが確実に接続されていますか?	サイレンの赤コードとメインハーネスの橙コードを確実に接続してください。	56	
	サイレンの黒コードが確実に接続されていますか?	サイレンの黒コードを車体の金属部へ確実に接続してください。	56	
	本体のMODEスイッチ1の6~9「警報音選択」がON(ボイス)になっていませんか?	本体のMODEスイッチ1の6~9「警報音選択」をOFF(サイレン)にしてください。	14~15	
車載ホーンで警報しない。	車載ホーンへの配線が間違っていないですか?	配線を確認してください。	69	
	本体のMODEスイッチ1の6~9「警報音選択」がON(ボイス)になっていませんか?	本体のMODEスイッチ1の6~9「警報音選択」をOFF(ホーン)にしてください。	14~15	

このような時	チェックしてください	処 置	参照ページ
勝手に警報する。	ドアスイッチ入力線(茶コード)が車体の金属部に噛み込んでいませんか?	ドアスイッチ入力線が内張り等に挟み込まれたりして、車体の金属部とショートしていないか確認してください。	—
	ドアスイッチ入力線(茶コード)の接続先が間違っていないですか?	接続先を確認してください。	55
	振動センサーがしっかりと固定してありますか?	固定状態を確認してください。	56
	振動センサーの感度が敏感になっていませんか?	振動センサーの感度を鈍感にしてください。	51
	周囲に外乱振動を起こすようなものがありますか?	周囲を確認してください。	—
ドアスイッチセンサー以外のセンサーが動作しない。	メインハーネスの黄コードの接続先が間違っていないですか?	接続先を確認してください。	55
リモコンでエンジン始動操作してもエンジンがかからない。	エンジンキーがONになっていませんか?	エンジンキーを抜いてください。	—
	バッテリー端子を外したり、バッテリー交換を行いましたか?	オートマチック車の登録情報が消去されています。再度「オートマチック車の登録」を行ってください。	62
	ヒューズ交換、車種別専用ハーネスとのケーブル脱着およびアース線(黒コード)の再接続を行いましたか?		
	ドアが開いていませんか? (付属の安全センサーケーブルの線を行った場合。)	ドアを閉めてください。	—
	ボンネットが開いていませんか? (ボンネットスイッチ(別売)を取り付けた場合。)	ボンネットを閉めてください。	—
	本体のMODE2スイッチの1「EGS/パワースイッチ」がOFFになっていませんか?	本体のMODE2スイッチの1「EGS/パワースイッチ」をONにしてください。	14~15
	車のシフトがPレンジ以外に入っていないですか?	シフトレバーをPレンジに入れてください。	—
リモコンでエンジン始動すると、メーターパネルは点灯するが始動しない。またはエンジンスターターユニットから「ピーピーピー」と音がして停止してしまう。	車のバッテリーが弱っていませんか?	車のバッテリーを点検し、正常な状態にしてください。	—
	車種別専用ハーネスのアース線(黒コード)は車体の金属部へ確実に接続されていますか?	適切な場所に接続し直してください。	60~61
	オルタネーター(L端子)配線を行いましたか?	オルタネーター(L端子)配線を行ってください。	71
リモコンでエンジン始動操作をすると始動操作を行うが、エンジンはかからない。	車のバッテリーが弱っていませんか?	車のバッテリーを点検し、正常な状態にしてください。	—
	車のシフトがPレンジ以外に入っていないですか?	シフトレバーをPレンジに入れてください。	—
リモコンでエンジン始動操作してもエンジンが始動せず、エンジンスターターユニットから警告音「ピーピー…」が鳴り続ける。	車種別専用ハーネスの品番は正しいですか?	「EGSシリーズ適用車種一覧表」の最新版を再度確認してください。車の車種名・年式・型式を照合後、品番が正しい場合は、当社技術サービスまでお問い合わせください。 ※警告音はエンジンキーをONにすれば停止します。	—
	ターボタイマーが動作しない。	フットブレーキを踏んだままエンジンキーをOFFにいませんか? (フットブレーキ配線を行った場合。)	フットブレーキを踏まずにエンジンキーをOFFにしてください。
ドアがロック/アンロックしない。	車のシフトがPレンジ以外に入っていないですか?	シフトレバーをPレンジに入れてください。	—
	ターボタイマーの設定を行っていますか?	ターボタイマーの設定を行ってください。	50
	エンジン30秒以上かきましたか?	30秒以上かけてください。	—
	ドアロックハーネスがしっかりと接続されていますか?	接触不良のないよう確実に接続してください。	58~59
ドアロックハーネス(黄コードと青コード)の接続先が間違っていないですか?	ドアロックハーネスのヒューズが切れていませんか?	ヒューズ切れの要因を解決してから、ヒューズを交換してください。	—
	ドアロックハーネスのヒューズが切れていませんか?	ヒューズ切れの要因を解決してから、ヒューズを交換してください。	—
	ハザードランプが点滅しない。	ハザードハーネス(赤/白コードと緑コード)の接続先が間違っていないですか?	接続先を確認してください。
ハザードランプが点滅しない。	ハザードハーネスのヒューズが切れていませんか?	ヒューズ切れの要因を解決してから、ヒューズを交換してください。	—
	電波到達距離が短い。	リモコンの電池が消耗していませんか?	充電を行うか、当社指定の新しい電池と交換してください。
	リモコンのアンテナが体の一部に触れていませんか?	アンテナに触れないようにしてください。	—

その他

その他

 危険	<ul style="list-style-type: none"> 電池の⊕⊖の逆挿入は絶対にしないでください。電池が漏液・発熱・破裂し、故障の原因となります。 ニッケル水素電池の液が、誤って目に入った場合は、こすらず、ただちに水道水で充分洗浄し、すぐに医師の診断を受けてください。失明の原因となります。
 警告	<ul style="list-style-type: none"> リモコンの電池を交換した際は、幼児の手の届かないところにおいて、早めに処分してください。万一飲み込んでしまった場合やもれた液をなめたりした場合は、すぐにうがいをし、医師に相談してください。
 注意	<ul style="list-style-type: none"> 長期間リモコンを使用しない場合は、すみやかに電池をリモコンから取り出してください。電池の漏液や錆の発生・電池の性能低下や寿命低下の原因となります。 ネジを締めるときは、締めすぎたり、ゆるまないうきちんと締めてください。部品の紛失や損傷の原因となります。 リモコンの内部を損傷させたり、異物を入れたりしないでください。故障の原因となります。

電池の交換方法については、17ページの「電池の挿入」を確認してください。

- メモ**
- 充電電池は消耗品です。充放電を繰り返すことで、徐々に使用できる時間が短くなります。約1年毎の交換をお奨めします。
 - 電池は温度の影響を受け易い性質を持っております。例えば、冬の寒い環境で使用した場合、暖かい環境で使用したときに比べ「電池残量アイコン」が早く減る傾向となります。室内に入るなどして温度が上がると、減っていたはずの「電池残量アイコン」が増えることもあります。
 - 使い終わった電池の⊕および⊖端子部にテープなどを貼り、絶縁して各自治体の指示にしたがって、処分してください。

当社指定充電電池: Panasonic製 ニッケル水素電池 単4形 HHR-4SPS

リモコンの購入について

リモコンは、最大4個(本品リモコン含む)まで登録可能です。
 リモコンの増設や紛失・破損をした場合は、リモコンのみ購入ができます。お買い求めの際は、販売店に注文してください。

- メモ**
- リモコンを購入していただくだけで、お客様自身で簡単にリモコンの登録ができます。なおV-10の場合、エンジンスターター機能を操作できるリモコンは、1個しか登録できません。他のリモコンは、警報機操作のみとなります。これは、2003年12月26日付国土交通省発表の安全対策についての指導に基づいています。

●リモコン

型式名	: SHX-01
技術基準	: ARIB STD-T67特定小電力無線局 テレメータ用・テレコントロール用 およびデータ伝送用無線設備
通信方式	: 単信方式
電波の型式	: F1D
使用周波数	: 429MHz
空中線電力	: 10mW以下
スイッチ	: SET/RST/STG/FUNC
アンテナ	: ヘリカルアンテナ
動作温度範囲	: -10℃～+50℃
充電可能温度範囲	: +5℃～+35℃
定格電圧	: DC1.2V
使用電池	: Panasonic製 ニッケル水素電池 単4形 HHR-4SPS
重量	: 44.5g(電池除く)
外観寸法	: 91mm×36mm×21.5mm
	<H×W×D>

●本体

動作温度範囲	: -20℃～+70℃
電源電圧	: DC12V(DC9V～16V)
消費電流	: 待機時 6mA以下
(DC12V時)	: 警戒時 7mA以下
	: 省エネモード時 5.5mA以下
	: スリープモード時 1.5mA以下
重量	: 132g
外観寸法	: 24mm×120mm×80mm
	<H×W×D>

●エンジンスターターユニット(V-10)

動作温度範囲	: -20℃～+70℃
電源電圧	: DC12V(DC9V～16V)
消費電流	: 待機時 3.5mA以下
(DC12V時)	: スリープモード時 1.6mA以下
重量	: 120g
外観寸法	: 26.5mm×118mm×75mm
	<H×W×D>

●アンテナユニット

型式名	: SMX-01
技術基準	: ARIB STD-T67特定小電力無線局 テレメータ用・テレコントロール用 およびデータ伝送用無線設備
通信方式	: 単信方式
電波の型式	: F1D
使用周波数	: 429MHz
空中線電力	: 10mW以下
アンテナ	: 可倒式ラバーアンテナ
動作温度範囲	: -20℃～+70℃
消費電流	: 待機時 9.5mA以下
(DC12V時)	: 警戒時 11.5mA以下
	: 省エネモード時 11mA以下
	: スリープモード時 0mA
重量	: 80g
外観寸法	: 165mm×45mm×62mm
	<H×W×D>

●振動センサー

動作温度範囲	: -20℃～+70℃
消費電流	: 警戒時 3mA以下
重量	: 20g
外観寸法	: 20mm×52.7mm×33.3mm
	<H×W×D>

●サイレン

動作温度範囲	: -20℃～+80℃
消費電流	: 1.0A(吹鳴時平均値)
重量	: 150g(本体のみ)
外観寸法	: 58.5mm×58.5mm×66.5mm
	<H×W×D>

※仕様および外観は、予告なく変更することがあります。

設定内容確認表

お取り付け時に、設定内容を記入してください。
万が一不具合が発生した場合に必要となります。

- リモコンのIDコード(IDコードはリモコンの裏面にあります。)

No.	
No.	(←増設した場合)
No.	(←増設した場合)
No.	(←増設した場合)

- MODEスイッチメニュー設定状態(設定した方へ○を付けてください。)

【MODE1スイッチ】

<input type="checkbox"/> 1	動作確認音	:	OFF	ON
<input type="checkbox"/> 2	スタンバイモード時間切替	:	OFF	ON
<input type="checkbox"/> 3	OP1センサーレベル	:	OFF	ON
<input type="checkbox"/> 4	OP2センサーレベル	:	OFF	ON
<input type="checkbox"/> 5	車載ホーン配線	:	OFF	ON
<input type="checkbox"/> 6	動作確認音選択	:	OFF	ON
<input type="checkbox"/> 7	本警報 警報音選択	:	OFF	ON
<input type="checkbox"/> 8	注意警報 警報音選択	:	OFF	ON
<input type="checkbox"/> 9	威嚇警報 警報音選択	:	OFF	ON
<input type="checkbox"/> 10	リモコン登録	:	OFF	ON

【MODE2スイッチ】

<input type="checkbox"/> 1	EGSパワースイッチ	:	OFF	ON
<input type="checkbox"/> 2	EGS機能設定	:	OFF	ON
<input type="checkbox"/> 3	ガソリン/ディーゼル切替	:	OFF	ON
<input type="checkbox"/> 4	ターボタイマー	:	OFF	ON

【MODEスイッチ(V-10のみ)】

<input type="checkbox"/> 1	シフト検出	:	OFF	ON
<input type="checkbox"/> 2	始動検出	:	OFF	ON

- オプションセンサーの接続

() ()
() ()

- その他オプションの接続

あり / なし(機種:)

メモ

アフターサービスについて

- 使用中に正常に動作しなくなった場合

本書74~75ページの「故障かな?と思ったら」を確認してください。
該当箇所の確認を行っても改善が見られない場合は、お買い上げ店または当社技術サービスにお問い合わせください。

- 修理について

下記商品に不具合内容を記入したメモを添えて、お買い上げの販売店に依頼してください。
リモコン・アンテナユニット・本体・振動センサー・サイレン・エンジンスターターユニット(V-10のみ)
なお保証範囲については、保証規定をご確認ください。
保証期間を過ぎた場合や使用上の不注意による故障等は、保証の対象となりません。

保証範囲や条件など詳しい内容について、ご説明します。必ずお読みください。

〈保証規定〉

本品は、厳重な品質管理のもとに製造され、検査に合格し、出荷されております。お客様のご使用中に、万が一故障が発生した場合は、本保証書の記載内容に基づき、無償修理させていただきます。

修理の際は、下記商品に不具合内容を記入したメモを添えて、お買い上げの販売店に依頼してください。
リモコン・アンテナユニット・本体・振動センサー・サイレン・エンジンスターターユニット(V-10のみ)

- 本保証書は日本国内に於いてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.

- 本保証書は再発行致しませんので、大切に保管してください。

なお下記に該当する場合は、保証期間内であっても保証の対象となりません。

1. お客様の故意または過失による故障と認められた場合。
2. 本品を分解・改造した形跡が認められた場合。
3. 地震・台風・水害などの天災ならびに火災・事故・その他紛争等による損傷が認められた場合。
4. 適応外車両へのお取り付けや当社専用ハーネスをお使いになっていない場合。
5. 当社指定以外の商品を本品に取り付けたことにより、発生した故障・損害等。
6. 取付・取扱説明書中の注意事項を守らなかったことにより、発生した故障・損害等。
7. 保証書が提示されない場合や記載事項に不足がある場合。

- 消耗部品(電池等)やリモコンのケース破損は保証対象外です。

- 修理によって生じた交換部品は、原則としてお返し致しません。

- 本品の製造を終了してから5年を過ぎた場合、使用部品の製造中止等により、修理ができない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

Guardog V-1
MITSUBA SPECIAL CAR SECURITY ALARM SYSTEM

取付・取扱説明書

V-10

製造・販売元 株式会社 **ミツバサンコーワ**

〒376-0102 群馬県みどり市大間々町桐原3546-1

●お取り付け等、技術的なお問い合わせ窓口：株式会社ミツバサンコーワ 技術サービス

TEL. 0277-72-4588

Y-080-001-B